

解

509.12-K099ウ



1200500744656

509.12
K0.99

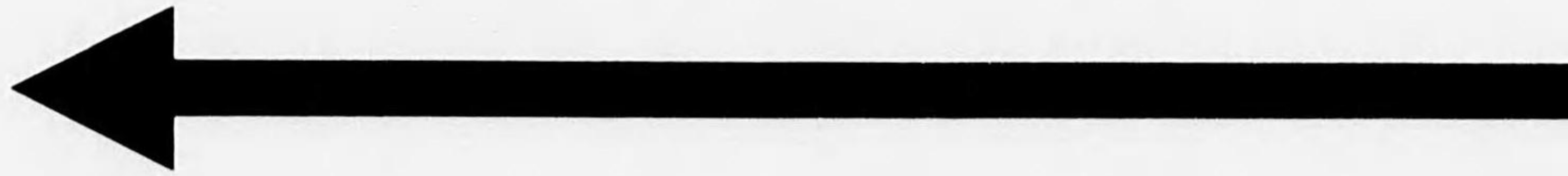
工場管理研究所編

軍需會社と徵用法規集

×
複写



始



別

509.12

Ko.99



軍需會社と徵用法規集



1004
64

序 軍需會社法と勤勞法規の關係

戦局の現段階に即應し軍需生産の急速なる増強特に航空戦力の飛躍的擴充を圖る爲政府は曩に軍需會社法を制定公布し軍需會社に於ける企業の國家性と生産責任制とを確立した。

軍需會社の全員は同法第六條の規定に依り徵用されたものと看做さるることとなり、軍需會社法に依る指定と同時に軍需會社徵用規則に依り指定が行はれることとなり已に一月、四月の二回に涉り其の指定が行はれた。

現在重要工場事業場に適用せられてゐる國民徵用令と重要事業場勞務管理令とは戦時下勤勞動員及管理に關する勤勞法規の二大根幹と謂ふべきである。軍需會社には國民徵用令と重要事業場勞務管理令とが併行的に適用さるることとなり軍需會社徵用規則に依り指定を受けたる會社、工場は同規則第九條（國民徵用令第十八條第二項ノ準用規定）の規定に依り軍需被徵用者の給與に關する事項に付き厚生大臣の認可を受けねばならぬ。然しながら重要事業法勞務管理令に依り已に認可を受けたる事項に關しては改めて認可を受くるの要なく（參照 國民徵用令施行規則第十三條ノ二）又國民徵用令に依り認可を受けたる事項に關しては管理令に依る認可を受くるの要はない譯であるが（參照 管理令施行規則第一條二項）其の認可を受くべき事項

は管理令第四條及第十條に定むる従業規則、賃金規則、給料規則、昇給内規等に付き厚生大臣の認可を受ければよい譯である、而して以上の認可申請は地方長官（東京都ニ在リテハ監視總監）を經由して爲すこととなつて居る。

本書は軍需會社法、國民徵用令、重要事業場勞務管理令及従業規則、賃金規則等を編纂し、會社、工場に於ける實務の參考書としたものである。

昭和十九年六月

目次

序文	軍需會社法と勤勞法規の關係	一
第一編	軍需會社法關係法規	一
一	軍需會社法	一
二	軍需會社法施行令	七
三	軍需會社法施行規則	一七
四	軍需會社等ニ關スル登記取扱手續	二六
五	軍需省告示第三十號	三七
第二編	國民徵用令關係法規	三九
一	國民徵用令	三九
二	國民徵用令施行規則	五〇
三	國民徵用令施行規則第十七條第一項第二號ノ規定ニ依ル徵用變更又ハ徵用解除ノ場合指定	五五
四	軍需會社徵用規則	六六

五 軍需會社徵用規則第四條第十四號ノ指定者	三三
六 應徵士服務紀律	三四
七 國民徵用扶助規則	三五
八 國民徵用扶助規則施行細則準則	三六
九 被徵用者旅客運賃割引證交付規程	三七
十 旅客及手荷物運送規則抄	三八

第三編 重要事業場勞務管理令關係法規

一 重要事業場勞務管理令	三九
二 重要事業場勞務管理令施行規則	四〇
三 重要事業場勞務管理令中職權委任	四一

第四編 重要事業場勞務管理令に基く諸規則等の記載例

一 職員從業規則記載例	四二
二 工員從業規則記載例	四三
三 職員給料規則記載例	四四
四 職員昇給内規記載例	四五

五 工員賃金規則記載例	四六
六 工員賃金規則記載注意	四七
七 工員昇給内規記載例	四八
八 從業員教養計畫記載例	四九
九 從業員ニ對スル體育計畫記載例	五〇
十 厚生施設計畫基準	五一

附 軍需會社一覽

第一編 軍需會社法關係法規

一 軍需會社法 (昭和十八年十月三十一日法律第百八十八號)

第一條 本法ハ兵器、航空機、艦船等重要軍需品其ノ他軍需物資ノ生産、加工及修理ヲ爲ス事業其ノ他軍需ノ充足上必要ナル事業ニ付其ノ經營ノ本義ヲ明シ其ノ運營ヲ強力ナラシメ以テ戦力ノ増強ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 本法ニ於テ軍需會社トハ兵器、航空機、艦船等重要軍需品其ノ他軍需物資ノ生産、加工及修理ヲ爲ス事業(以下軍需事業ト稱ス)ヲ營ム會社ニシテ政府ノ指定スルモノヲ謂フ

軍需事業ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 軍需會社ハ戦力増強ノ國家要請ニ應ヘ全力ヲ發揮シ責任ヲ以テ軍需事業ノ遂行ニ當ルベシ

第四條 軍需會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生産責任者ヲ選任スベシ

軍需會社生産責任者ヲ選任セザルトキハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ生産責任者ヲ任命スルコトヲ得

生産責任者ハ政府ニ對シ軍需會社ノ實務遂行ニ關シ會社ヲ代表シテ其ノ責ニ任ズルモノトス

生産責任者ノ會社ノ代表及業務執行竝ニ之ニ伴フ事項ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需會社選任又ハ任命セラレタル生産責任者ヲ解任セントスル場合ニ於テハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ解任ハ效

カヲ生ゼズ

政府生産責任者ヲ不適任ト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第五條 生産責任者ハ本店又ハ軍需事業ヲ營ム工場若ハ事業場ニ於ケル業務ニ關シ生産擔當者ヲ任命スルコトヲ得

生産擔當者ハ政府ニ對シ生産責任者ノ指揮ニ從ヒテ擔當業務ヲ遂行スルノ責ニ任ズルモノトス

政府ハ生産責任者ニ對シ生産擔當者ヲ置クベキコト又ハ解任スベキコトヲ命ズルコトヲ得生産擔當者ノ職務權限ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 命令ノ定ムル所ニ依リ生産責任者及生産擔當者竝ニ軍需會社ノ營ム軍需事業ニ従事スル者ハ國家總動員法ニ依リ徵用セラレタルモノト看做ス

前項ニ規定スル者ノ業務従事等ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 軍需會社ノ職員其ノ他ノ從業者ハ其ノ擔當業務ニ従事スルニ付生産責任者及生産擔當者ノ指揮ニ從フベシ

第八條 政府ハ軍需會社ニ對シ期限、規格、數量其ノ他必要ナル事項ヲ指定シ軍需物資ノ生産、加工又ハ修理ヲ命ズルコトヲ得

第九條 政府ハ軍需會社ニ對シ受註若ハ發註、設備ノ新設、擴張若ハ改良、原料若ハ材料ノ取得、使用、保管若ハ移動、技術ノ改良若ハ公開、試験研究其ノ他事業ノ運営ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲シ又ハ政府ノ指定シタル事業以外ノ事業ヲ營ムコトヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

第十條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ軍需會社ニ對シ其ノ勤勞管理竝ニ資金調整及經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 政府ハ軍需會社又ハ軍需事業ノ遂行ニ關係アル者ニ對シ其ノ間ニ於ケル軍需事業ノ遂行上必要ナル協力關係ノ設

定ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ軍需會社ニ對シ定款ノ變更、事業ノ委託、受託、讓渡、廢止若ハ休止、合併若ハ解散又ハ事業ニ屬スル設備若ハ權利ノ讓渡其ノ他ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府第八條、第九條、第十一條及前條ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ軍需會社(第十一條ノ軍需事業ノ遂行ニ關係アル者ヲ含ム)ニ對シ補助金ノ交付、損失ノ補償又ハ利益ノ保證ヲ爲スコトヲ得

第十四條 軍需會社ノ業務執行、株主總會、社員總會及社債權者集會ノ招集及決議其ノ他軍需會社ノ運営ニ關シテハ他ノ法律ノ規定ニ拘ラス命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條 軍需會社ニ關シテハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ統制、取締等ニ關スル法律ノ規定ニ付其ノ適用ヲ排除シ又ハ特例ヲ設クルコトヲ得

第十六條 政府ハ軍需會社ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 政府ハ軍需會社ノ事業運営ニ關シ審査ヲ爲スコトヲ得
前項ノ審査ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 政府ハ軍需會社ノ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、工場、事業場其ノ他ノ場所ヲ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第十九條 政府ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス命令若ハ處分ノ效果ノ確保上支障アリト認ムルトキ

ハ軍需會社ノ取締役若ハ監査役ヲ解任シ又ハ業務ヲ執行スル社員ノ業務執行權ヲ喪失セシムルコトヲ得

第二十條 生産責任者又ハ生産擔當者職務ヲ懈リ其ノ責任ヲ果サザルトキハ之ニ對シ左ノ懲戒ヲ行フコトヲ得

- 一 解任
- 二 譴責

懲戒ハ政府軍需生産責任審査會ノ議決ニ依リ之ヲ行フ

軍需會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ懲戒解任ノ處分ヲ受ケタル生産責任者又ハ生産擔當者取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ナルトキハ之ヲ解任シ又ハ業務執行權ヲ喪失セシメ其ノ他ノ者ナルトキハ之ヲ解雇スベシ

軍需會社ハ政府ノ指示ニ從ヒ前項ノ規定ニ該當スル者ニ對シ退職金ノ全部又ハ一部ヲ支給スルコトヲ得ズ

軍需會社ハ政府ノ指示ニ從ヒ譴責ノ處分ヲ受ケ其ノ情狀重キ者ニ對シ一定ノ給與ヲ減ズベシ

懲戒ノ處分ハ之ヲ公示ス

軍需生産責任審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需事業ヲ營ム會社其ノ他ノ法人又ハ軍需事業ニ關スル統制會若ハ統制會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ懲戒解任ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ其ノ理事、取締其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員タルモノヲ解任シ又ハ其ノ業務執行權ヲ喪失セシムベシ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

軍需事業ヲ營ム會社其ノ他ノ法人又ハ軍需事業ニ關スル統制會若ハ統制會社ハ懲戒解任ノ處分ヲ受ケタル者ヲ其ノ處分アリタル日ヨリ二年間理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ト爲スコトヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 軍需會社ノ職員其ノ他ノ從業者故ナク生産責任者又ハ生産擔當者ノ指揮ニ從ハザルトキハ之ニ對シ左ノ懲戒ヲ行フコトヲ得

- 一 譴責
- 二 訓告

懲戒ハ政府生産責任者又ハ生産擔當者ノ具狀ニ依リ之ヲ行フ

軍需會社ハ政府ノ指示ニ從ヒ譴責ノ處分ヲ受ケ其ノ情狀重キ者ニ對シ一定ノ給與ヲ減ジ及一定期間内昇給ヲ停止スベシ

第二十二條 本法中必要ナル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノモノ及軍需ノ充足上必要ナル軍需事業以外ノ事業ヲ營ム國防其ノ他ノ者ニ對シ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

一 第九條ノ規定（前條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ基キテ發スル命令又ハ同條ノ規定ニ依ル處分若ハ制限若ハ

禁止ニ違反シタル者

二 第十條ノ規定（前條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第十一條ノ規定（前條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十二條ノ規定（前條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十六條ノ規定（第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ基キテ發スル命令又ハ同條ノ規定ニ依ル處分ニ違

反シタル者

二 第十八條第一項ノ規定(第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第二十五條 第十八條第一項ノ規定(第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨
グ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第二十三條又ハ
第二十四條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本條ノ罰金刑ヲ科ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

六

二 軍需會社法施行令

(昭和十八年十二月十五日
勅令第九百二十八號)

第一條 軍需會社法第二條第一項ノ軍需事業ハ左ニ掲グル軍需物資ノ生産、加工又ハ修理ヲ爲ス事業トス

一 兵器、航空機、艦艇、船舶及車輛並ニ其ノ部品

二 鐵鋼、輕金屬及非鐵金屬、稀有金屬、其ノ他ノ重要鑛產物

三 液體燃料及潤滑油並ニ石炭、ガス、コークス及電力

四 重要化學工業品

五 重要機械器具及其ノ部品

六 前各號ニ掲グル物資ノ生産、加工又ハ修理ニ要スル原料及材料

七 前各號ニ掲グル物資ノ外主務大臣ノ指定スル軍需物資

第二條 生産責任者ハ一軍需會社ニ付一人トス

第三條 軍需會社法第四條第一項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ選任ハ株式會社又ハ有限會社ニ在リテハ取締役、合名會社ニ在
リテハ社員、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第四條 軍需會社法第四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ選任又ハ任命ハ合名會社ニ在リテハ社員、合資會社
又ハ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ中ヨリ之ヲ爲スベシ

第五條 特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル會社ニシテ政府ノ任命ニ係リ又ハ選任ニ付政府ノ認可ニ係ル總裁、社長、理事長

七

其ノ他會社ヲ代表シ業務ヲ總理スベキ役員アルモノニ付テハ此等ノ役員ニ非ザレバ生産責任者タルコトヲ得ズ

第六條 生産責任者ハ軍需會社ヲ代表シ其ノ業務ヲ總理ス

取締役又ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員ニシテ生産責任者ニ非ザルモノハ生産責任者ヲ輔佐シ軍需會社ノ業務ヲ分掌シ豫メ生産責任者ノ定ムル順位ニ依リ生産責任者事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ生産責任者缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

第七條 生産責任者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

生産責任者タル合名會社ノ社員又ハ合資會社若ハ株式合資會社ノ無限責任社員ハ生産責任者ノ職ヲ辭スルト同時ニ非ザレバ社員又ハ無限責任社員タル地位ヲ退クコトヲ得ズ

第八條 生産擔當者ハ生産責任者ニ代リテ當該本店又ハ工場若ハ事業場ニ於ケル當該軍需事業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

生産擔當者ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

生産擔當者ヲ置キタルトキハ當該本店又ハ工場若ハ事業場ノ所在地ニ於テ生産擔當者ノ氏名及住所竝ニ生産擔當者ヲ置キタル場所ヲ登記スルコトヲ要ス登記シタル事項ノ變更及代理權ノ消滅ニ付亦同ジ

前項ノ登記ハ支配人登記簿ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第九條 主務大臣ハ軍需會社ニ對シ其ノ營ム軍需事業ニ從事スル者ノ使用、解雇、從業、退職、給與其ノ他勤勞管理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 主務大臣ハ軍需會社ニ對シ其ノ營ム軍需事業ニ關シ利益金ノ處分、償却、經理方法其ノ他會社ノ經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 主務大臣ハ軍需會社ニ對シ定款ノ變更、事業ノ委託、受託、讓渡、廢止若ハ休止、合併若ハ解散又ハ事業ニ屬スル設備若ハ權利ノ讓渡、賃貸其ノ他ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

軍需會社前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタルトキハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ當該命令事項ヲ行フコトヲ得

主務大臣第一項ノ規定ニ依リ事業ノ委託、受託、讓渡若ハ讓受、合併又ハ事業ニ屬スル設備若ハ權利ノ讓渡、賃貸其ノ他ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得於テハ其ノ對價、條件、權利移轉ノ時期其ノ他當該軍需會社間ニ於テ協議決定スベキ事項ニ付協議ヲ爲スベキ期間ヲ指定ス

前項ノ期間内ニ協議ヲ爲スコトヲ能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣又ハ其ノ指定スル官吏ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前條第四項ノ決定ニ於テ定メタル對價ヲ支拂ベキ者ハ對價ヲ受クベキ者ガ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハザルトキハ其ノ對價ヲ供託スルコトヲ要ス

第十三條 第十一條第四項ノ規定ニ依リ讓渡又ハ讓受ニ付決定アリタルトキハ所有權ハ其ノ對價ノ全部ノ支拂又ハ供託アリタル時移轉ス第十一條第四項ノ規定ニ依リ委託、受託又ハ賃貸ニ付決定アリタルトキハ委託、受託又ハ賃貸ハ其ノ對價ノ全部(定期拂ノ場合ニ在リテハ第一回分ノ對價ノ全部)ノ支拂又ハ供託アリタル時其ノ效力ヲ生ズ

第十四條 知レタル擔保權ノ目的タル設備又ハ權利ニ付第十一條第一項ノ規定ニ依ル委託、受託、讓渡、讓受又ハ賃貸ノ命令アリタル場合ニ於テ當該擔保權ヲ消滅セシムルニ非ザレバ軍需事業ノ運營ヲ強力ナラシムルコト困難ナルトキハ當事者ハ擔保權ノ處理ニ付擔保權者ニ協議スルコトヲ得

前項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコトヲ能ハザル場合ニ於テ當事者又ハ擔保權者ノ申請アリタルトキハ主務大臣又ハ其ノ指定スル官吏ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

第十五條 前項ノ規定ハ知レタル賃借權其ノ他ノ權利ノ目的タル設備又ハ權利ニ付第十一條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 委託、讓渡又ハ賃貸ヲ受クル設備又ハ權利ニ付知レタル擔保權ノ存スル場合ニ於テ當該擔保權ガ第十四條ノ規定ニ依リ消滅スルトキハ當該設備又ハ權利ノ對價ヲ支拂フベキ者ハ其ノ對價ヲ供託スルコトヲ要ス但シ同條ノ協議又ハ決定ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ當該擔保權者ハ供託金ニ對シ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十七條 前六條ニ規定スルモノノ外軍需會社法第十二條ノ規定ニ基ク命令ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 軍需會社（軍需會社法第十一條ノ軍需事業ノ遂行ニ關係アル者ヲ含ム）ガ軍需會社法第八條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ受ケタルニ因リ損失ヲ蒙リ若ハ適正利潤ヲ得ルコト能ハザリシ場合又ハ其ノアル場合ニ於テ軍需會社（軍需會社法第十一條ノ軍需事業ノ遂行ニ關係アル者ヲ含ム）ノ請求アリタルトキハ主務大臣ハ軍需會社法第十三條ノ規定ニ依ル補助金ノ交付、損失ノ補償又ハ利益ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失トス

第一項ノ規定ニ依リ補償スベキ損失又ハ保證スベキ利益ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

前三項ニ定ムルモノノ外第一項ノ補助金ノ交付、損失ノ補償又ハ利益ノ保證ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 株式會社又ハ株式合資會社タル軍需會社ニ在リテハ商法第三百四十三條（同法第四百六十七條第二項ニ於テ準用

スル場合ヲ含ム）ニ定ムル決議ヲ要スル事項ニ付其ノ決議ニ代ヘ同法第二百三十九條第一項ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ得前項ノ規定ハ會社ノ目的ノ變更ニ關スル事項ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ軍需會社法第十二條ノ規定ニ基ク定款ノ變更ノ命令アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 生産責任者ハ軍需事業ノ運営上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ株主總會若ハ社員總會ノ決議、取締役、社員若ハ無限責任社員ノ過半数ノ同意又ハ總社員ノ同意ヲ要スル事項ニ付其ノ決議ニ拘ラズ又ハ其ノ同意ヲ得ズシテ業務ヲ執行スルコトヲ得株主總會若ハ社員總會成立セズ又ハ株主總會ニ付議シタル事項ヲ議決セザルトキ亦同ジ

第二十一條 株式會社、株式合資會社又ハ有限會社タル軍需會社ニ在リテハ生産責任者ハ軍需會社法第八條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ基ク主務大臣ノ命令事項ヲ執行スル爲テ必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ株主總會又ハ社員總會ノ決議ヲ要スベキ事項ニ付其ノ手續ヲ經ルコトヲ要セズ此ノ場合ニ於テハ生産責任者ハ次回ノ株主總會又ハ社員總會ニ於テ其ノ旨ヲ報告スベシ

前項ノ規定ハ會社ノ目的ノ變更、資本ノ増加若ハ減少、事業ノ全部ノ讓渡又ハ合併若ハ解散ニ關スル事項ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ軍需會社法第十二條ノ規定ニ基キ當該事項ニ關シ特ニ定款ノ變更、事項ノ讓渡又ハ合併若ハ解散ノ命令アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 軍需會社株主總會又ハ社債權者集會ヲ招集スルニハ商法第二百三十二條（同法第二百三十九條第一項及第四百五十八條第二項ニ擔保附社債信託法第五十一條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ拘ラズ會日ヨリ二週間前ニ總會ヲ開クベキ旨及會議ノ目的タル事項ヲ公告スルヲ以テ足ル

第二十三條 生産責任者ハ軍需事業ノ運営上必要アリト認ムル場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ株主又ハ會社ノ債權者ニ對シ財産目錄、貸借對照表、營業報告書若ハ損益計算書ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ會社ノ業務及財産ノ狀況ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得

生産責任者軍需事業ノ運営上特ニ必要アリト認ムルトキハ貸借對照表ハ之ヲ公告スルコトヲ要セズ

第二十四條 軍需會社ニ關スル登記ハ非訟事件手續法ノ規定ニ拘ラズ生産責任者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

第二十五條 主務大臣軍需會社ノ運営ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル法律及其ノ施行ニ係ル勅令中統制、取締等ニ關スル規定ノ適用ヲ排除シ又ハ其ノ特例ヲ設クルコトヲ得

航空機製造事業法

造船事業法

自動車製造事業法

工作機械製造事業法

重要機械製造事業法

有機合成事業法

製鐵事業法

輕金屬製造事業法

石油業法

人造石油製造事業法

瓦斯事業法

電氣事業法

鑛業法

產金法

石油資源開發法

日本製鐵株式會社法

帝國鑛業開發株式會社法

帝國石油株式會社法

日本發送電株式會社法

鹽專賣法

市街地建築物法

公有水面埋立法

森林法

工場法

第二十六條 主務大臣軍需會社ノ運営ニ關シ特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル勅令中統制、取締等ニ關スル規定ノ適用ヲ排除シ又ハ其ノ特例ヲ設クルコトヲ得
質金統制令

重要事業場勞務管理令

會社經理統制令

臨時農地等管理令

企業許可令

價格等統制令

地代家賃統制令

宅地建物等價格統制令

臨時農地價格統制令

都市計畫法施行令

第二十七條 主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ部内ノ勅任官ノ中ヨリ考查官ヲ命ジ軍需會社ノ事業運營ニ關シ考查ニ當ラ

シムルコトヲ得

考查官ニハ隨員ヲ附シ考查官ノ職務ヲ助ケシム

隨員ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ主務大臣之ヲ命ジ又ハ委囑ス

第二十八條 軍需會社ハ第五條ノ役員ニシテ政府ノ任命ニ係ルモノヲ除クノ外軍需會社法第二十條ノ規定ニ依ル懲戒解任ノ

處分ヲ受ケタル生産責任者又ハ生産擔當者ニ對シ遲滯ナク同法第二十條第三條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スベシ

前項ノ處分ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ生産責任者之ヲ爲ス

第二十九條 軍需會社法第二十條第七項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スベキ軍需事業ヲ營ム會社其ノ他ノ法人ハ命令ノ定ムル規模

以上ノ會社其ノ他ノ法人トス

前條ノ規定ハ軍需事業ヲ營ム會社其ノ他ノ法人又ハ軍需事業ニ關スル統制會若ハ統制會社軍需會社法第二十條第七項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スベキ場合ニ之ヲ準用ス但シ前條第二項中生産責任者トアルハ生産責任者其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員トス

第三十條 第一條乃至第十八條、第二十條、第二十五條乃至前條及條三十一條乃至第三十六條並ニ軍需會社法第二條乃至第十八條、第二十條及第二十一條ノ規定ハ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノモノニ之ヲ準用ス但シ法人ニ非ザル人ニ在リテハ當該事業主ニ非ザレバ生産責任者タルコトヲ得ズ

法人ニ非ザル事業主ニシテ生産責任者タルモノハ生産責任者ノ職ヲ辭スルト同時ニ非ザレバ事業主タル地位ヲ退クコトヲ得ズ

第三十一條 第七條中主務大臣トアリ軍需會社法第二條及第四條中政府トアルハ當該軍需會社ノ營ム軍需事業ガ軍需大臣及他ノ大臣ノ所管ニ屬スルモノニ付テハ軍需大臣トス但シ他ノ大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナル場合ニ於テ軍需大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル軍需事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 第九條中主務大臣トアリ軍需會社法第十條中勤勞管理ニ關スル事項ニ付政府トアルハ軍需大臣ノ所管ニ屬スル物資又ハ電力ノ生産、加工又ハ修理ヲ目的トスル軍需會社(他ノ目的ノ企業ヲ兼營スル場合ニ於テハ當該部分ニ限ル)ニ付テハ軍需大臣トシ其ノ他ノ軍需會社ニ付テハ厚生大臣トス

第三十三條 第十條中主務大臣トアリ軍需會社法第十條中經理ニ關スル事項ニ付政府トアルハ當該軍需會社ノ營ム軍需事業(造船事業法ノ適用ヲ受クル部分ヲ除ク)ガ軍需大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ所管ニ屬スルモノニ付テハ軍需大臣トス

第三十四條 第三條ノ場合及軍需會社法第十條中資金調整ニ關スル事項ヲ除クノ外主務大臣トアリ軍需會社法ニ於テ政府トアルハ當該軍需會社ノ營ム軍需事業ノ所管大臣(軍需大臣ノ所管ニ屬スル軍需事業ニ於ケル經理統制ニ係ル増配ニ關スル事項ニ付テハ大藏大臣)トス

第三十五條 第二十五條及第二十六條中主務大臣トアルハ當該會社ノ營ム軍需事業ノ所管大臣及法律又ハ勅令ノ規定ノ適用ヲ排除シ又ハ其ノ特例ヲ設クベキ事項ノ所管大臣トス

第三十六條 第三十一條ノ規定ニ依リ軍需大臣ガ左ニ掲グル事項ヲ爲サントスルトキハ當該軍需會社ノ營ム軍需事業ノ所管大臣ニ協議スベシ

- 一 軍需會社法第二項第一項ノ規定ニ依ル指定
- 二 軍需會社法第四條第二項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ任命
- 三 軍需會社法第四條第五項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ解任ノ認可
- 四 軍需會社法第四條第六項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ解任
- 五 第七條第一項ノ規定ニ依ル生産責任者ノ辭職ノ認可

附則

本令ハ軍需會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三 軍需會社法施行規則

(昭和十八年十二月十六日
軍需、内務、大藏、陸軍、海軍、厚生、農商、運輸通信省令第一號)

第一條 主務大臣軍需會社法第二條第一項ノ規定ニ依リ軍需會社ヲ指定スル場合ニ於テハ軍需事業ヲ營ム會社ニ對シ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル指定令書ヲ交付スベシ

- 一 會社ノ名稱及所在地
- 二 軍需事業ノ種類並ニ當該軍需事業ヲ行フ工場事業場ノ名稱及所在地
- 三 其ノ他必要ト認ムル事項

前項ノ規定ハ主務大臣前項第二號若ハ第三號ニ掲グル事項ヲ變更シ又ハ軍需會社ノ指定ヲ取消ス場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣第一項ノ指定令書ヲ交付シタルトキハ當該會社名ニ變更アリタル場合及當該會社ニ付軍需會社ノ指定ヲ取消シタル場合亦同ジ

第二條 軍需會社ハ前條第一項ノ指定令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ生産責任者ヲ選任シ主務大臣ニ届出ツベシ
軍需會社前項ニ定ムル期間内ニ生産責任者ヲ選任セザルトキハ主務大臣ハ生産責任者ヲ任命スルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ハ生産責任者缺員トナリ又ハ軍需會社軍需會社法第四條第五項ノ規定ニ依リ生産責任者ヲ解任シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四條 生産責任者ハ解任又ハ主務大臣ノ認可ニ依リ辭職ノ場合ヲ除クノ外其ノ職ニ止マルモノトス

第五條 主務大臣軍需會社法第四條第六項ノ規定ニ依リ生産責任者ヲ解任シタルトキハ當該軍需會社ニ對シ其ノ旨ヲ通知スベシ

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ生産責任者ノ解任ノ通知アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 生産責任者生産擔當者ヲ任命シタルトキハ遲滯ナク主務大臣ニ届出ヅベシ

生産責任者生産擔當者ノ職務權限ヲ定メタルトキハ遲滯ナク主務大臣ニ届出ヅベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ

主務大臣前項ノ規定ニ依リ届出アリタル生産擔當者ノ職務權限ニ付必要アリト認ムルトキハ之ガ變更ヲ命ズルコトヲ得

第七條 軍需會社法第十三條ノ規定ニ依ル補助金ノ交付ヲ請求セントスル軍需會社ハ軍需會社法第八條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ受ケタル後三月以内ニ之ヲ請求スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ主務大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該命令事項ノ履行ヲ終リタル後又ハ當該軍需會社ノ營業年度ノ終リタル後三月以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第八條 軍需會社法第十三條ノ規定ニ依ル損失ノ補償ヲ請求セントスル軍需會社ハ軍需會社法第八條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ受ケタル事項ノ履行ヲ終リタル後三月以内ニ之ヲ請求スベシ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ主務大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ損失ヲ生ジタル都度又ハ當該軍需會社ノ營業年度ノ終リタル後三月以内ニ之ヲ請求スルコトヲ得

第九條 軍需會社法第十三條ノ規定ニ依ル利益保證ノ爲ノ契約ヲ請求セントスル軍需會社ハ軍需會社法第八條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ基ク命令又ハ處分ヲ受ケタル後三月以内ニ之ヲ請求スベシ

第十條 軍需會社軍需會社法第十三條ノ規定ニ依ル補助金ノ交付、損失ノ補償又ハ利益ノ保證ヲ請求セントスルトキハ左ニ

掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ主務大臣ニ提出スベシ

- 一 軍需會社ノ名稱及所在地
 - 二 請求ノ基礎ト爲ルベキ命令ノ要旨
 - 三 請求ノ事由
 - 四 請求金額ニ關スル事項
 - 五 其ノ他必要ト認ムル事項
- 第十一條 軍需會社法施行令第二十五條ノ規定ニ掲グル法律及其ノ施行ニ係ル勅令、閣令、省令又ハ告示中其ノ適用ヲ排除シ又ハ特例ヲ設クベキ事項ハ別表一ノ通之ヲ定ム
- 第十二條 軍需會社法施行令第二十六條ノ規定ニ掲グル勅令及其ノ施行ニ係ル閣令、省令、又ハ告示中其ノ適用ヲ排除シ又ハ特例ヲ設クベキ事項ハ別表二ノ通之ヲ定ム
- 第十三條 軍需會社ノ運営ニ關シ適用ヲ排除シ又ハ特例ヲ設クベキ省令及其ノ施行ニ係ル告示中其ノ適用ヲ排除シ又ハ特例ヲ設クベキ事項ハ別表三ノ通之ヲ定ム
- 第十四條 軍需會社法第十八條第二項ノ證票ハ別記様式ニ依ル
- 第十五條 軍需會社法施行令第二十九條第一項ノ規模ハ會社ニ在リテハ資本金二十萬圓以上組合ニ在リテハ組合員五十人以上ノモノトス
- 第十六條 前各條及附則第二項ノ規定ハ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノモノニ之ヲ準用ス

附則

本則ハ軍需會社法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 主務大臣工場事業場管理令ニ依ル管理工場事業場ヲ營ム會社其ノ他ノ者ニ對シ軍需會社法第二條ノ規定ニ依ル指定ヲ爲シタルトキハ第一條第一項(同條第二項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ指定令書ニ記載セラレタル工場事業場ニ付テハ指定令書ノ交付ノ日ヨリ工場事業場管理令ニ基ク管理ハ之ヲ廢止セラレタルモノト看做ス

〔別表 一〕

航空機製造事業法

第四條及第五條第一項ノ規定ハ軍需會社(其ノ營ム軍需事業ニシテ指定令書ニ掲グル範圍ノモノニ限ル以下同ジ)ニ對シテハ之ヲ適用セズ

造船事業法

第四條ノ規定ハ軍需會社ニ對シハ之ヲ適用セズ

自動車製造事業法

第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シハ之ヲ適用セズ

第八條ノ規定ニ依ル器具、機械又ハ材料ノ輸入、第十三條ノ規定ニ依ル事業計畫ノ設定又ハ變更及第十四條第一項ノ規定ニ依ル事業ノ休止ニ關シテハ軍需會社此等ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可又ハ認可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可又ハ認可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

製鐵事業法

第四條、第十八條及第十九條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第五條ノ規定ニ依ル設備ノ増設又ハ變更ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

輕金屬製造事業法

別記様式（用紙ノ大サハ日本標準規格B列八番ニ依ルモノトス）

（表面）

第 號	官 氏 名
年 月 日 交 付	當 該 官 廳 名
軍需會社 法ニ基ク 當該官廳印 臨檢検査證	

（裏面）

軍需會社法第十八條 政府ハ軍需會社ノ業務及財生ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ其ノ事務所、工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類、設備其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢検査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證券ヲ携帯セシムベシ

軍需會社法第二十五條 第十八條第一項ノ規定（第二十二條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタルモノハ六月以下ノ徵役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

軍需會社法第二十二條 本法中必要ナル規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノモノ及軍需ノ充足上必要ナル軍需事業以外ノ事業ヲ營ム會社其ノ他ノ者ニ對シ之ヲ準用スルコトヲ得

第五條及第十五條第一項ノ規定ハ軍需會社ニ對シハ之ヲ適用セズ第六條ノ規定ニ依ル設備ノ増設又ハ變更ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ許可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

工作機械製造事業法

第五條、第十六條及第十六條ノ二ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第六條ノ規定ニ依ル設備ノ増設又ハ變更、第十二條ノ規定ニ依ル器具、機械又ハ材料ノ輸入、第十五條第一項ノ規定ニ依ル事業ノ休止及第二十一條ノ八ノ規定ニ依ル用途ノ變更ニ關シテハ軍需會社ハ此等ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ許可又ハ認可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可又ハ認可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

重要機械製造事業法

第三條、第十四條及第十五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第七條ノ規定ニ依ル機械又ハ器具ノ輸入、第十二條ノ規定ニ依ル設備ノ増設又ハ變更、第十三條第一項ノ規定ニ依ル變更ノ休止及第二十七條但書ノ規定ニ依ル用途ノ變更ニ關シテハ軍需會社ハ此等ノ規定ニ拘ラス主務大臣ノ許可又ハ認可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可又ハ認可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

有機合成事業法

第五條、第六條及第十六條第一項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

石油業法

第二條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

人造石油製造事業法

第四條及第十三條第一項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

瓦斯事業法

第四條第三項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

電氣事業法

第六條第一項ノ規定ニ依ル許可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル

第十一條第一項ノ規定ニ依ル請求ハ電氣事業者軍需會社ナルトキハ其ノ規定ニ拘ラズ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑛業法

第四十八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

産金法

第四條第二項、第五條第一項及第七條第一項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

石油資源開發法

第一條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

日本製鐵株式會社法

第二條第二項ノ規定ニ依ル附帶業務ニ關シハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ之ヲ營ムコトヲ得

第十條ノ規定ニ依ル取締役及監査役ノ選任及解任並ニ定款ノ變更決議ハ軍需會社ニ在リテハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ其ノ效力ヲ生ズルモノトス

第十一條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

帝國鑛業開發株式會社法

第二條第二項ノ規定ニ依ル認可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル

第十一條第二項ノ規定ニ依ル附帶業務ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケズシテ之ヲ營ムコトヲ得

第二十一條及第二十三條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ第二十二條ノ規定ニ依ル定款ノ變更ノ決議ハ軍需會社

ニ在リテハ其ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケズシテ其ノ效力ヲ生ズルモノトス

帝國石油株式會社法

第十一條第二項ノ規定ニ依ル附帶業務ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケズシテ之ヲ營ムコトヲ得

第十八條及第二十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十九條ノ規定ニ依ル定款ノ變更ノ決議ハ軍需會社ニ在リテハ其ノ規定ニ拘ラズ政府ノ認可ヲ受ケズシテ其ノ效力ヲ生ズ

ルモノトス

日本發送電株式會社法

第一第二項ノ規定ニ依ル附帶業務ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ之ヲ營ムコトヲ得

第三十四條ノ規定ニ依ル定款ノ變更ノ決議ハ軍需會社ニ在リテハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ其ノ效力ヲ生ズルモノトス

第三十六條及第三十七條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鹽專賣法

回收鹽又ハ副生鹽ニシテ自家工場ニ於テ使用ニ供スルモノニ付軍需會社豫メ包括的ニ地方專賣局長ノ承認ヲ得タルトキハ
第七條又ハ第十四條ノ規定ニ依ル收納ヲ受ケ又ハ納付ヲ爲シ竝ニ第十一條第二項及第十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコ
トヲ要セズ

市街地建築物法

第二條第二項、第四條第二項及第十八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

公有水面埋立法

第八條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

森林法

第二十六條ノ規定ニ依ル保安林ノ開墾ノ許可ハ軍需會社ノ行フ鑛物ノ掘採又ハ砂鑛ノ採取ノ爲必要ナルトキハ之ニ代フル
ニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル但シ地方長官國土保安上特ニ必要アリト認ムルトキハ當該軍需會社ニ對シ造林其ノ他復舊ニ必
要ナル行爲ヲ命ズルコトヲ得

第十一條及第十一條ノ二ノ規定ニ依ル命令ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

工場法

第三條、第四條、第七條、第九條乃至第十一條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第十八條第三項本文ノ規定ニ依ル認可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル

工場法施行令第十九條、第二十一條、第二十四條、第二十五條及第二十七條ノ四ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

×

〔別表 二〕

賃金統制令

第十六條ノ規定ニ依ル認可又ハ命令ニ關シハ軍需會社（其ノ營ム軍需事業ニシテ指定令書ニ掲グル範圍ノモノニ限ル以下
同ジ）ニシテ其ノ勤勞管理ガ軍需大臣ノ所管ニ屬スルモノニ在リテハ地方長官ノ認可又ハ命令ニ代ヘ軍需大臣ノ指定スル
官吏ノ認可又ハ命令ニ依ルコトヲ得

重要事業場勞務管理令

同令施行規則第三十六條第六項又ハ第三十八條ノ規定ニ依ル許可又ハ報告ニ付亦同ジ

經理統制令

第四條ノ規定ニ依ル認可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル

第二十三條ノ規定ニ依ル許可及第二十四條第二項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル社員手當準則ノ承認又ハ許可ニ關シハ軍需

會社ハ此等ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可又ハ承認ニ代ヘ軍需會社法施行令第十條ノ主務大臣又ハ其ノ指定スル官吏ノ許
可又ハ承認ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

企業許可令

各條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

價格統制令

主務大臣ノ指定スル價格等ニ付テノ第二條第一項但書、第四條ノ二但書、第四條ノ四第一項但書及第七條第一項ノ規定ニ依ル許可ニ關シテハ軍需會社ハ此等ノ規定及同令施行規則第二條ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ許可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ許可ヲ受ケ價格等ノ額ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ受領スルコトヲ得

都市計畫法施行令

第十一條ノ二ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

〔別表 三〕

航空機製造事業法施行規則

第二十六條及第二十七條ノ規定ハ軍需會社（其ノ營ム軍需事業ニシテ指定令書ニ掲グル範圍ノモノニ限ル以下同ジ）ニ對シテハ之ヲ適用セズ

造船事業法施行規則

第二十二條乃至第二十四條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

自動車製造事業法施行規則

第八條及第十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

製鐵事業法施行規則

第二十六條乃至第二十八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

工作機械製造事業法施行規則

第十二條、第二十三條ノ九條二項及第二十三條ノ十ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第二十三條ノ十三ノ規定ニ依ル規格ニ適合セザルモノノ製造又ハ使用ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ認可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

重要機械製造事業法施行規則
第十一條、第三十二條第二項及第三十三條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第三十六條ノ規定ニ依ル規格ニ適合セザルモノノ製造又ハ使用ニ關シテハ軍需會社ハ其ノ規定ニ拘ラズ主務大臣ノ認可ニ代ヘ主務大臣ノ指定スル官吏ノ認可ヲ受ケ之ヲ爲スコトヲ得

有機合成事業法施行規則

第十三條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

電氣事業法施行規則

第三十條、第八十六條第二項及第八十八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

石油資源開發法施行規則

第三條乃至第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

日本製鐵株式會社法施行規則

第一條乃至第八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

日本發送電株式會社業務規程

第二條第三項及第四項、第七條第二項並ニ第九條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
第九條第一項ノ規定ニ依ル承認及第十二條ノ規定ニ依ル認可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ヅルヲ以テ足ル
工場法施行規則

第二十四條及第二十六條ノ二ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
貨金統制令施行規則

第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
重要事業場勞務管理令施行規則

第十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鐵鋼統制規則

第二條第二項、第十條、第十五條及第十九條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑄鋼統制規則

第三條第二項及第三項、第五條、第八條第十三條、第十六條並ニ第十七條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
特殊鋼需給統制規則

第二條第二項及第三項、第五條、第十二條並ニ第十五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
フエロアロイ等統制規則

第三條第二項及第三項、第五條、第八條、第十二條、第十三條並ニ第十七條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
鐵屑配給統制規則

第八條、第九條、第十條、第十一條及第十五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
輕金屬屑配給統制規則

第八條乃至第十四條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑛石配給統制規則

第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑿石配給統制規則

第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

銅、鉛、錫配給統制規則

第四條及第四條ノ二ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

白金等配給統制規則

第三條ノ規定ハ故白金ニ關スル限り軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第四條及第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

石炭配給調整規則

第一條乃至第三條、第四條、第五條及第十七條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

コークス配給統制規則

第三條、第四條、第八條及第十四條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

石油販賣取締規則

第二條ノ規定ハ軍需會社ニ對シ石油ヲ賣渡ス場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
第五條ノ五ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
合成染料等需給統制規則

第一條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
カリ鹽配給統制規則

第三條ノ規定ニ拘ラズ軍需會社ハ其ノ製造シ又ハ輸入シ若ハ移入シタルカリ鹽ヲ使用スルコトヲ得
第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シカリ鹽ヲ讓渡ス場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
第六條及第七條第二項第三項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
ゴム配給統制規則

第三條、第四條ノ二及第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
第六條ノ規定ハ軍需會社ニ對シゴムヲ販賣スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
第七條、第十一條及第十二條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
屑ゴム及粉末ゴム配給統制規則

第五條及第六條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
第九條ノ規定ハ軍需會社ニ對シ屑ゴム又ハ粉末ゴムヲ販賣スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
自動車タイヤ、チューブ配給統制規則
第十三條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

カーバイド配給統制規則

第一條乃至第三條及第十二條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
セメント配給統制規則

第三條、第四條及第十二條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
ソーダ工業藥品配給統制規則

第二條ノ二ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シソーダ工業藥品ヲ讓渡スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
第六條、第七條及第八條第二項ノ規定ハ軍需會社ニ對シテ之ヲ適用セズ
苦汁及ブロム配給統制規則

第十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
硬化油等配給統制規則

第四條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
硝子屑配給統制規則

第二條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シ硝子屑ヲ賣渡ス場合ニ於テハ之ヲ適用セズ
製鐵設備制限規則
第一條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑄造設備制限規則

第二條、第四條及第五條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
機械設備制限規則

第二條、第四條乃至第六條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

工作物築造統制規則

各條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

鑛夫就業扶助規則

第五條第一項、第六條第一項、第七條第一項及第八條乃至第十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ
勞務者募集規則

第六條、第七條、第十五條第一項、第二十條及第三十二條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第四條本文並ニ第五條第一項及第二項ノ規定ニ依ル許可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ツルヲ以テ足ル
勞働者災害扶助法施行規則

第七條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

健康保險法施行規則

第四十條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

汽罐取締令

第三章ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

銃砲火藥類取締法施行規則

第三十八條ノ規定ハ軍需會社ニ對シテハ之ヲ適用セズ

銃砲火藥類取締法施行細則

第三十七條ノ規定ニ依ル許可ハ軍需會社ニ在リテハ之ニ代フルニ豫メ届出ツルヲ以テ足ル

四 軍需會社等ニ關スル登記取扱手續 (昭和十八年十二月二十一日 司法省令等八十五號)

第一條 軍需會社等ニ關スル登記取扱手續ニ付テハ商業登記取扱手續又ハ組合登記取扱手續ニ規定スルモノノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 軍需會社ノ生産責任者ノ選任又ハ任命ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ選任又ハ任命ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三條 初メテ前項ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ軍需會社ニ指定セラレタル事實ヲ證スル書面ヲ併セテ添附スルコトヲ要ス

第四條 第二條第一項ノ規定ハ軍需會社ノ生産責任者ノ終任ノ登記ニ之ヲ準用ス

第五條 商業登記取扱手續第三十七條、第五十九條第一項及第六十二條ノ規定ハ軍需會社ノ生産擔當者ノ登記ニ之ヲ準用ス

第六條 第二條乃至第四條ノ規定ハ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノ法人ノ生産責任者ノ登記ニ、前條ノ規定ハ軍需事業ヲ營ム者ニシテ會社以外ノモノノ生産擔當者ノ登記ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五 軍需省告示第三十號

軍需會社法施行令第十一條第四項及第十四條第二項並ニ軍需會社法施行規則(別表一)、(別表二)及(別表三)ニ規定スル官吏左ノ通指定ス

昭和十九年一月十八日

一 軍需會社法施行令第十一條第四項及第十四條第二項ノ規定ニ依ル軍需會社間ニ於テ協議決定スベキ事項又ハ擔保權ノ處理ニ關スル事項ノ決定ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長但シ鑛業及砂鑛業ヲ營ム軍需會社間ニ於ケル鑛業及砂鑛業ニ關スル事項ニ付テハ鑛山監督局長

二 自動車製造事業法第八條、第十三條及第十四條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

三 製鐵事業法第五條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

四 輕金屬製造事業法第六條ノ規定ニ依ル許可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

五 工作機械製造事業法第六條、第十二條、第十五條第一項及第十二條ノ八ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

六 重要機械製造事業法第七條、第十二條、第十三條第一項及第二十七條但書ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

七 資金統制令第十六條ノ規定ニ依ル認可又ハ命令並ニ同令施行規則第三十六條第六項及第三十八條ノ規定ニ依ル許可又ハ

- 報告ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長但シ鑛業及砂鑛業ニ關スル事項ニ付テハ鑛山監督局長
- 八 會社經理統制令第二十三條ノ規定ニ依ル許可及第二十四條第二項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル社員手當準則ノ承認又ハ許可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長
- 九 主務大臣ノ指定スル價格等ニ付テノ價格等統制令第二條第一項但書、第四條ノ二但書、第四條ノ四第一項但書及第七條第一項但書ノ規定ニ依ル許可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長但シ鑛業及砂鑛業ニ關スル事項ニ付テハ鑛山監督局長
- 十 工作機械製造事業法施行規則第二十三條ノ十三ノ規定ニ依ル認可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長
- 十一 重要機械製造事業法施行規則第三十六條ノ規定ニ依ル認可ニ關スル事項ニ付テハ軍需監理部長

第二編 國民徵用令關係法規

一 國民徵用令

改正	昭和十四年七月八日勅令第四百五十一號
改正	昭和十五年十月十九日勅令第六百七十四號
改正	昭和十六年十二月十六日勅令第九百二十九號
改正	昭和十七年一月二十七日勅令第一千零三十八號
改正	昭和十七年十一月一日勅令第七百三十一號
改正	昭和十八年七月二十日勅令第六百八十一號
改正	昭和十八年十一月一日勅令第八百五十五號
改正	昭和十九年二月十八日勅令第八百九十九號

第一條 國家總動員法(昭和十三年勅令第三百十七號ニ於テ依ル場合ヲ含ム以下同ジ)第四條ノ規定ニ基ク帝國臣民ノ徵用及國家總動員法第六條ノ規定基ク被徵用者ノ使用又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 徵用ハ國家ノ要請ニ基キ帝國臣民ヲシテ緊要ナル總動員業務ニ從事セシムル必要アル場合ニ之ヲ行フモノトス

第三條 徵用ハ國民職業能力申告ニ依ル要申告者(以下要申告者ト稱ス)ニ限り之ヲ行フ但シ徵用中要申告者タラザルニ至リタル者ヲ引續キ徵用スル必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

特別ノ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ要申告者以外ノ者ヲ徵用スルコトヲ得

第四條 本令ニ依リ徵用スル者ハ國ノ行フ總動員業務又ハ工場事業場管理令ニ依リ政府ノ管理スル工場事業場其ノ他ノ施設(以下管理工場ト稱ス)ニ於テ行フ總動員業務ニ從事セシムルモノトス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣ノ指定スル工場事業場其ノ他ノ施設(以下指定工場ト稱ス)ニ

於テ行フ總動員業務ニ従事セシムルコトヲ得

第五條 徵用及徵用ノ解除ハ厚生大臣自ラ之ヲ行フ場合第二十二條ノ二第一項ノ場合ヲ除クノ外厚生大臣ノ命令ニ依リ之ヲ實施ス

第六條 總動員業務ヲ行フ官衙（陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム以下同ジ）ノ所管大臣ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主徵用ニ依リ人員ノ配置ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ

前項ノ規定ニ依リ管理工場ノ事業主ノ爲ス申請ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ヲ經由スベシ

第七條 厚生大臣前條ノ規定ニ依ル請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ徵用ノ必要アリト認ムルトキハ徵用命令ヲ發シ徵用セラルベキ者ノ居住地（國民職業能力申告令ニ依ル科學技術者ニシテ職業ニ従事スルモノ又ハ現ニ使用セラルル官衙、管理工場若ハ指定工場ニ於テ行フ總動員業務ニ従事セシムル爲徵用セラルベキ者ニ付テハ其ノ者ノ同令ニ依ル就業地又ハ當該官衙、管理工場若ハ指定工場ノ所在地）ヲ管轄スル地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ニ之ヲ通達スベシ

徵用セラルベキ者ニシテ國民職業能力申告令ニ依ル科學技術者タルモノ其ノ居住ノ場所（職業ニ従事スル者ナル場合ニ於テハ就業ノ場所）ニ異動ヲ生ジ國民職業能力申告令第六條第一項後段又ハ第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ爲サザル場合ニ於テ前後ノ居住地（職業ニ従事スル者ニ付テハ同令ニ依ル就業地）ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスルトキハ厚生大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラズ前ノ居住地（職業ニ従事スル者ニ付テハ同令ニ依ル就業地）ヲ管轄スル地方長官ニ徵用命令ヲ通達スベシ

第七條ノ二 地方長官徵用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ出頭命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

地方長官ハ前項ノ出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭シタル者ニ付身體ノ状態、居住及就業ノ場所、職業、技能程度、家庭ノ状

況、希望等ヲ検査又ハ調査シテ服務ノ適否ヲ判定シ従事スベキ總動員業務、職業及場所ヲ決定シタル上徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

緊急ヲ要スルトキハ前項ノ規定ニ依ル検査若ハ調査ヲ爲スノ必要ナシト認ムルトキハ地方長官ハ前二項ノ規定ニ拘ラズ直ニ徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條ノ三 前條第二條ノ規定ニ依ル検査又ハ調査及服務ノ適否ノ判定ニ關スル事務ニ従事セシムル爲廳府縣ニ國民徵用官ヲ置ク

國民徵用官ハ保安部長タル警視廳部長、警察部長タル北海道廳若ハ府縣ノ部長、警察局警務部長タル大阪府部長又ハ地方長官ノ指定スル警視廳若ハ北海道廳ノ事務官、職業官若ハ技師若ハ地方事務官、地方職業官若ハ地方技師ヲ以テ之ニ充ツテ行フ總動員業務ニ従事セシムルニ當リテハ第六條乃至前條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用命令ヲ發シ當該工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達シ地方長官ヲシテ徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付セシメ又ハ徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ

第八條 徵用命令書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ但シ軍機保護上特ニ必要アルトキハ第二號又ハ第三號ニ掲グル事項ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

一 徵用セラルベキ者ノ氏名、出生ノ年月日、本籍、居住ノ場所（國民職業能力申告令ニ依ル科學技術者ニシテ職業ニ従事スルモノニ付テハ就業ノ場所）

二 従事スベキ總動員業務ヲ行フ官衙又ハ管理工場若ハ指定工場ノ名稱及所在地

三 従事スベキ總動員業務、職業及場所

四 徵用ノ期間

五 出頭スベキ日時及場所

六 其ノ他必要ト認ムル事項

前項第一號中居住ノ場所又ハ就業ノ場所ニ關スル事項ハ徵用セラルベキ者現ニ使用セラルル官衙、管理工場若ハ指定工場

ニ於テ行フ總動員業務ニ従事セシムル爲ニ徵用セラルルモノナルトキ又ハ事業主(事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者)ナルトキハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第九條 削除

第十條 削除

第十一條 出頭命令書又ハ徵用命令書ノ交付ヲ受ケタル者疾病其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ指定ノ日時及場所ニ出頭スル

コト能ハザル場合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

前項ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ於テ厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ出頭ノ日時若ハ場所ヲ變更シ又

ハ其ノ者徵用ニ適セスト認ムルトキハ徵用ヲ取消スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出頭變更命令書又ハ徵用取消命令書ヲ發シ其ノ者ニ之ヲ交付スベシ

第十二條 被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徵用者ヲ使用スル官衙、管理工場若ハ

指定工場、被徵用者ノ従事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ徵用ノ期間ニ付變更ヲ必要トスルトキハ厚生大臣ニ之ヲ請求又ハ申請スベシ管理工場ニ使用セラルル者ニ付當該管理工場ヲ管理スル主務大臣其ノ徵用ヲ變更ヲ必要トスルトキ亦同

シ

第十三條 厚生大臣前條ノ規定ニ依リ請求又ハ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ被徵用者ヲ使用スル官衙、

管理工場若ハ指定工場、被徵用者ノ従事スル總動員業務、職業若ハ場所又ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ被徵用者ノ徵用ヲ變更スルコトヲ得

厚生大臣前項ノ規定ニ依リ徵用ヲ變更セントスルトキハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管大臣ニ、管理工

場ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ニ協議スベシ

第十四條 被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主被徵用者ガ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動

員業務ニ従事スルニ適セスト認ムルトキ又ハ其ノ者ヲシテ總動員業務ニ従事セシムル必要ナキニ至リタルトキハ厚生大臣

ニ徵用ノ解除ヲ請求又ハ申請スベシ

被徵用者疾病其ノ他ノ事由ニ因リ總動員業務ニ従事シ難キ場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ所管

大臣ニ、管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ厚生大臣ニ其ノ旨ヲ申出ヅルコトヲ得

第十五條 厚生大臣前條第一項ノ規定ニ依リ請求又ハ申請アリタル場合ニ於テハ徵用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ニ依リ請求又ハ申請ナキ場合ト雖モ徵用ヲ解除スルコトヲ得

厚生大臣前項ノ規定ニ依リ官衙ニ使用セラルル者ノ徵用ヲ解除セントスルトキハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議スベシ

第十六條 厚生大臣徵用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ徵用變更命令又ハ徵用解除命令ヲ發シ命令ノ定ムル所ニ依リ

被徵用者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官徵用命令書ヲ發シタル地方長官又ハ第八條第五號ノ出頭ノ場所ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達スベシ

地方長官徵用變更命令又ハ徵用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スベシ

被徵用者本令施行地外ノ場所ニ於テ就業スル場合ニ於テ徵用ノ大更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ厚生大臣徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スベシ

第十六條ノ二 第十二條前段、第十三條第一項第二項、第二條第十四條第一項及第十五條第一項第二項ノ規定ハ被徵用者タル管理工場又ハ指定工場ノ事業主(事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者)ノ徵用ノ變更又ハ解除ニ付テハ準用ス厚生大臣被徵用者タル管理工場又ハ指定工場ノ事業主(事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者)ノ徵用ノ變更又ハ解除ヲ爲サントスルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用變更命令若ハ徵用解除命令ヲ發シ當該工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達シ地方長官ヲシテ徵用變更令書若ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付セシメ又ハ徵用變更令書若ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スベシ

第十六條ノ三 被徵用者ハ忠誠ヲ旨トシ其ノ從事スル總動員業務ニ精勵スベシ

第十六條ノ四 被徵用者ノ表彰ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條ノ五 被徵用者ニシテ管理工場又ハ指定工場ニ於テ行フ總動員業務ニ從事スルモノハ之ヲ應徵士ト稱ス

應徵士ノ懲戒、服制其ノ他應徵士ノ服務ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 被徵用者總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ官衙ニ使用セラルル者ニ在リテハ當該官衙ノ長ノ指揮ヲ受ケ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ在リテハ前條第二項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ依ルノ外當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主ノ指揮ヲ受ケベシ

第十八條 被徵用者ニ對スル給與ハ其ノ者ノ技能程度、從事スル業務及場所等ニ應ジ且從前ノ給與其ノ他之ニ準ズベキ收入ヲ斟酌シテ被徵用者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ事業主之ヲ支給スルモノトス

被徵用者ニ對スル給與ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル者ニ關シハ當該官衙ノ所管大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル者ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主厚生大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ定ムベシ

第十九條 徵用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費ハ地方長官之ヲ支給ス

管理工場又ハ指定工場ニ配置セラルル爲出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭シタル者ニ對シ前項ノ規定ニ依リ支給シタル旅費ノ額ハ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主國庫ニ之ヲ納入スベシ

被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合、徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合又ハ被徵用者若ハ其ノ家族ノ危篤若ハ死亡ノ爲官衙ノ長若ハ事業主ノ通知ニ依リ被徵用者ノ家族出頭シ若ハ官衙ノ長ハ事業主ノ許可ヲ得テ被徵用者一時歸郷スル場合ノ旅費ハ命令ノ定ムル所ニ依リ官衙ニ使用セラルル被徵用者ニ付テハ當該官衙ノ長之ヲ支給シ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル被徵用者ニ付テハ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主之ヲ支給スルモノトス

徵用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合又ハ被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ニ於テ前金拂ヲ爲スニ非ザレバ出頭スルコト能ハザル者ノ旅費ハ其ノ者ノ居住地ノ市町村(東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都)又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

徵用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

被徵用者徵用令書ノ交付ヲ受ケ出頭スル場合ノ旅費及其ノ一時繰替支辨故ニ徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合及被徵用者又ハ其ノ家族ノ危篤若ハ死亡ノ爲官衙ノ長若ハ事業主ノ通知ニ依リ被徵用者ノ家族出頭シ又ハ官衙ノ長若ハ事業主ノ許可ヲ得テ被徵用者一時歸郷スル場合ノ旅費ニ關シ必要ナル事項ハ官衙ニ使用セラルル被徵用者ニ關シテハ當該官衙ノ所管大臣厚生大臣ニ協議シテ之ヲ定メ管理工場又ハ指定工場ニ使用セラルル被徵用者ニ關シテハ厚生大臣之ヲ定ム

第十九條ノ二 厚生大臣(軍需省所管企業ニ於ケル勤勞管理及給與ニ關スル事項ニ付テハ軍需大臣)必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第六條ノ規定ニ基キ被徵用者ヲ使用スル管理工場又ハ指定工場ノ事業主ニ對シ被徵用者ノ使用又ハ賃金給料其ノ他ノ從業條件ニ關シ命令ヲ爲スコトヲ

第十九條ノ三 被徵用者徵用セラレタルニ因リ其ノ家族ト世帯ヲ異ニスルニ至リタル場合其ノ他特別ノ事情アル場合又ハ被徵用者故意若ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徵用ヲ解除セラレタル場合ニ於テ本人又ハ家族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

被徵用者徵用セラレ總動員業務ニ從事中故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル場合ニ於テ遺族ガ生活スルコト困難ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得
前二項ノ家族又ハ遺族ノ範圍及扶助ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條ノ四 前條ノ規定ニ依リ扶助ガ被徵用者ニシテ管理工場若ハ指定工場ニ使用セラレ若ハ使用セラレタル者又ハ其ノ家族若ハ遺族ニ對シ爲サレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主ヲシテ扶助ニ要シタル費用ヲ國庫ニ納入セシムルコトヲ得

第二十條 厚生大臣又ハ地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ徵用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ報告ヲ徵スルコ

トヲ得

厚生大臣又ハ地方長官徵用ニ關シ必要アリト認ムルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲシテ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ徵用セズ

- 一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ(未ダ入營セザル者ヲ除ク)及召集中ノモノ(召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含ム)
- 二 陸海軍學生生徒(海軍豫備練習生ヲ含ム)
- 三 陸海軍軍屬(被徵用者ニシテ之ニ該當スルニ至リタルモノヲ除ク)
- 四 醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者
- 五 獸醫師等職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者
- 六 船員法ノ船員、朝鮮船員令ノ船員及關東州船員令ノ船員
- 七 法令ニ依リ拘禁中ノ者

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ特別ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ徵用セズ

- 一 餘人ヲ以テ代フベカラザル職ニ在ル官吏、待遇官吏又ハ公吏
- 二 帝國議會、東京都議會、道府縣會、市町村會其ノ他之ニ準ズベキモノノ議員
- 三 總動員業務ニ從事スル者ニシテ餘人ヲ以テ代フベカラザルモノ

第二十二條ノ二 厚生大臣(軍需省所管企業ニ於ケル勤勞管理及給與ニ關スル事項ニ付テハ軍需大臣)必要アリト認ムルト

キハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ徵用命令、徵用變更命令若ハ徵用解除命令ヲ俟タズ直ニ出頭命令書、徵用命令書徵用變更命令書若ハ徵用解除命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者若ハ被徵用者ニ之ヲ交付セシメ又ハ地方長官ヲシテ第四條第二項第六條第一項、第七條ノ四、第十二條乃至第十五條（第十六條ノ二第一項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十六條ノ二第二項、第十八條第二項若ハ第十九條ノ二ノ規定ニ依ル厚生大臣ノ職權ヲ行ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ地方長官厚生大臣ノ職權ヲ行フ場合ニ於テハ同項ニ掲グル各條項ニ依ル總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣、當該官衙ノ所管大臣又ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣ノ職權ハ各總動員業務ヲ行フ官衙ノ長、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ長、當該官衙ノ長又ハ工場事業場管理令ニ依ル當該管理工場ノ監理官之ヲ行フ

第二十三條 厚生大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ヲシテ徵用ニ關スル事務ノ一部ヲ分掌セシメ又ハ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長）若ハ之ニ準ズベキモノヲシテ徵用ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長）又ハ之ニ準ズベキモノノ前項ノ規定ニ依リ徵用ニ關スル事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市町村（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都）又ハ之ニ準ズベキモノニ於テ一時繰替支辨スベシ

前項ノ費用及其ノ一時繰替支辨ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十四條 厚生大臣ハ本令ノ施行ニ關スル重要事項ニ付内閣總理大臣ニ協議スベシ

第二十五條 本令中厚生大臣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南

洋廳長官トシ總動員業務ヲ行フ官衙ノ所管大臣、被徵用者ヲ使用スル官衙ノ所管大臣若ハ當該官衙ノ所管大臣又ハ當該管理工場ヲ管理スル主務大臣トアルハ官衙ノ所管大臣又ハ主務大臣ガ陸軍大臣又ハ海軍大臣タル場合ヲ除クノ外朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各朝鮮總督、臺灣總督、樺太廳長官又ハ南洋廳長官トス

本令中地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ國民職業指導所長トアルハ朝鮮ニ在リテハ府尹、郡守又ハ島司、臺灣ニ在リテハ市尹又ハ郡守（澎湖廳ニ在リテハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳國民職業指導所長、南洋群島ニ在リテハ南洋廳支廳長トス

第七條ノ三第一項中廳府縣トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ各道、州若ハ廳、樺太廳又ハ南洋廳トシ同條第二項中保安部長タル警視廳部長、警察部長タル北海道廳若ハ府縣ノ部長、警察局警務部長タル大阪府部長トアルハ朝鮮ニ在リテハ鑛工部長タル道事務官、臺灣ニ在リテハ總務部長タル州部長、樺太ニ在リテハ警察部長タル部長、南洋群島ニ在リテハ内政部長タル部長トシ警視廳若ハ北海道廳ノ事務官、職業官若ハ技師若ハ地方事務官、地方職業官若ハ地方技師トアルハ朝鮮ニ在リテハ道ノ理事官若ハ技師、府尹、郡守若ハ島司、臺灣ニ在リテハ地方理事官若ハ地方技師、樺太ニ在リテハ樺太廳ノ書記官、事務官若ハ技師、南洋群島ニ在リテハ南洋廳ノ事務官若ハ技師トス

第二十六條 本令ニ規定スルモノノ外徵用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 （昭和十五年十月十九日勅令第六百七十四號）

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十六年十二月十六日勅令第四百二十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十七年一月二十七日勅令第三十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十七年十一月一日勅令第七百三十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十八年七月二十日勅令第六百號)

本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十八年十一月一日勅令第八百五十五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十九年二月十八日勅令第八十九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ第二十五條第三項ノ改正規定ヲ除クノ外昭和十九年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

二 國民徵用令施行規則

改正	昭和十四年七月十一日	厚生省令第十七號
改正	昭和十五年十二月十九日	厚生省令第四十七號
改正	昭和十六年十二月十一日	厚生省令第四十四號
改正	昭和十七年十二月十一日	厚生省令第五十二號
改正	昭和十八年七月三十一日	厚生省令第五十六號
改正	昭和十八年十一月一日	厚生省令第三十二號
改正	昭和十九年三月一日	軍需省令第一號
改正	昭和十九年三月一日	厚生省令第八號

第一條 厚生大臣ノ發スル徵用命令、徵用變更命令又ハ徵用解除命令ハ文書ニ依リ之ヲ通達ス但シ緊急ニシテ之ニ依リ難キ場合ハ電信(至急官報)ニ依ル

第二條 削 除

第三條 國民徵用令(以下令ト稱ス)第七條ノ二ノ規定ニ依リ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ發スル出頭命令書ハ別表様式第一號ニ依ル

第四條 徵用セラルベキ者出頭命令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ出頭命令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ツベシ

第四條ノ二 令第七條ノ四ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徵用命令ハ徵用セラルベキ事業主(事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者)ノ從事スベキ總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス
地方長官前項ノ徵用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ
徵用セラルベキ事業主(事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者)ノ從事スベキ總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ以上ノ都道府縣ニ在ルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス厚生大臣徵用命令書ヲ發シ徵用セラルベキ者ニ之ヲ交付ス

第五條 徵用令書、出頭變更令書、徵用取消令書、徵用變更令書及徵用解除令書ハ別表様式第二號ニ依ル

第六條 徵用令書、出頭變更令書及徵用取消令書ハ國民勤勞動員署長又ハ市町村長（東京都ノ區ノ存スル區域、京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長以下之ニ同ジ）若ハ之ニ準ズベキモノヲシテ徵用セラルベキ者又ハ被徵用者ニ之ヲ交付セシムベシ

第七條 徵用セラルベキ者又ハ被徵用者徵用令書、出頭變更令書又ハ徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

第八條 徵用セラルベキ者又ハ被徵用者徵用令書又ハ出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ徵用令書又ハ出頭變更令書ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ヅベシ

第九條 令第十一條第一項ノ規定ニ依ル届出ハ左ノ書類ヲ添附シ出頭命令書又ハ徵用令書ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遲滞ナク之ヲ爲スベシ

一 傷痕疾病ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書（已ムラ得ザル事情ニ因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書）

二 天災其ノ他避クベカラザル事故ニ因リ出頭シ難キ場合ニ在リテハ其ノ地ノ市町村長若ハ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書

第十條 令第十六條第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徵用變更命令又ハ徵用解除命令ハ被徵用者ガ指定ノ場所ニ出頭スル前ニ在リテハ徵用令書ヲ發シタル地方長官、被徵用者ガ指定ノ場所ニ出頭シタル場合ニ在リテハ出頭地ヲ管轄スル地方長官、被徵用者ガ總動員業務ニ従事スル場合ニ在リテハ就業地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

第十一條 令第十六條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ發スル徵用變更令書又ハ徵用解除令書ハ被徵用者總動員業務ニ従事スル場合ニ於テハ其ノ者ヲ使用スル官衙ノ長又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主ヲ經由シテ之ヲ交付スベシ

第十二條 前條ノ規定ハ令第十六條第三項ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ於テ徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條ノ二 令第十六條ノ二第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ發スル徵用變更命令又ハ徵用解除命令ハ被徵用者タル事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ従事スル總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ通達ス

地方長官前項ノ徵用變更命令又ハ徵用解除命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ直ニ徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付スベシ

被徵用者タル事業主（事業主法人ナル場合ニ在リテハ其ノ代表者）ノ従事スル總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ以上ノ都道府縣ニ在ルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス厚生大臣徵用變更令書又ハ徵用解除令書ヲ發シ被徵用者ニ之ヲ交付ス

第十三條 被徵用者徵用變更令書又ハ徵用解除令書ノ交付ヲ受ケタルトキハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

第十三條ノ二 重要事業勞務管理令第四條第一項又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ厚生大臣（軍需省所管企業ニ付テハ軍需大臣）ノ認可ヲ受ケタル事項ニシテ被徵用者ノ給與ニ關スルモノニ付テハ令第十八條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノ（令第二十二條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ト看做ス

第十四條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ徵用ニ關シ徵用セラルベキ者又ハ其ノ者ヲ使者シ若ハ使用シタル

者ヨリ報告ヲ徴スルコトヲ得

五四

前項ノ報告ハ緊急ノ必要アル場合又ハ輕微ナル事項ニ付テハ國民勤勞動員署長之ヲ徴スルコトヲ得

第十五條 當該官吏令第二十條第二項ノ規定ニ依リ臨檢スル場合ニハ別表様式第三號ノ證票ヲ携帯スベシ

第十六條 管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル被徵用者ニシテ死亡シタルモノアルトキハ遲滞ナク左ニ掲グル事項ヲ厚生大臣並ニ徵用令書ヲ發シタル地方長官ニ報告スベシ

- 一 氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 徵用令書發付者、發付年月日及發付番號
- 三 死亡ノ年月日及事由
- 四 死亡ノ前後ノ處置並ニ事業主ガ他ノ法令ノ規定ニ依リ爲シタル扶助其ノ他之ニ準ズベキ出捐ノ狀況
- 五 遺族ノ住所

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ令第二十二條ノ二ノ規定ニ依ルモノトス

- 一 戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行爲ニ因ル災害及之ニ起因シテ生ズル災害ニ際シ緊急徵用ノ必要アル場合
- 二 徵用變更又ハ徵用解除ニ關シ厚生大臣ノ定ムル場合

前項ノ場合ニ在リテハ本令中厚生大臣トアルハ地方長官トス

第十八條 地方長官前條ノ規定ニ依リ職權ヲ行使シタルトキハ厚生大臣ニ其ノ旨報告スベシ

附則

本令ハ昭和十四年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十五年十月十九日厚生省令第四十四號)

本令ハ昭和十五年十月二十日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十六年二月一日厚生省令第二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十六年十二月十六日厚生省令第五十六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十七年十一月一日厚生省令第五十二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十八年七月三十一日厚生省令第三十號)

本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十八年十一月一日軍需省令第一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十九年三月一日厚生省令第八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

五五

別表

様式第一號(用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B六トス)

(表面)

出頭命令書

本籍 何都何縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地
居住又ハ 何都何縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地
就業ノ場所 氏 何年何月何日生

右ノ者國民服用令第七條ノ二ニ依リ左ノ日時及場所ニ出頭スベシ

出頭命令書發付番號 第 號

出頭スベキ日時	何年何月何日午後何時
出頭スベキ場所	何々
備考	

昭和 年 月 日

廳府縣長官 氏 名 印

(裏面)

出頭命令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

- 一 出頭命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該命令書並ニ印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ當該官吏ニ届出ヅベシ
(已ムラザル事)因リ醫師ノ診斷書ヲ得ルコト能ハザルトキハ警察官吏ノ證明書ヲ添ヘ該命令書ヲ發シタル地方長官ニ送附ナク届出ヅベシ
- 二 出頭命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該命令書並ニ印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ
其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)又ハ警察官吏、船長若ハ驛長證明書ヲ添ヘ該命令書ヲ發シタル地方長官ニ送附ナク届出ヅベシ
- 三 出頭命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該命令書並ニ印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ
其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)又ハ警察官吏、船長若ハ驛長證明書ヲ添ヘ該命令書ヲ發シタル地方長官ニ送附ナク届出ヅベシ
- 四 出頭命令書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該命令書並ニ印章ヲ携ヘ指定ノ日時及場所ニ出頭シ難キ場合ニ在リテハ
其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)又ハ警察官吏、船長若ハ驛長證明書ヲ添ヘ該命令書ヲ發シタル地方長官ニ送附ナク届出ヅベシ

注意

市町村(東京都ノ區)存スル區域ニ在リテハ(東京都)又ハ之ニ準ズベキモノ(以下市町村ト稱ス)ニ於テ旅費ノ一時繰
證支辨ヲ爲シタルトサハ左ニ支辨ヲ爲シタル市町村名、支辨ヲ爲シタル年月日及「旅費金何圓何拾錢支辨済」ト記載
證印シ本人ニ返付スベシ

(参照)

國民服用令第七條ノ二 地方長官服用命令ノ通達ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ出頭命令書ヲ發シ豫用セ
ラルベキ者ニ之ヲ交付スベシ
地方長官ノ前項ノ出頭命令書ヲ交付シテ受ケ出頭シタル者ニ付身體ノ状態、居住及就業ノ場所、職業、技能程度、
家庭ノ状況、希望等ヲ検査又ハ調査シテ服務ノ適否ヲ判定シ從事スベキ總動員業務、職業及場所ヲ決定シタル上
徴用令書ヲ發シ徴用セラレキ者ニ之ヲ交付スベシ
緊急ヲ要スルトキ又ハ前項ノ規定ニ依リ検査若ハ調査ヲ爲スノ必要ナシト認ムルトキハ地方長官ハ前二
項ノ規定ニ拘ラズ直ニ徴用令書ヲ發シ徴用セラレベキ者ニ之ヲ交付スルコトヲ得

記載心得

- 一 就業ノ場所ハ國民職業能力申告令ニ依リ科學技術者ニシテ職業ニ従事スルモノニ限り之ヲ記載スルモノトシ此
ノ場合ハ記載ヲ要セザルモノトス
- 二 就業ノ場所及出頭スベキ場所ハ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノトス
- 三 備考ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス
- 四 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

様式第二號一 (用紙白色トシ大サ日本標準規格B五トス)

號	號番付發書令用徵	號	號番付發書令用徵
一	徵用令書 本籍 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地 居住又 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地 就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地 名殿 氏 何年何月何日生	二	徵用令書 右ノ者左ノ通徵用ス(モラル)
二	徵用令書ノ受付タル者ハ該令書ニ添附シタル受領年日時 ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ之ヲ受テタル者ハ該令書ヲ携 帶シ該令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時及場所 ニ出頭シ當 該官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出シ該令書ヲ 徵用令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時及場所 ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ	三	徵用ノ期間 自 何年何月何日 至 何年何月何日
三	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ	四	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
四	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ	五	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
五	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ	六	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
六	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ	七	徵用令書ノ受テタル者ハ該令書ヲ携ハシ該令書ノ受領年日時 及場所ニ出頭シ難 キ場合ニ在リテハ醫師ノ診斷書(已ムラザル者)ハ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 得ルコト能ハサルトキハ警察官吏ノ證明書)ヲ添ヘ該令書ヲ發シタル厚生 大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ 難キ場合ニ在リテハ其ノ他ノ市町村長(東京都ノ區)及 存スル區域(京都市、大阪市、名古屋市、横濱市及神戸市ニ在リテハ區長) 若シ之ニ準ズベキモノ又ハ警察官吏、船長若ハ驛長ノ證明書ヲ添ヘ該令書 ヲ發シタル厚生大臣又ハ地方長官ニ遅滞ナク届出シ スルコト能ハサルモノハ居住地ノ市町村長(東京都ノ區)存スル區域ニ在 リテハ東京都長官)又ハ之ニ準ズベキモノニ該令書ヲ提示シテ之カ一時練 習支辨ヲ請求スルコトヲ得但シ出頭スベキ場所方居住地ノ市町村(東京都 ノ區域)ニ在リテハ其ノ區域)ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

(表 面)

(裏 面)

昭和 年 月 日	備 考
出頭スベキ日時	出頭スベキ場所
出頭スベキ時刻	何々
徵用ノ期間	何々
従事スベキ場所	何々
従事スベキ職業	何々
従事スベキ總動員業務	何々
従事スベキ總動員業務ノ行 ニ官制又ハ管理工場若ハ指 定工場ノ名稱及所在地	何々

昭和 年 月 日
厚生大臣 氏 名殿
廳府縣長官 氏 名殿

一 徵用令書(何年何月何日發付第何號)
右受領ス
昭和 年 月 日 午前 時 分

本籍 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地
居住又 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地
就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地
名殿 氏 何年何月何日生

一 就業ノ場所ハ國民職業能力申告ニ依ル科學技術者ニシテ職業ニ従事ス
ザルモノトス
二 就業ノ場所、従事スベキ場所及出頭スベキ場所ハ其ノ所在地及名稱ヲ詳
細ニ記載スルモノトス
三 軍機保護上ノ必要アルトキハ従事スベキ總動員業務、職業又ハ場所ハ之
ヲ記載セザルモノトス
四 備考ハ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノト
ス
五 文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス
六 徵用令書ノ交付ヲ受テタル者ハ印章ヲ所持セザルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲
サシムルモ妨ガナキモノトス
七 徵用セラルベキ者特ニ使用セラルル官制又ハ管理工場若ハ指定工場ニ於
テ行フ總動員業務ニ従事セシムル爲ニ徵用セラルル場合ニ在リテハ居住
ノ場所、就業ノ場所ノ記載ヲ要セザルモノトス

記載心得

様式第二號ノ二(用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

出頭變更令書	號	號番付發書令更變頭出	號	號番付發書令用徵	日何月何年何	日何月何年何
本籍及居住又ハ就業ノ場所ハ從前發シタル本籍及居住又ハ就業ノ場所ヲ詳細ニ記載スルモノトス	出頭スルキ日時	出頭スルキ場所	備	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
備考ハ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者印章ヲ所持セザルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲サシムルモ妨グナキモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

一 本籍及居住又ハ就業ノ場所ハ從前發シタル徵用令書ニ記載シタル本籍及居住又ハ就業ノ場所ヲ詳細ニ記載スルモノトス

二 出頭變更令書(何年何月何日發付第何號)

右 受領ス 年 月 日 午前 時 分

本 籍 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

居住又ハ就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

厚生大臣 氏 名殿

府縣長官 氏 名殿

記載心得

様式第二號ノ三(用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

徵用取消令書	號	號番付發書令取消取用徵	號	號番付發書令用徵	日何月何年何	日何月何年何
本籍及居住又ハ就業ノ場所ハ從前發シタル本籍及居住又ハ就業ノ場所ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス	出頭スルキ日時	出頭スルキ場所	備	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
備考ハ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得
出頭變更令書ノ交付ヲ受ケタル者印章ヲ所持セザルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲サシムルモ妨グナキモノトス	何年何月何日午後何時	何々	何々	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得	徵用取消令書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

一 本籍及居住又ハ就業ノ場所ハ從前發シタル徵用令書ニ記載シタル本籍及居住又ハ就業ノ場所ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

二 徵用取消令書(何年何月何日發付第何號)

右 受領ス 年 月 日 午後 時 分

本 籍 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

居住又ハ就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

就業ノ場所 何都府縣(北海道)何郡(市)何町(村)大字何、何番地

厚生大臣 氏 名殿

府縣長官 氏 名殿

記載心得

様式第二號ノ五 解除 (用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

様式第二號ノ六 (用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

現ニ從事スル場所 就業ノ場所 又ハ居住又ハ籍何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地	從事スル職業 從事スル總動員業務何々	從事スル場所 從事スル總動員業務何々	徵用ノ期間 自何年何月何日 至何年何月何日	出頭スル日時 何年何月何日 午前午後何時	出頭スル場所 何々	昭和 年 月 日	厚生大臣 氏 國府縣長官 氏 名 國	徵用變更令書ノ交付ヲ取テタル者ノ心得 一 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證 ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ 又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者 官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ
---	-----------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------------	--------------	----------	--------------------------	---

右ノ者何々左ノ通變更ス(セラル)	從事スル場所 從事スル總動員業務何々	從事スル職業 從事スル總動員業務何々	徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ノ心得 一 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證 ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ 又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者 官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ
------------------	-----------------------	-----------------------	---

一 現ニ從事スル場所、就業ノ場所、從事スル場所又ハ出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
二 現ニ從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
三 從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
四 本籍及居住又ハ就業ノ場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
五 出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
六 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證
ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ
又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者
官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ

九八七六五

一 現ニ從事スル場所、就業ノ場所、從事スル場所又ハ出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
二 現ニ從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
三 從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
四 本籍及居住又ハ就業ノ場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
五 出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
六 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證
ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ
又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者
官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ

様式第二號ノ五 解除 (用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

様式第二號ノ六 (用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

現ニ從事スル場所 就業ノ場所 又ハ居住又ハ籍何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地	從事スル職業 從事スル總動員業務何々	從事スル場所 從事スル總動員業務何々	徵用ノ期間 自何年何月何日 至何年何月何日	出頭スル日時 何年何月何日 午前午後何時	出頭スル場所 何々	昭和 年 月 日	厚生大臣 氏 國府縣長官 氏 名 國	徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者ノ心得 一 徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證 ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ 又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者 官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ
---	-----------------------	-----------------------	-----------------------------	----------------------------	--------------	----------	--------------------------	---

右ノ者何年何月何日ヲ以テ徵用ヲ解除ス(セラル)	從事スル場所 從事スル總動員業務何々	從事スル職業 從事スル總動員業務何々	徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者ノ心得 一 徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證 ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ 又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用解除令書ノ交付ヲ受テタル者 官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ
-------------------------	-----------------------	-----------------------	---

一 現ニ從事スル場所、就業ノ場所、從事スル場所又ハ出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
二 現ニ從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
三 從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
四 本籍及居住又ハ就業ノ場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
五 出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
六 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證
ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ
又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者
官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ

記載

一 現ニ從事スル場所、就業ノ場所、從事スル場所又ハ出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
二 現ニ從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
三 從事スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
四 本籍及居住又ハ就業ノ場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
五 出頭スル場所ノ其ノ所在地及名稱ヲ詳細ニ記載スルモノト爲シタ
六 徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證
ニ 受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ
又 出頭スル時及場所ニ關シ徵用變更令書ノ交付ヲ受テタル者
官吏又ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ届出ラベシ

國民徵用ニ關スル臨檢票

(表面)

様式第二號ノ七 別除
様式第三號(用紙ノ大サハ日本標準規格A七トシ中央點線ノ所ヨリ二三折トス)

第 號 昭和 年 月 日 交付

官 職
印 生省又ハ廳府縣
氏 名

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨
 國家總動員法第二十條第二項 厚生大臣又ハ地方長官徵用ニ關シ必要アリト認
 ムトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲ工場、事業場
 其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ヲ其身分ヲ示ス監票ヲ攜帶セシム
 國民徵用令施行規則第十五條 當該官吏令第二十條第二項ノ規定ニ依リ臨檢ス
 場合ニハ別表様式第三號ノ監票ヲ攜帶スニシテ

(裏面)

三 國民徵用令施行規則第十七條第一項第二號ノ規定ニ
依ル徵用變更又ハ徵用解除ノ場合指定

(昭和十九年一月六日厚生省告示第一號)

國民徵用令施行規則第十七條第一項第二號ノ指定ニ依ル徵用變更又ハ徵用解除ノ場合左ノ通定ム

- 一 國民徵用令第十三條ノ規定ニ依ル徵用ノ變更ニ關スル厚生大臣ノ職權但シ被徵用者ヲ使用スル官衙、管理工場若ハ指定工場又ハ被徵用者ノ従事スル場所ノ變更ニシテ二以上ノ都道府縣ニ互ル場合及同令第十六條第三項ノ規定ニ掲グル場合ヲ除ク
- 二 國民徵用令第十五條ノ規定ニ依ル徵用解除ニ關スル厚生大臣ノ職權ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノ但シ同令第十
六條第三項ノ規定ニ掲グル場合ヲ除ク
 - (一) 應徵士服務紀律第四條ノ規定ニ依リ罷免ノ懲戒ヲ必要トスル者
 - (二) 官衙ニ使用セラルル被徵用者ニシテ判任官相當以上ノ待遇ヲ受クルモノ

四 軍需會社徵用規則 (昭和十八年十二月十七日 厚生省令第五十二號)

- 第一條 軍需會社法(以下法ト稱ス)第六條ノ規定ニ基ク軍需會社ノ生産責任者及擔當者竝ニ軍需事業ニ従事スル者ノ徵用
竝ニ業務従事等ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 本令ニ於テ指定軍需會社ト稱スルハ法第二條ノ規定ニ依ル軍需會社ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノ、指定軍需工場
ト稱スルハ法第二條ノ規定ニ依ル軍需會社ノ工場其ノ他ノ施設ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノヲ謂フ
- 第三條 指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ屬スル軍需會社ノ生産責任者ハ徵用セラレタルモノト看做ス
- 第四條 指定軍需會社ノ生産擔當者及當該軍需會社ノ營ム軍需事業ニ従事スル者ハ左ニ掲ゲルモノヲ除クノ外徵用セラレタ
ルモノト看做ス指定軍需工場ノ生産擔當者及當該指定軍需工場ニ於テ行フ軍需事業ニ従事スル者ニ付亦同ジ
- 一 陸海軍軍人ニシテ現役中ノモノ(未ダ入營セザル者ヲ除ク)及召集中ノモノ(召集中ノ身分取扱ヲ受クル者ヲ含
ム)
- 二 陸海軍學生生徒(海軍豫備練習生及海軍豫備補習生ヲ含ム)
- 三 陸海軍軍屬
- 四 醫療關係者職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者
- 五 獸醫師等職業能力申告令ニ依リ申告ヲ爲スベキ者
- 六 船員法ノ船員

- 七 法令ニ依リ拘禁中ノ者
- 八 年齢十四年未滿ノ者
- 九 日日傭入レラルル者
- 十 六月以内ノ期間ヲ定メテ軍需會社ノ軍需事業ニ従事スル者
- 十一 期間ノ定メナク勞務供給契約又ハ事業請負契約ニ基キ軍需會社ノ軍需事業ニ従事スル者
- 十二 總動員業務ニ従事セザル者
- 十三 女子
- 十四 其ノ他厚生大臣ノ指定スル者
- 第五條 指定軍需會社ノ生産責任者及生産擔當者竝ニ當該軍需會社ノ軍需事業ニ従事スル者ニシテ國民徵用令ニ依リ現ニ徵
用中ノモノ及國民徵用令ニ依リ徵用セラレ當該軍需會社ニ於テ行フ總動員業務ニ従事セシメラレタル者ノ徵用ノ變更、解
除又ハ業務従事等ニ關シテハ國民徵用令ノ規定ニ拘ラズ本令ノ定ムル所ニ依ル指定軍需工場ノ屬スル軍需會社ノ生産責任
者及當該指定軍需工場ノ生産擔當者竝ニ當該指定軍需工場ニ於テ行フ軍需事業ニ従事スル者ニシテ國民徵用令ニ依リ現ニ
徵用中ノモノ及國民徵用令ニ依リ徵用セラレ當該指定軍需工場ニ於テ行フ總動員業務ニ従事セシメラレタル者ニ付亦同ジ
- 第六條 第三條及第四條ノ規定ニ依リ徵用セラレタルモノト看做サレタル者(以下軍需被徵用者ト稱ス)ハ當該指定軍需會
社又ハ當該指定軍需工場ニ於テ行フ軍需事業タル總動員業務ニ従事セシムルモノトス
- 第七條 第五條ノ規定ニ依ル者ヲ除ク軍需被徵用者ニ對シテハ其ノ者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官ハ速ニ別記様式第一號ニ
依ル徵用告知書ヲ交付スベシ

第八條 前條ノ徵用告知書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 徵用セラレタルモト看做サルベキ者ノ氏名、出生ノ年月日及本籍
- 二 従事スベキ總動員業務ヲ行フ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ名稱
- 三 従事スベキ總動員業務、職業及場所
- 四 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 國民徵用令第十二條乃至第十六條、第十七條乃至第十九條、第十九條ノ三及第十九條ノ四ノ規定ハ生産責任者ヲ除ク軍需被徵用者ニ付之ヲ準用ス但シ第十二條及第十四條中管理工場若ハ指定工場ノ事業主トアルハ指定軍需會社若ハ指定軍需工場ノ屬スル軍需會社ノ生産責任者トシ、第十七條中當該管理工場又ハ指定工場ノ事業主トアルハ當該指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ屬スル軍需會社ノ生産責任者トシ、第十二條及第十三條中當該管理工場ヲ管理スル主務大臣トアルハ當該指定軍需會社又ハ當該指定軍需工場ニ於テ行フ軍需事業ノ所管大臣トシ、第十二條乃至第十四條、第十七條乃至第十九條及第十九條ノ四中管理工場又ハ指定工場トアルハ指定軍需會社又ハ指定軍需工場トス

第十條 指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ屬スル軍需會社ノ生産責任者ヲ除ク軍需被徵用者ニ付其ノ従事スル總動員業務ヲ行フ本店又ハ工場事業場其ノ他ノ施設ノ變更ヲ爲サントスルトキハ豫メ當該軍需被徵用者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ厚生大臣ニ其ノ旨届出ヅベシ

第十一條 國民徵用令第十六條ノ二ノ規定ハ生産責任者ノ徵用ノ變更ニ付之ヲ準用ス但シ管理工場又ハ指定工場ノ事業主ト

アルハ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ生産責任者トス

第十二條 生産責任者法第四條若ハ第二十條ノ規定ニ依リ解任セラレタルトキ又ハ軍需會社法施行令第七條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ職ヲ辭シタルトキハ其ノ者ノ徵用ハ解除セラレタルモノト看做ス但シ其ノ者ガ引續キ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ軍需事業ニ従事スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ在リテハ徵用ヲ解除セラレタルモノト看做サルベキ者ノ就業地ヲ管轄スル地方長官ハ別記様式第二號ニ依リ徵用解除告知書ヲ其ノ者ニ交付スベシ

第十三條 國民徵用令第十六條ノ三乃至第十六條ノ五ノ規定ハ軍需被徵用者ニ付之ヲ準用ス但シ第十六條ノ五ノ規定ニ於テ管理工場又ハ指定工場トアルハ指定軍需會社又ハ指定軍需工場トス

第十四條 國民徵用令第二十條及第二十二條ノ二ノ規定ハ本令ニ依リ徵用ニ關シ之ヲ準用ス但シ第二十二條ノ二第二項中當該管理工場ヲ管理スル主務大臣トアルハ當該指定軍需會社又ハ指定軍需工場ニ於テ行フ軍需事業ノ所管大臣トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

徵用告知書發付番號 第 號

徵用告知書發付番號 第 號

號

(表面) 別記様式第一號(用紙ハ白色トシ大カハ日本標準規格B五トス)

徵用告知書

本籍 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地 氏 名 何年何月何日生

右ノ者左ノ通徵用セラレタルモノト看做サル

從事スベキ總動員業務	何	何	何	何
ヲ行フ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ名稱	何	何	何	何
從事スベキ總動員業務	何	何	何	何
從事スベキ職業	何	何	何	何
從事スベキ場所	何	何	何	何
備考				

昭和 年 月 日 廳府縣長官 氏 名 圖

右 受 領 ス 昭 和 年 月 日 午 前 時 分 本籍 何都府縣(北海道)何郡(市)(區)何町(村)大字何、何番地 氏 名 圖

一 徵用告知書(何年何月何日發付第何號) 受 領 證 廳府縣長官 氏 名 圖

(裏面)

徵用告知書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得

一、徵用告知書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該告知書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ

記載心得

一、備考ハ地方長官ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ記載スルモノトス

二、文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

三、徵用告知書ノ交付ヲ受ケタル者印章ヲ所持セザルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲サシムルモ妨グナキモノトス

別記様式第二號(用紙ハ白色トシ大サハ日本標準規格B五トス)

號	徵用解除告知書	第	號
徵用告知書 交付年月日	何年何月何日	徵用解除告知書 交付年月日	第
<p>徵用解除告知書</p> <p>從事シテアリタル總動員業務ヲ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ名稱</p> <p>右ノ者何年何月何日ヲ以テ徵用ヲ解除セラレタルモノト看做サル</p> <p>何年何月何日生</p> <p>氏 名</p> <p>昭 和 年 月 日</p> <p>國府縣長官 氏 名 圖</p> <p>徵用解除告知書ノ交付ヲ受ケタル者ノ心得</p> <p>徵用解除告知書ノ交付ヲ受ケタル者ハ該令書ニ添附シタル受領證ニ受領年月日時ヲ記入シ捺印ノ上直ニ之ヲ返付スベシ</p>			
號	徵用解除告知書發付番號	第	號
受領證	一 徵用解除告知書(何年何月何日發付第何號)	右 受 領 人	昭 和 年 月 日 午 後 時 分
氏 名 圖	從事シテアリタル總動員業務ヲ指定軍需會社又ハ指定軍需工場ノ名稱	氏 名 圖	國府縣長官 氏 名 圖

記載心得

一、文字ハ楷書ヲ以テ明瞭ニ記載スルモノトス

二、徵用解除告知書ノ交付ヲ受ケタル者印章ヲ所持セザルトキハ花押又ハ捺印ヲ爲サシムルモ妨グチキモノトス

五 軍需會社徵用規則第四條第十四號ノ指定者

(昭和十九年一月七日 厚生省告示第二號)

軍需會社徵用規則第四條第十四號ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

- 一 指定軍需會社又ハ指定軍需工場トシテ厚生大臣ノ指定シタル日ニ於テ缺勤引續キ三月以上ニ及ブ者
- 二 勞務調整令施行規則第十條ノ二ノ規定ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ禁止又ハ制限ノ指定ヲ爲シタル業種又ハ職種ニ従事スル者ニシテ厚生大臣又ハ地方長官ニ於テ指定シタル禁止又ハ制限ノ範圍ニ該當スルモノ但シ國民職業指導所長ノ認可アリタル者ヲ除ク

六 應徵士服務紀律 (昭和十八年八月十日 厚生省令第三十六號)

- 第一條 國民徵用令第十六條ノ五ノ規定ニ基ク應徵士ノ服務ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 應徵士ハ徵用ノ本義ニ則リ左ノ紀律ヲ遵守スベシ
- 一 應徵士ハ職紀ヲ尙ビ責任ヲ重シ全能ヲ奮ヒ誠心職務ニ勉勵スベキコト
 - 二 應徵士ハ至誠上長ニ服従シ上下相信頼シ和衷協同互ニ敬愛スベキコト
 - 三 應徵士ハ率先挺身部下ノ模範トナリ其ノ信望ヲ一身ニ聚ムル如キ行動ヲ爲スベキコト
 - 四 應徵士ハ智識技能ノ鍊磨ニ努ムベキコト
 - 五 應徵士ハ氣節ヲ尙ビ廉恥ヲ重シ苟モ應徵士タルノ名譽ヲ毀損スルガ如キ所爲アルベカラザルコト
 - 六 應徵士ハ居常簡素ヲ旨トシ質實剛毅ノ氣風ヲ振起シ堅忍不拔ノ精神ヲ涵養スベキコト
 - 七 應徵士ハ保健衛生ニ留意シ體力ノ鍊成ニ努ムベキコト
 - 八 應徵士ハ職場保安ニ留意シ災害豫防其ノ他ノ措置ニ萬全ヲ期スベキコト
 - 九 應徵士ハ機械、器具、材料、製品其ノ他ノ物資ヲ尊重シ苟モ粗略ノ取扱アルベカラザルコト
 - 十 應徵士ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ知悉シタル機密ヲ保持シ防諜上遺憾ナキヲ期スベキコト
- 第三條 事業主タル應徵士ハ生産遂行ノ全責任ヲ負荷セラレタルモノナルノ自覺ニ徹シ率先垂範前條ノ紀律ヲ遵守スルノ外常ニ士氣ノ鼓舞ニ努メ明確ナル企圖ノ下ニ適時適切ナル指揮ヲ爲スト共ニ工場事業場總員一家ノ肉親的團結ヲ圖リ以テ職

力増強ノ實ヲ果スベシ

第四條 應徵士前二條ノ紀律ニ違背シ其ノ他應徵士タルノ本分ニ悖ル所爲アリタルトキハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第五條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 訓 告
- 二 隨 責
- 三 罷 免

訓告及隨責ハ文書ヲ以テ之ヲ行ヒ罷免ハ徵用解除ニ依リ之ヲ行フ

第六條 罷免及事業主タル應徵士ノ懲戒ハ厚生大臣、其ノ他ノ懲戒ハ當該管理工場若ハ指定工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監)之ヲ行フ

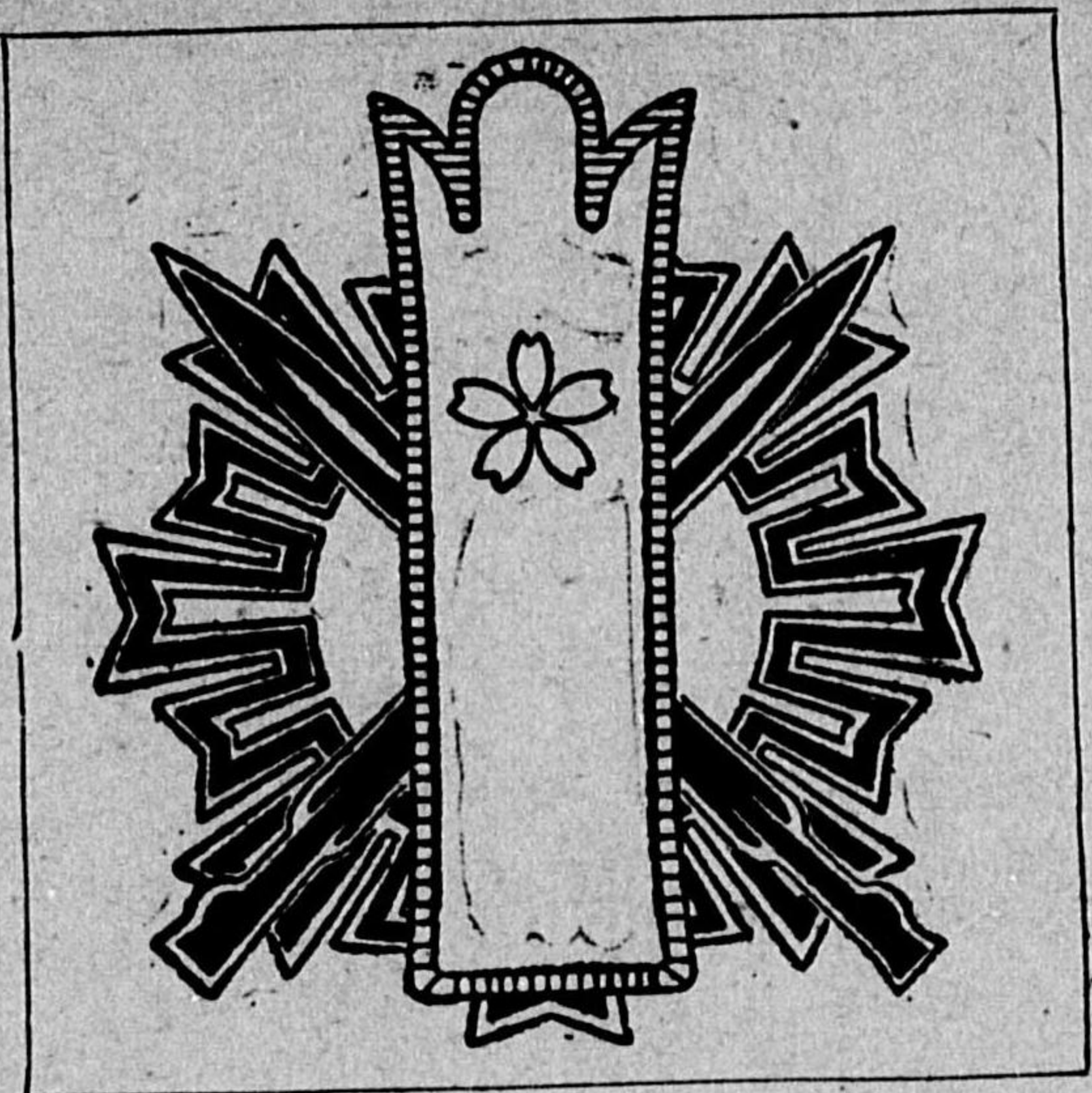
厚生大臣懲戒(訓告ヲ除ク)ヲ行ヒタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 應徵士ハ別表制式ニ依リ徽章ヲ左肋ニ裝著スベシ

被徵用者ニ非ザレバ前項ノ規定ニ依ル徽章ヲ裝著スルコトヲ得ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



- 一 本圖ハ實物ノ大サヲ示ス
- 一 地及色 布地國防色
- 一 楯 黒色
- 一 楯縁 金色又ハ黄色
- 一 櫻花 金色又ハ黄色
- 一 鉾 銀色又ハ紅海老茶色
- 一 鉾縁 銀色又ハ雀茶色
- 一 旭光 紅色及白色

七 國民徵用扶助規則

(改正 昭和十六年十二月二十二日厚生省令第六十八號 昭和十八年六月九日厚生省令第十七號)

第一條 國民徵用令第十九條ノ三ノ規定ニ依ル扶助ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 國民徵用令第十九ノ三第一項ノ家族ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ配偶者(届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下同シ)又ハ子ニシテ現ニ之ト同一ノ家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル
- 二 前號ニ掲グル者ヲ除クノ外被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者ノ徵用セラレル時又ハ徵用ヲ解除セラレル時又ハ徵用ヲ解除セラレル時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者
- 三 前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者ノ徵用セラレル時又ハ徵用ヲ解除セラレル時之ト同一ノ世帯ニ在リ且引續キ其ノ世帯ニ在ルモノ

第三條 國民徵用令第十九條ノ三第二項ノ遺族ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 死亡シタル被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ配偶者又ハ子ニシテ現ニ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ガ死亡ノ時屬シタル家ニ在ル者但シ養子ハ家督相續人ニ限ル
- 二 前號ニ掲グル者ヲ除クノ外死亡シタル被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ死亡ノ時ヨリ引續キ之ト同一ノ家ニ在ル者
- 三 前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外死亡シタル被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニ依リ扶養ヲ受クベキ者ニシテ被徵用者ノ徵

用セラレタル時又ハ徵用ヲ解除セラレタル時之ト同一ノ世帯ニ在リ且引續キ其ノ世帯ニ在ルモノ

第四條 扶助ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テノミ之ヲ爲ス

- 一 被徵用者徵用セラレタルニ因リ家族ト世帯ヲ異ニスルニ至リタル場合ニ於テ其ノ家族生活スルコト困難ナルトキ
- 二 被徵用者故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徵用ヲ解除セラレタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ家族生活スルコト困難ナルトキ

三 被徵用者徵用セラレ總動員業務ニ從事中故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲死亡シタル場合ニ於テ其ノ遺族生活スルコト困難ナルトキ

被徵用者徵用セラレタル場合ニ於テ家族ト世帯ヲ異ニセザル場合ト雖モ特別ノ事情ニ因リ其ノ家族ガ生活スルコト困難ナルトキハ之ニ對シ扶助ヲ爲スコトヲ得

第五條 扶助ハ生活ニ必要ナル限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

扶助ノ種類ハ生活扶助、醫療、助産、生業扶助及埋葬費ノ支給トス

第六條 扶助ハ扶助ヲ受ケントスル者ノ住所地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）之ヲ行フ

扶助ハ扶助ヲ受ケントスル者又ハ其ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノノ申請ニ依リ之ヲ行フ但シ地方長官必要アリト認ムルトキハ其ノ申請ナキ場合ト雖モ之ヲ行フコトヲ得

扶助ノ程度及方法ハ地方長官被徵用者ノ支給ヲ受クル給與又ハ被徵用者若ハ被徵用者タリシ者及扶助ヲ受ケントスル者ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ受クル保險給付、扶助其ノ他之ニ準ズベキモノ、所得、勞働能力其ノ他家庭ノ事情等ヲ調査シ之ヲ決定ス

第七條 扶助ハ扶助ヲ受クル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ

地方長官居宅扶助ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ適當ナラズト認ムルトキハ扶助ヲ受クル者ヲ適當ナル施設ニ收容シ又ハ收容ヲ委託シテ扶助スルコトヲ得

第八條 生活扶助ハ金銭又ハ物品ノ給與ニ依リ之ヲ行フ

第九條 生業扶助ハ生業ニ必要ナル資金、器具、資料ノ給與若ハ貸與ヲ爲シ又ハ生業ニ必要ナル技能ヲ授クルコトニ依リ之ヲ行フ

第十條 居宅扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ハ一人一日三十五圓以内トス

一世帯ニ於テ扶助ヲ受クル者二人以上アルトキハ前項ノ費用ハ之ヲ減額スルコトヲ得

第十一條 居宅扶助ノ場合ニ於テ醫療及生業扶助ノ爲支出スル費用ノ限度ハ地方長官厚生大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條 居宅扶助ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス

第十三條 第七條第二項ノ規定ニ依ル收容扶助ノ場合ニ於テ扶助ノ爲ニ支出スル費用ノ限度ハ地方長官厚生大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十四條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ埋葬ヲ行フ遺族ニ對シ埋葬費ヲ給ス

埋葬ノ爲支出スル費用ハ十二圓以内トス

扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ遺族ナキトキハ扶助ヲ行ヒタル地方長官ニ於テ埋葬ヲ行フベシ

第十五條 災害ニ因リ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ一世帯總額三十圓ヲ限り生活扶助ノ爲金圓若ハ物品ヲ臨時給與シ又ハ之ヲ併セ給與スルコトヲ得

第十六條 被徵用者又ハ被徵用者タリシ者六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者竝ニ其ノ家族及遺族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第十七條 被徵用者又ハ被徵用者タリシ者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間其ノ者竝ニ其ノ家族及遺族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第十八條 被徵用者ノ家族又ハ遺族六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對シ扶助ヲ爲サズ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同ジ

第十九條 被徵用者ニシテ逃亡シタル者ニ付テハ其ノ逃亡ノ間其ノ家族ニ對シ扶助ヲ爲サズ

第二十條 被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ニシテ怠惰又ハ素行不良ナル者ニ付テハ其ノ被徵用者タリシ者竝ニ其ノ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族及遺族ニ對シ情狀ニ因リ扶助ヲ爲サズ又ハ扶助ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

又ハ被徵用者タリシ者ノ家族及遺族ニ對シ情狀ニ因リ扶助ヲ爲サズ又ハ扶助ノ程度ヲ減少スルコトヲ得

第二十一條 被徵用者タリシ者ニシテ日本ノ國籍ヲ失ヒタル者ニ對シテハ扶助ヲ爲サズ

第二十二條 被徵用者ノ家族ニ對スル扶助ハ必要アル場合ニ於テハ被徵用者徵用解除後仍二十日以内之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十三條 被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ家族ニ對スル扶助ハ被徵用者又ハ被徵用者タリシ者死亡後仍三月以内之ヲ繼續スルコトヲ得

續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ遺族トシテノ扶助ハ之ヲ爲サズ

第二十四條 被徵用者第四條第一項第二號ニ該當スル場合ニ於テハ被徵用者ノ家族ニ對スル扶助ハ被徵用者徵用解除後仍三月以内之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者ニ對シテハ其ノ間被徵用者タリシ者ノ家族トシテノ扶助ハ之ヲ爲サズ

第二十五條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ第十條第一項、第十二條、第十四條第二項及第十五條ノ規定ニ依ル金額ヲ増加スルコトヲ得

第二十六條 扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ハ地方長官之ヲ行フ

第二十七條 扶助ノ開始廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ處分ハ扶助ヲ受クル者ノ住所地市町村長又ハ之ニ準ズベキモノヲ經テ之ヲ通達ス

地方長官扶助ノ開始、廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ヲ爲シタルトキハ被徵用者ヲ使用シ又ハ使用シタル官衙ノ長又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ其ノ旨通知スベシ

第二十八條 管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ被徵用者ニシテ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用セラレ又ハ使用セラレタルモノノ徵用ニ關スル事項ニ付扶助ヲ受ケントスル者ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノヨリ照會ヲ受ケタルトキハ速ニ之ヲ通知スベシ

管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル被徵用者故意又ハ重大ナル過失ニ因ルニ非ズシテ業務上傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲徵用ヲ解除セラレ又ハ死亡シタルトキハ速ニ當該被徵用者タリシ者ノ住所地市町村長若ハ之ニ準ズベキモノニ其ノ旨通知スベシ

管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用スル扶助ヲ受クル家族ヲ有スル被徵用者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ速ニ扶助ヲ行フ地方長官ニ其ノ旨通知スベシ

一 支給ヲ受クル給料、賃金又ハ給料、賃金ニ準ズベキ給與ノ額ニ著シキ變更アリ扶助ノ廢止又ハ扶助ノ程度ノ變更ヲ要

スト認メラルトキ

二 第十六條、第十七條、第十九條又ハ第二十條第一項ニ該當スルトキ

三 従事スベキ總動員業務ヲ行フ管理工場又ハ指定工場ニ付徵用ヲ變更セラレタルトキ

第二十九條 扶助ヲ拒マレタル者又ハ扶助ヲ廢止若ハ停止セラレタル者ハ六十日以内ニ厚生大臣ニ對シ更ニ審査ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出願ハ文書ヲ以テシ處分ヲ爲シタル地方長官ヲ經由シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

厚生大臣ハ審査ノ上必要ト認ムルトキハ地方長官ヲシテ扶助ヲ爲サシメ又ハ扶助ノ廢止若ハ停止ノ處分ヲ取消サシムルコトヲ得

第三十條 管理工場又ハ指定工場ノ事業主ハ被徵用者ニシテ當該管理工場又ハ指定工場ニ使用セラレ若ハ使用セラレタルモノ又ハ其ノ家族若ハ遺族ニ對シ爲サレタル扶助ニ要シタル費用ヲ國庫ニ納入スベシ

被徵用者徵用ヲ解除セラレ又ハ死亡シタル場合ニ於テ事業主ガ本人又ハ遺族ニ對シ他ノ法令ノ規定ニ依ル又ハ之ニ準ズベキ程度ノ出捐ヲ爲シタルトキハ厚生大臣ハ前項ノ費用ノ納入ヲ免除スルコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十八年六月九日厚生省令第十七號)

本令ハ昭和十八年五月二十二日ヨリ之ヲ適用ス

八 國民徵用扶助規則施行細則

第一條 國民徵用扶助規則ニ依リ扶助ヲ受ケントスル者ハ第一號様式ニ依リ其ノ住所地市町村長ヲ經テ知事ニ申請スベシ

扶助ヲ受ケントスル者一世帯二人以上アルトキハ世帯主又ハ之ニ代ルベキ者前項ニ依リ申請スベシ

第二條 市町村長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ第二號様式ノ扶助調書ヲ作成シテ戸籍謄本其ノ他必要書類ヲ添附シ速ニ知事ニ進達スベシ

市町村長前條ノ申請ナキ場合ニ於テ扶助ノ必要アリト認ムル者アルトキハ第一號様式ニ依リ知事ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ第一項ノ扶助調書ヲ作成シ戸籍謄本其ノ他必要書類ヲ添附スベシ

第三條 市町村長ハ國民徵用扶助規則第二十二條ノ規定ニ依リ扶助ヲ繼續スル必要アリト認ムルモノアルトキハ其ノ期間並ニ理由ヲ具シ被徵用者ノ徵用解除前豫メ知事ニ具申スベシ

第四條 收容扶助ノ場合ニ依ル生活扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 市ニ在リテハ 一人一日 何 錢

二 町村ニ在リテハ 一人一日 何 錢

生活扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第五條 醫療ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 居宅扶助ノ場合

- 診察料 一人一回 何 錢
 - 藥治料 一人一日 何 錢
 - 處置料 一人一回 何 錢
 - 手術料 一人一回 何 錢
 - 検査料並ニ注射料 一人一回 何 錢
 - 文書料 一通 何 錢
- 以上ノ區分ニ依ラザル場合 一人一日 何 錢

二 收容扶助ノ場合

入院料 一人一日 何 錢

醫療ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第六條 收容扶助ノ場合ニ於テ助産ノ爲支出スル費用ハ一人一日何圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

助産ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第七條 生業扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 資金、器具、資料ノ給與若ハ貸與ノ場合 一世帯ニ付何圓
- 二 生業ニ必要ナル技能ヲ授クル場合
 - 居宅扶助ノ場合 一人一日 何 錢
 - 收容扶助ノ場合 一人一日 何 錢

生業扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

第八條 扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ埋葬ヲ行ヒタル遺族ニシテ埋葬費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ第三號様式ニ

依リ死亡シタル者ノ住所地市町村長ヲ經テ知事ニ申請スベシ

市町村長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ直ニ知事ニ進達スベシ

扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ遺族ナキトキハ市町村長ハ速ニ知事ニ報告スベシ

第九條 市町村長ハ第四號様式ニ依ル徵用扶助臺帳ヲ備ヘ記載事項ニ異動アル毎ニ加除訂正シ置クベシ

第十條 扶助ヲ受クル者申請書記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ第一條ノ申請人又ハ之ニ代ル者ヨリ直ニ住所地(住所移轉

ノ場合ハ舊住所地)市町村長ヲ經テ知事ニ届出ツベシ

第十一條 市町村長ハ扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ理由及意見ヲ具

シ直ニ知事ニ報告スベシ

第十二條 市町村長ハ常ニ被扶助者ノ生活狀況ニ注意シ毎年九月、三月ノ末日ヲ期トシ其ノ狀況ヲ翌月十日迄ニ知事ニ報告

スベシ

第十三條 國民徵用扶助規則第二十九條ノ規定ニ依リ厚生大臣ニ審査ヲ出願スル場合ニ於テハ扶助ノ拒否又ハ廢止、停止ノ

指令ヲ交付シタル市町村長ヲ經由スベシ

附 則

本令ハ

ヨリ之ヲ施行ス

(居宅扶助ノ場合ニ於テ生活扶助ノ爲支出スル費用ヲ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ省令ノ限度額ヲ超ニ規定スル府縣ニ於ケル例)

第四條 生活扶助ノ爲支出スル費用ハ左ノ限度ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 居宅扶助ノ場合
 - 市ニ在リテハ 一人一日 何 錢
 - 町村ニ在リテハ 一人一日 何 錢
- 二 收容扶助ノ場合
 - 市ニ在リテハ 一人一日 何 錢
 - 町村ニ在リテハ 一人一日 何 錢

收容扶助ノ場合ニ於ケル生活扶助ノ爲支出スル費用ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ實費トス

備考

様式ハ參考ノ爲別紙ノ通掲グルモ道府縣ニ於テ適宜之ヲ定ムルコト

第一號様式

國民徵用扶助申請

受 ケ ン	扶 助 ヲ	本 籍	被 徵 用 者 又 ハ 被 徵 用 者 ト シ テ ノ 續 柄	氏 名	生 年 月 日	職 業 及 勤 先	扶 助 ノ 種 類 ニ 關 ス ル 希 望
	住 所	氏 名					

事 申 請 ノ 由	被 徵 用 者 又 ハ 被 徵 用 者 者 ト シ テ ノ 續 柄	本 籍	氏 名	生 年 月 日	事 由
	氏 名	氏 名			

(扶助規則第四條ニ依ル生活スルコト困難ニ陥リタル事由ヲ詳記スルコト)

右ノ通ニ付扶助被成下度此段申請候也

年 月 日

申請人 世帯主又ハ之ニ代ルベキ者

氏 名 〇

府 縣 知 事 宛

備考

- 一 本様式ハ扶助ヲ受ケントスル者二人以上アル場合ノ様式ナリ、故ニ扶助ヲ受ケントスル者一人ナル場合ハ申請人ハ本人又ハ法定代理人トス
- 二 醫療ヲ受ケントスル者ハ(一)症狀 (二)投藥ノ種類、數量 (三)治療ニ至ル迄ノ見込日數及治療費所要見込額 (四)入院ノ要否等ヲ記載シタル醫師ノ診断書ヲ添付スルコト

及方法ニ關スル意見	
參考事項	

右ノ通ニ候也

年 月 日

市町村長 氏

印

府 縣 知 事 宛

備 考

被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ「徵用ニ關スル事項」ハ市町村長ニ於テ被徵用者ヲ使用シ又ハ使用シタル官衙ノ長又ハ管理工場若ハ指定工場ノ事業主ニ之ヲ照會シ其ノ照會ニ基ク通知書ノ添附ニ據ルコト但シ國民徵用扶助規則第二十八條第二項ノ規定ニ依ル事業主ノ通知ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ通知書ノ添附ニ依リ差支ナキコト

第三號様式

國民徵用扶助規則ニ依ル埋葬費給與申請

死亡者ノ生前ニ於ケル扶助ノ種類並ニ扶助指令年月日番號	被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ氏名			被徵用者又ハ被徵用者タリシ者ノ氏名
	本 籍	住 所	氏 名	
死亡年月日	死亡年月日	埋葬年月日	備 考	
			年 月 日	年 月 日
葬 費	金 圓 内 譯	何 何 何	何 何 何	何 何 何
申請ノ事由				

右ノ通ニ付埋葬費給與被成下度死亡診斷書相添ヘ此段申請候也

年 月 日

住 所

申請人(死亡者トシテ) 氏

名 印

府 縣 知 事 宛

第四號様式

國民徵用扶助臺帳

被徵用者	(扶助規格第四條第一項第二項 號該當)							扶助申請人		備考				
	徵用令書發付者 年月日及番號	徵用令書發付 年月日	徵用解除又ハ死亡ノ事由	徵用令書記載ノ徵用ノ期間	從事シ又ハ從事シタル場所	從事シ又ハ從事シタル職業	從事シ又ハ從事シタル總動員業務	住所	本籍					
被徵用者 又ハ管理工場若ハ指定工場ノ名稱及所在地	徵用令書發付者 年月日及番號	徵用令書發付 年月日	徵用解除又ハ死亡ノ事由	徵用令書記載ノ徵用ノ期間	從事シ又ハ從事シタル場所	從事シ又ハ從事シタル職業	從事シ又ハ從事シタル總動員業務	被徵用者又ハ被徵用者トノ續柄	職業並ニ勸先	扶助ノ申請又ハ具申年月日	扶助ノ開始又ハ指今年月日	扶助ノ種類及方法	扶助ノ廢止停止又ハ變更ノ事由及年月日	年 月 日生
	氏名	本籍	年 月 日生											

記事	又ハ被徵用者 者タリシ者				
	徵用解除又ハ死亡ノ事由	徵用令書記載ノ徵用ノ期間	從事シ又ハ從事シタル場所	從事シ又ハ從事シタル職業	從事シ又ハ從事シタル總動員業務

九 被徵用者旅客運賃割引證交付規程

改正 昭和十七年五月十二日厚生省告示第二百八十五號
昭和十七年十一月十八日厚生省告示第六百六十二號

第一條 國民徵用令ニ依リ徵用セラレタル者（以下被徵用者ト稱ス）徵用令書ノ交付ヲ受ケ指定ノ場所ニ出頭スル爲旅行セ
ントスルトキハ徵用令書ヲ發シタル地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ニ被徵用者旅客運賃割引證（以下割
引證ト稱ス）ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第二條 割引證ノ交付申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 被徵用者指定ノ場所ニ出頭スルトキハ徵用令書ヲ携帯シ乘車船中何時ニテモ鐵道係員又ハ國民徵用事務關係職員ノ
請求アルトキハ之ヲ呈示スベシ

第四條 國民徵用事務關係職員ハ割引證ヲ記名人以外ノ者ニ於テ携帯セルヲ發見シタルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第五條 割引證ノ交付ヲ受ケタル者之ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク交付ヲ受ケタル地方長官ニ届出
ツベシ

割引證ハ已ムヲ得ザル事由ニ因リ毀損又ハ亡失シタル場合ノ外再交付セズ

第六條 被徵用者割引證不用ニ歸シタルトキハ速ニ交付ヲ受ケタル地方長官ニ返納スベシ

十 旅客及手荷物運送規則抄

（昭和十七年二月二十五日
鐵道省告示第二十六號）

第九十三條 國民徵用令ニ依リ徵用ヲ受ケタル者ガ應徵ノ爲旅行ヲ爲ス場合ニ於テハ所定ノ割引證ヲ收受シ三等片道旅客運
賃ノ二割ヲ低減ス

前項ノ割引證ハ鐵道省ニ於テ作製シ監督官廳ヲ經テ道、府、縣ヨリ本人ニ之ヲ交付ス其ノ様式ハ左ノ如シ

第 九 十 條		
被徵用者旅客運賃割引證		
乘車船區間	自 至	驛 驛
使用者氏名	當	
年齢	年	
乘車船等級割引率	三等 二割	
昭和 年 月 日發行		
北海道廳長官又ハ 府 縣 知 事 氏 名 職 印		

九・一 概

表

一	本證ニ依リ旅客運賃ノ割引ヲ受クル者ハ徵用令書ヲ携帶シ係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス
二	本證ハ被徵用者が應徵ノ爲旅行スル場合ニ限り使用シ得ルモノニシテ番號、使用者ノ氏名、年齢及發行月日ハ發行者ニ於テ記入シ本人ニ之ヲ交付スベキモノトス
三	發行者ニ於テ記入スベキ事項ヲ記入セズシテ交付シタル割引證ハ之ヲ無効トシテ回收ス
四	本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スルコトヲ得ズ
五	本證ニ依リ購求シタル割引乗車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スルコトヲ得ズ
六	本證ノ記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限り之ヲ有効トス (一) 發行者ノ記入スベキ事項ニ付テハ發行者ノ職印 (二) 使用者ノ記入スベキ事項ニ付テハ使用者ノ認印
七	本證ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ三箇月トス

第九十四條 前條ニ依リ旅行ヲ爲ス旅客ハ徵用令書ヲ携帶シ係員ノ請求アルトキハ何時ニテモ之ヲ呈示スベキモノトス

第三編 重要事業場勞務管理令關係法規

一 重要事業場勞務管理令

(昭和十七年二月二十五日勅令第六號、昭和十八年六月十五日勅令第五十一號改正、昭和十八年十一月一日勅令第八百五十五號改正)

第一條 重要事業場ニ於ケル勞務管理ノ指導監督ノ爲ニスル國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ使用、解雇、從業、退職及賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令並ニ同法第七條ノ規定ニ基ク勞働爭議ノ豫防及解決ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於テ重要事業場ト稱スルハ總動員物資ノ生産若ハ修理又ハ國家總動員上必要ナル運輸ニ關スル業務ヲ營ム工場、鑛山其ノ他ノ場所ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第三條 前條ノ指定ハ重要事業場ノ事業主(以下事業主ト稱ス)ニ對スル通知ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 事業主ハ重要事業場ノ指定アリタルトキハ其ノ旨ヲ重要事業場ノ從業者(以下從業者ト稱ス)ニ周知セシムベシ

第五條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業規則ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第六條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ從業規則ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第七條 事業主ハ從業規則ニ依リ從業者ヲ從業セシムベシ

第八條 前項ノ規定ハ事業主ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ牴觸スル場合又ハ從業

者ヲ從業セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六條 事業主ハ從業施行ヲ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ從業者ニ周知セシムベシ但シ從業規則中從業者ノ一部ニ關係アル事項ハ適當ナル方法ニ依リ關係從業者ニ對シテノミ之ヲ知ラシムルヲ以テ足ル事業主從業規則ヲ變更シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ之ヲ周知セシムベシ

第七條 從業者ハ從業規則又ハ從業規則ニ基キ事業主ノ爲ス指示ニ從ヒ重要事業場ノ業務ニ従事スベシ
事業主ニ對スル第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ第五條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基キ事業主ノ指示アリタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ從業者ハ其ノ指示ニ從ヒ重要事業場ノ業務ニ従事スベシ

前二項ノ規定ハ從業者ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ抵触スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第八條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業時間ノ延長若ハ短縮、休日、遅刻、早退、缺勤若ハ休暇ノ制限又ハ從業者ノ従事スベキ業務其ノ他ノ從業者ノ使用若ハ從業ニ關スル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業者ノ解雇又ハ退職ヲ命ズルコトヲ得

第十條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金規則、給料規則及昇給内規ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ賃金規則、給料規則又ハ昇給内規ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 事業主ハ賃金規則及給料規則ヲ支拂ヒ昇給内規ニ依リ從業者ヲ昇給セシムベシ

前項ノ規定ハ第十三條ノ規定ニ依ル命令又ハ事業主ニ對スル第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ抵

觸スル場合又ハ賃金若ハ給料ヲ支拂ヒ若ハ昇給セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第十二條 第六條ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ之ヲ準用ス

第十三條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ從業者ノ賃金、給料、手當、實物給與賞與、又ハ臨時ノ給與ニ關シ事業主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得從業者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上又ハ給料ノ額ガ増減セラルル虞アル場合ニ於テ物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ亦同ジ

第十四條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ重要事業場ニ備置クベシ

第十五條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ノ爲ス從業者ノ教養、訓練、體育其ノ他從業者ノ厚生施設ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

第十六條 厚生大臣ハ労働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、從業者其ノ他ノ關係人ニ對シ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得
厚生大臣ノ指定スル當該官吏ハ労働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、從業者其ノ他ノ關係人ニ出頭ヲ命ジ、説明ヲ求メ又ハ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十七條 事業主ハ主任勞務擔當者ヲ選任シ重要事業場ノ勞務管理ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ

厚生大臣同一人ガ二以上ノ重要事業場ヲ營ム場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事業主ニ對シ各重要事業場ノ主任勞務擔當者ノ外中央勞務擔當者ヲ選任シ其ノ總テノ重要事業場ノ勞務管理ニ關スル事項ヲ擔任セシムベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 事業主前條ノ規定ニ依リ主任勞務擔當者又ハ中央勞務擔當者ヲ選任シタルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ者ノ履歴書ヲ具シ其ノ旨ヲ遲滯ナク厚生大臣ニ報告スベシ

第十九條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ主任勞務擔當者、中央勞務擔當者其ノ他重要事業場ノ勞務管理ニ關スル業務ニ從事スル者ノ職務ノ執行ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 厚生大臣廳府縣及鑛山監督局ノ高等官中ヨリ勞務管理官ヲ命ジ厚生大臣ノ命ヲ承ケ厚生大臣ノ指定スル重要事業場ニ付従業者ノ使用、從業、賃金、給料其ノ他勞務管理ニ關スル事項ニ關シ事業主及従業者ノ監督指導ヲ爲サシム

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ル勞務管理官ノ外厚生省高等官中ヨリ勞務管理官ヲ命ジ上官ノ命ヲ承ケ厚生大臣ノ指定スル重要事業場ニ付従業者ノ使用、從業、賃金、給料其ノ他勞務管理ニ關スル事項ニ關シ事業主及従業者ノ監督指導ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十一條 厚生大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ重要事業場ノ勞務管理ノ狀況ニ關シ事業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ重要事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ當該重要事業場ヲ所管スル勞務管理官ヲ除クノ外其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第二十二條 厚生大臣ハ第二條、第四條、第五條第二項、第八條乃至第十條、第十一條第二項、第十三條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニシテ工場事業場管理令ニ依リ管理スル工場事業場ニ關スルモノニ付テハ當該工場事業場ヲ管理スル主務大臣ニ協議スベシ

第二十三條 本令ハ國及道府縣ノ事業ニ之ヲ適用セズ

第二十四條 第十條乃至第十四條ノ規定中會社經理統制令第九條ノ社員ニ關スルモノハ同令第七條ノ會社ニ之ヲ適用セズ

第二十五條 鑛業法第七十五條及工場法施行令第二十七條ノ四ノ規定ハ事業主ガ第四條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタ

ル場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ

賃金統制令及工場法施行令第二十四條ノ規定ハ事業主ガ第十條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタ場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ

第二十六條 厚生大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監）又ハ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得

第二十七條 本令中厚生大臣トアリ又ハ厚生省高等官トアルハ軍需省所管企業ニ於ケル勤勞管理及給與ニ付テハ軍需大臣又ハ軍需省高等官トス

附則（昭和十七年二月二十五日勅令第百六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十八年六月十五日勅令第五百一號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和十八年十一月勅令第八百五十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二 重要事業場勞務管理令施行規則

昭和十七年二月二十八日厚生省令第十號
昭和十八年二月十五日厚生省令第三號改正
昭和十八年七月三十一日厚生省令第三十號改正
昭和十八年十一月一日厚生省令第三十號改正
昭和十九年六月十二日厚生軍需省令第二號改正

第一條 重要事業場勞務管理令（以下令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依リ指定シタル重要事業場（以下重要事業場ト稱ス）ノ事業主（以下事業主ト稱ス）ハ其ノ重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル月ヨリ二十日以内ニ令第四條第一項及第十條第一項ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

國民徵用令第十八條第二項ノ規定ニ依リ厚生大臣ノ認可ヲ受ケタル事項（國民徵用令第二十二條ノ二ノ規定ニ依ル場合ヲ含ム）ニシテ從業者ノ給與ニ關スルモノニ付テハ令第四條第一項又ハ第十條第一項ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二條 從業規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ鐵道營業法第二十條及第二十三條第二項ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受ケベキ事項並ニ地方鐵道係員職制及軌道係員規程ニ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 從業者ノ身分、職務及指揮監督ニ關スル事項
- 二 始業及終業ノ時刻、休憩時間、休日並ニ交替制ニ於ケル就業轉換ニ關スル事項
- 三 早出、残業及宿直ニ關スル事項
- 四 入場、退場、遲刻及早退ニ關スル事項
- 五 缺勤及休暇ニ關スル事項
- 六 保健衛生ニ關スル事項
- 七 危害防止ニ關スル事項

八 褒賞及懲戒ニ關スル事項

九 解雇及退職ニ關スル事項

前項各號ニ掲グル事項ノ外從業ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ從業規則ニ記載スルコトヲ得

第三條 令第五條第二項ノ許可ノ申請ニハ從業規則ニ依リ得ザル理由並ニ從業ノ方法及期間ヲ具スベシ

第四條 事業主ノ從業者ニ對シ爲ス指示ガ令第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第五條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基クモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨ヲ從業者ニ明示スベシ

第五條 賃金規則ニハ勞務者ノ賃金ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 賃金締切ノ期間並ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項
- 二 賃金計算ノ基礎ト爲ルベキ所定就業時間ニ關スル事項
- 三 定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額ニ關スル事項
- 四 請負賃金制ニ於ケル保證給ノ初給額及最低額ニ關スル事項
- 五 單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ關スル事項
- 六 手當ヲ支給スルトキハ其ノ名稱及額又ハ率並ニ給與條件ニ關スル事項
- 七 實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項
- 八 遲刻又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法ニ關スル事項
- 九 賃金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項
- 十 其ノ他賃金ニ關シ必要ナル事項

第六條 給料規則ニハ職員ノ給料ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 給料締切ノ期間並ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項
- 二 基本給料ノ初給額ニ關スル事項
- 三 手當ヲ支給セントスルトキハ其ノ手當ノ名稱及額又ハ率並ニ給與條件ニ關スル事項
- 四 實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項
- 五 給料ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項
- 六 其ノ他給料ニ關シ必要ナル事項

第七條 事業主ノ從業者ニ對スル賃金又ハ給料ノ支拂ガ令第十三條若ハ令第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第十一條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基キ賃金規則又ハ給料規則ニ依ラザルモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨從業者ニ明示スベシ

第八條 昇給内規ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 昇給期ニ關スル事項
- 二 昇給條件ニ關スル事項
- 三 一ノ回昇給ノ最高額、最低額及標準額ニ關スル事項
- 四 其ノ他昇給額ニ關シ必要ナル事項

第九條 令第十一條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ賃金規則、給料規則又ハ昇給内規ニ依リ得ザル理由並ニ賃金、給料又ハ昇給ノ額又ハ率及給與條件ヲ具スベシ

第十條 事業主從業者ニ對シ賞與又ハ臨時給與ヲ支給セントスルトキハ所管勞務監理官承認ヲ受クベシ

前項ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ依ル支給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ノ承認ノ申請書ハ様式第二號及第三號ニ依リ賞與又ハ臨時給與ノ支給ニ關スル申請ニハ個人給與額算出基準ヲ添付スベシ

第十一條 事業主ハ令第十條第一項ノ認可アリタルトキヨリ三十日以内ニ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ從業者ノ賃金又ハ給料ヲ記載スベシ但シ日雇入ルル從業者ノ賃金又ハ給料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 賃金統制令施行規則第三十六條乃至第三十九條ノ規定ハ賃金臺帳及給料臺帳ニ付テハ準用ス但シ同規則第三十六條第六項及第三十八條中地方長官トアルハ厚生大臣軍需省所管企業ニ付テハ軍需大臣トス

第十三條 事業主ハ毎年十一月末日迄ニ左ノ事業ニ付翌年中ニ於テ實施スベキ計畫ヲ定ムベシ

- 一 職員ノ教養及訓練ニ關スル事項
- 二 幹部勞務者ノ精神訓練及技能教育ニ關スル事項
- 三 青少年勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項
- 四 一般勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項
- 五 從業者ノ體育ニ關スル事項

當該重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於テハ第一項計畫ヲ定ムベキ期限ハ其ノ指定ノ日ヨリ二月以内トス

第十四條 厚生大臣(軍需省所管企業ニ於ケル勤勞管理ニ關スル事項ニ付テハ軍需大臣)必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ給食施設應急診療方法其ノ他ノ厚生施設ヲ爲スコトヲ命ズルコトアルベシ

第十五條 削除

第十六條 削除

第十七條 削除

第十八條 令第十六條第一項ノ規定ニ依リ事業主ハ從業者ガ作業時間外ニ於テ從業條件其ノ他ニ關シ勞務監理官其ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第十九條 令第十六條第一項ノ規定ニ依リ重要事業場ノ從業者ハ事業主ガ從業條件其ノ他ニ關シ勞務監理官其ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グルコトヲ得ズ

第二十條 令第十六條第二項ノ規定ニ依リ左ノ官吏ヲ指定ス

- 一 所管勞務監理官タル官吏
- 二 勞務監督官タル官吏
- 三 鑛山監督局ノ鑛務監督官タル官吏

第二十一條 事業主ハ主任勞務擔當者及中央勞務擔當者ニ從業者ニ關スル左ノ事項ヲ擔任セシムベシ

- 一 雇入、解雇其ノ他ノ人事ニ關スル事項
- 二 從業規則ノ制定、變更及運用ニ關スル事項
- 三 賃金、給料及昇給ニ關スル事項
- 四 教養、訓練、體育其ノ他厚生ニ關スル事項
- 五 其ノ他勞務管理上必要ナル事項

第二十二條 事業主ハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年中ノ從業者ノ厚生ニ關スル施設ノ計畫ヲ毎年十一月末日迄ニ定ムベシ

當該重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於テハ前項ノ施設ノ計畫ヲ定ムベキ期限ハ其ノ指定ノ日ヨリ二月以内トス

第二十三條 事業主ハ様式第五號乃至第七號ニ依リ毎月ノ從業者ノ殘業、遲刻、早退、缺勤及懲戒ノ狀況調ヲ作成スベシ

第二十四條 事業主左ノ場合ニ於テハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ遲滯ナク所管勞務監理官ニ當該事項ノ概況ヲ速報スベシ

- 一 重要事業場ニ於テ從業者ノ死傷發生シタルトキ
- 二 重要事業場ニ於テ傳染病發生シタルトキ
- 三 重要事業場ニ勞働紛議發生シ又ハ其ノ發生ノ虞アリト認ムルトキ
- 四 從業者ヨリ從業條件其ノ他ニ關シ申入ヲ受ケタルトキ
- 五 國民徵用令ニ依ル被徵用者ニ關シ傷痕、疾病、死亡、逃走其ノ他長期ニ亙リ從業ヲ爲シ得ザル事故發生シタルトキ
- 六 從業者ニ減給以上ノ懲戒ヲ加ヘントスルトキ
- 七 重要事業場ニ於テ不時ノ災害アリタルトキ
- 八 令又ハ本令ニ基ク厚生大臣(軍需省所管企業ニ付テハ軍需大臣)ノ命令ニ基キ必要ナル措置ヲ爲シタルトキ

第二十五條 令第二十一條第二項ノ規定ニ依ル證明ハ様式第八號ニ依ル

第二十六條 令及本令ノ規定ニ依リ厚生大臣(軍需省所管企業ニ付テハ軍需大臣)ニ提出スル報告書若ハ認可ノ申請書ハ所

(記載注意)

- 1 本表へ適宜必要ニ應ジ職場別ニ作成スルコト
- 2 本表ハ職員ト勞務者ノ別ニ作成スルコト
- 3 職員ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「勞務者」ヲ抹消シ、勞務者ニ關スル調査ナルトキハ括弧内ノ「職員」ヲ抹消スルコト
- 4 就業人員ハ當日實際ニ就業セル人員ヲ記載スルコト
- 5 殘業人員率ハ次式ニ依リ計算スルコト

$$\text{殘業人員率} = \frac{\text{殘業人員}}{\text{就業人員}} \times 100$$
- 6 殘業時間率ハ次式ニ依リ計算スルコト

$$\text{殘業時間率} = \frac{\text{殘業延時間}}{\text{所定就業時間} \times \text{就業人員}} \times 100$$
- 7 本表ノ記載事項ニシテ陸海軍大臣ニ依リ軍用資源總務トシテ指定セラレタルモノハ記載ノ限ニ在ラザルコト

様式第六號 (用紙ノ大サハ日本標準規格 B 4 縦二五・七釐 トス)

從業者 (職員) 遲刻早退缺勤狀況調

事業場名

昭和 年 月 分

事業主氏名

區分	性別		日												計			
	男	女	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二				
在籍從業者數																		
遲刻者數																		
遲刻率																		
早退者數																		
早退率																		
缺勤狀況	公勤																	
	私勤																	
	傷者																	
	病者																	
以上	缺勤																	
	計																	
公休者數																		

様式第八號
 用紙ノ大サハ日本標準規格A7
 横一〇・七・四種トシ中央點線ノ所
 コリニ折トス

(表 面)

重要事業場臨檢票

(裏 面)

<p>● 第 號 昭和 年 月 日 交付</p> <p style="text-align: center;">官 職 氏 名</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 厚生省、府縣又 〆 嶺山督監局印 </div>	<p>國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場合ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ屆簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得</p> <p>國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲戒又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス</p> <p>重要事業場勞務管理令第二十一條 厚生大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ重要事業場ノ勞務管理ノ狀況ニ關シ事業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ重要事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得</p> <p>前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テ當該重要事業場ヲ所管スル勞務監理官ヲ除クノ外其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムルシ</p> <p>重要事業場勞務管理令施行規則第二十五條 令第二十一條第二項ノ規定ニ依リ證票ハ様式第八號ニ依ル</p>
--	--

三 重要事業場勞務管理令中職權委任 (昭和十八年十一月二十二日 厚生省告示第五百七十四號)

重要事業場勞務管理令第二十六條ノ規定ニ依リ同令中(第二條、第二十條第二項及第二十二條ヲ除ク)厚生大臣ノ職權ハ之ヲ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監)ニ委任ス

第四編 重要事業場勞務管理令に基く諸規則
の記載例

一 職員從業規則記載例

第一章 總 則

第一條 職員ハ國體ノ本義ニ基ク皇國産業ノ國家的使命ト之ガ指導者タル自己ノ重責トヲ認識シ和親協力以テ職分奉公ノ誠ヲ效スベシ

第二條 職員ハ本則ヲ遵守スルノ外上司ヲ尊敬シ同僚互ニ禮儀ヲ重シ部下ニ對シテハ率先垂範克ク之ヲ指導スベシ

第三條 職員當事業場ニ服務シタルトキハ左ノ事項ヲ事務所ニ届出ヅベシ

一 住所又ハ居所

二 家族ノ氏名、年齢、職業及續柄

三 通勤ノ方法

前項各號ノ一ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク事務所ニ之ヲ届出ヅベシ

第二章 身分職務及指揮監督

第四條 當事業場ニ左ノ職員ヲ置ク

工場長、技師長、技師、技師補、技手、技手補、主事、主事補、書記、書記補、雇(例示)

第五條 工場長ハ事業主ノ命ヲ承ケ當事業場ノ業務一切ヲ掌理ス

技師長ハ事業主及工場長ノ命ヲ承ケ當事業場ニ於ケル技術全般ニ關スル事務ヲ掌理ス

第六條 當事業場ニ於ケル業務ヲ分掌スル爲分擔組織ヲ左ノ通定ム

(左記省略)

第七條 課ニ課長ヲ置サ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上司ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理シ課員ヲ指揮監督ス

課長ハ其ノ課ノ業務ニ關シ直接ノ責任者トス

第八條 工場長、技師長、課長以外ノ課員ハ各課ニ分屬ス

課員ノ分擔事務ハ課長上司ノ命ヲ承ケ之ヲ定ム

課員ハ課長ノ命ヲ承ケ其ノ分擔事務ニ従事スルモノトス

第九條 職員ハ服務中及出入場ノ際所定ノ徽章ヲ佩用スベシ

第三章 始業、終業、休憩及休日

第十條 服務時間ヲ左ノ通定ム

自〇月〇日 至〇月〇日 午前〇時ヨリ午後〇時迄

自〇月〇日 至〇月〇日 午前〇時ヨリ午後〇時迄

第十一條 業務繁忙ナルトキハ其ノ他業務上ノ必要ニヨリ服務時間外ト雖モ隨時服務ヲ命ズルコトアルベシ

第十二條 休憩時間ヲ左ノ通り定ム

正午ヨリ〇分トス

第十三條 職員休日ヲ左ノ通定ム

一 毎月(第〇)及(第〇)日曜日

二 元旦、紀元節、天長節、明治節

三 〇〇〇〇〇

業務繁忙ナルトキ其ノ他業務上必要アルトキハ前項ノ休日ニ服務セシムルコトアルベシ

定休日ニ服務シタル者ニ對シテハ別ニ代休日ヲ與フルモノトス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ休暇ヲ受クルコトヲ得

一 父母、配偶者及子女ノ喪ニ服スルトキ

二 祖父母、配偶者ノ父母(里方ノ場合)兄弟姉妹ノ喪ニ服スルトキ

三 伯叔父母ノ喪ニ服スルトキ

四 父母ノ法要又ハ祭祀ヲ營ムトキ

五日

三日

一日

一日

- 五 徴兵検査、簡閲點呼、勤務演習又ハ査閱ニ應ズルトキ
往復所要日數ヲ含ム必要日數
- 六 證人、鑑定人、參考人又ハ陪審員トシテ裁判所ニ
往復所要日數ヲ含ム必要日數
- 七 本人結婚セントスルトキ
前後通算 三日
- 八 女子職員ノ産前産後
連續通算 七〇日

第十五條 職員ハ當直及宿直ヲ爲スベシ當直及宿直ニ關スル規程ハ勞務監理官ノ承認ヲ得テ別ニ之ヲ定ム

第四章 出勤、退出、缺勤、休暇、遅刻及早退

第十六條 職員ハ定刻前ニ出勤シ(入場時ヲ登録シテ)朝禮ヲ爲シテ後服務スルモノトス

第十七條 病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ缺勤セントスルトキハ豫メ缺勤豫定日及其ノ事由ヲ具シ願出ゾベシ但シ其ノ願出ノ暇ナキトキハ事後速ニ其ノ事由ヲ添ヘテ届出ヅベシ

病氣缺勤七日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ缺勤届ヲ提出スベシ

第十八條 職員ニ對シ一年ニ付十日以内ノ慰勞休暇ヲ與フ但シ前年度ニ於テ缺勤日數十日以上ノ者及其ノ年ノ在籍日數少キ者ニ付テハ休暇日數ヲ短縮シ又ハ與ヘザルコトアルベシ

第十九條 遅刻シタル者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ上司ニ報告スベシ

第二十條 病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ早退スルトキハ上司ノ許可ヲ受クベシ

第五章 保健衛生

第二十一條 職員ハ毎日工場所定ノ體操ヲ行フベシ但シ健康上體操ヲ行フコト不適當ナル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 左ノ疾病ニ罹レル者ハ服務ヲ禁止ス但シ第五號又ハ第六號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付工場ノ認ムル傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 精神病

二 癩、病毒傳播ノ虞アル結核

三 法定傳染病

四 丹毒、再歸熱、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準ズベキ急性熱性病

五 梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

六 濃漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準ズベキ傳染性眼病

七 肋膜炎、第二號以外ノ結核、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症悪化ノ虞アルモノ

八 傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症狀消失シタル後ト雖モ健康ノ恢復セザル場合

第二十三條 同居ノ家族又ハ同居人ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アルトキハ直ニ其ノ旨事務所ニ届出デ指揮ヲ受クベシ

第二十四條 職員ニ對シ年一回(〇月)健康診斷ヲ行フ

前項ノ外臨時必要ト認ムルトキハ職員ノ全部又ハ一部ニ對シ健康診斷ヲ行フ

第二十五條 左ニ掲グル者ハ健康要保護者トシ之ニ對シ服務制限、執務ノ轉換、治療其ノ他保健衛生上必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 年齢二十歳未満ニシテ採用後六月以内ノ者
- 二 ツベルクリン反應ノ陽性轉化後一年以内ノ者
- 三 疾病ニ罹リ又ハ身體虛弱ニシテ一定ノ保護ヲ必要トスル者
- 四 妊婦

第六章 危害豫防及變災時處置

- 第二十六條 職員ハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急具及材料ノ備付場所並ニ其ノ使用方法ヲ知得シ置クベシ
- 第二十七條 職員ハ常ニ安全管理者安全委員ト協力シ危害豫防ニ努ムベシ
- 第二十八條 職員火災其ノ他災害ノ發生ヲ發見シ又ハ災害發生ノ危険ヲ覺知シタルトキハ直ニ之ヲ擔當係員ニ報告シ其ノ指揮ニ依リ行動スベシ但シ急ヲ要スルトキハ臨機ノ處置ヲ執リ直ニ其ノ旨係員ニ報告スベシ

第七章 表彰

- 第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ銜衝ノ上之ヲ表彰ス
 - 一 品行方正技術優秀業務ニ熱心ニシテ衆ノ模範タル者
 - 二 事業上有益ナル發明改良又ハ工夫考案ヲ爲シタル者
 - 三 火災其ノ他ノ災害ヲ未然ニ防止シ若ハ災厄ニ際シ特ニ功勞アリタル者
 - 四 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ篤行又ハ功勞アリタル者

- 第三十條 表彰ハ工場長表彰委員會ニ諮リテ之ヲ決ス
- 第三十一條 褒章ハ賞狀及徽章、賞品又ハ賞金ヲ授與シテ事業主之ヲ行フ

第八章 懲戒

- 第三十二條 懲戒ハ譴責、減俸、慰勞休暇制限、家族手當ノ減給又ハ支給停止及免職トシ工場長(又ハ事業主)之ヲ行フ
- 第三十三條 前條ノ懲戒ハ左記ニ依ルモノトス
 - 一 譴責ハ始末書ヲ提出セシム
 - 二 減俸ハ譴責ノ外ニ俸給一月分ノ二割以内トス
 - 三 慰勞休暇制限ハ譴責ニ加フル二十日以内ノ慰勞休暇制限ヲ行フ
 - 四 家族手當ノ減給又ハ支給停止ハ譴責ニ加フルニ當月分ノ家族手當ノ減給又ハ支給停止ヲ行フ
 - 五 免職ハ豫告ヲ用ヒズシテ解職ス

第三十四條 本則ニ依リ職員ノ遵守スベキ事項ニ違反シタル者又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ譴責又ハ減俸ニ處ス但シ反則輕微ナルカ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ訓戒ニ止ムルコトアルベシ

- 一 素行不良ナル者
 - 二 越權專斷ノ所爲アリタル者
 - 三 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合ノ行爲アリタル者
- 第三十五條 正當ノ理由ナク無斷缺勤ヲ爲シタル者又ハ第三十四條各號ニ定ムル特ニ不都合ナル行爲アリタル者ニ對シテハ

所管勞務管理官ノ承認ヲ承ケ家族手當ノ減給又ハ支給停止ニ處スルコトアルベシ

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免職トス

- 一 重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ入社シタル者
 - 二 業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナル者
 - 三 上司ノ命令ヲ侮蔑シ若ハ上司ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル者
 - 四 同僚又ハ工員ニ對シ辭職ヲ強要シ教唆煽動ヲ爲シタル者
 - 五 出勤常ナラズ勤務ニ不熱心ナル者
 - 六 在籍ノ儘他人ニ雇傭セラレタル者
 - 七 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合ナル行爲アリタル者
- 第三十七條 職員本則ニ違反シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ國家總動員法ニ基キ處罰セララルコトアルベシ

第九章 解 雇、退 職

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一ヶ月以前ニ豫告シテ解職スルコトアルベシ但シ一ヶ月分ノ俸給ヲ支給シテ即時解職スルコトヲ得

- 一 精神又ハ身體ノ障害ニ依リ服務ニ堪エズト認メタルトキ
- 二 老衰ノ爲作業能率著シク劣レルニ至リタルトキ
- 三 事業縮少ノ爲職員ニ過剩ヲ生ジタルトキ

四 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ事由又ハ事業經營上已ムヲ得ザル都合アルトキ

第三十九條 職員退職セントスルトキハ事前ニ願出デ沙汰アル時マデ従前ノ服務ヲ繼續スベシ前項ノ願出ハ其ノ者ノ屬スル課長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

二 工員從業規則記載例

第一章 總 則

第一條 工員ハ國體ノ本義ニ基ク皇國產業ノ國家的使命ト之ニ從事スル自己ノ重責トヲ認識シ和親協力以テ職域奉公ノ誠ヲ效スヲ本分トスベシ

第二條 工員ハ工場ノ秩序ヲ保持シ能率ヲ増進シ勤務ヲ快適ナラシムル爲本則ヲ遵守スルノ外上司ノ示達スル事項ヲ遵守シ特ニ左ノ事項ヲ心得フベシ

- 一 上司ニ對シ尊敬ト信頼トヲ持シ其ノ指圖ニ欣然從フコト
 - 二 同僚互ニ禮儀ヲ重ンジ友愛ヲ盡シ苟クモ粗暴ノ行爲ヲ爲サザルコト
 - 三 作業ヲ通ジテ心身ノ鍛鍊ト技術ノ練磨ニ努ムルコト
 - 四 時間ヲ尊重シ寸暇ヲ惜ミ仕事ニ精勵スルコト
 - 五 作業ハ慎重敏速ヲ旨トシ特ニ精良ヲ期スルコト
 - 六 材料及動力ヲ節約シ且機械、工具ヲ大切ニ取扱フコト
 - 七 作業場ヲ整頓シ且之ヲ清淨ニスルコト
- 第三條 工員工場ニ就業シタルトキハ左ノ事項ヲ事務所ニ届出ツベシ

- 一 住所又ハ居所
 - 二 家族ノ氏名、年齢、職業及續柄
 - 三 通勤ノ方法
- 前項各號ノ一ニ異動アリタルトキハ遲滞ナク事務所ニ之ヲ届出ツベシ

第二章 身分、職務及指導監督

第四條 工員ハ左ノ種類ニ分ツ

- 一 本 工 員
- 二 見 習 工 員 (例示)
- 三 養 成 工 員

第五條 本工員ハ之ヲ業務ニ依リ左ノ種類ニ分ツ

- 熔 接 工 員
- 製 罐 工 員 (例示)
- 〇 〇 工 員
- 〇 〇 工 員

第六條 本工員ハ之ヲ技能ノ程度ニ依リ左ノ種類ニ分ツ

- 一 一 級

二二 級 (例示)
三三 級

第七條 工場長ハ左ノ役附工員ヲ任命ス

一 組 長 (例示)
二 副 組 長

組長ハ工員能率ノ直接ノ責任者トス

組長ハ上司ノ命ヲ受ケ副組長以下組工員ヲ指揮シ其ノ技術ヲ指導シ作業ヲ督勵ス特ニ見習工ニハ細心ノ注意ヲ以テ之ガ保護指導ニ當ルベシ

副組長ハ組長ヲ補佐シ組長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第八條 見習工員タル期間ハ〇月トシ組長(副組長)及指定セラレタル本工員ノ指導ヲ受ケ作業ニ従事シ業務ノ習得ニ努ムルモノトス

養成工員ハ技能者養成令ニ基キ所定ノ養成ヲ受ケ作業ニ従事スルモノトス

第九條 工員ハ辭令ヲ以テ之ヲ其ノ所屬ノ部(課、係)ニ配置ス

第十條 工員ハ勤務中及出入場ノ際ハ所定ノ徽章ヲ(左胸部)ニ佩用スベシ

第三章 始業、終業、休日及休憩、早出殘業及宿直

第十一條 始業及終業時間ヲ左ノ通り定ム

自〇月〇日 (午前七時ヨリ午後五時迄)
至〇月〇日

自〇月〇日 (午前八時ヨリ午後六時迄)
至〇月〇日

第十二條 滿二十歳未滿ノ者及女子ニシテ入職後三ヶ月ヲ經過セザル未経験工員ニ對シテハ一日十時間ヲ超エ又ハ深夜ニ於テ就業セシメザルモノトス

前項以外ノ者ニシテ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シテハ一日十一時間ヲ超エテ就業セシメザルモノトス

十六歳未滿ノ者及健康上注意ヲ要スト認メラルル者ニ對シテハ深夜ニ於テ就業セシメザルモノトス

前三項ノ規定ハ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケタルトキハ之ヲ適用セズ

第十三條 休憩時間左ノ如シ

一 午前〇時ヨリ(十分)

二 正午ヨリ(四十五分)

三 午後〇時ヨリ(十分)

四 殘業セシムル場合ニ於テハ其ノ初ニ於テ(十分)、食事ヲトラシムルトキハ四十五分)

晝食ハ正午ノ休憩時間中ニ之ヲ爲スベシ

第十四條 交替制ヲ以テ連續作業ヲ爲サシムル場合ニ於ケル就業時間及休憩時間左ノ如シ

三交替制ノ場合

第一班 〇時〇分ヨリ〇時〇分迄

休憩 〇時〇分ヨリ〇分

第二班 〇時〇分ヨリ〇時〇分迄

休憩 〇時〇分ヨリ〇分

第三班 〇時〇分ヨリ〇時〇分迄

休憩 〇時〇分ヨリ〇分

二交替制ノ場合

第一班 〇時〇分ヨリ〇時〇分迄

休憩 〇時〇分ヨリ〇分

〇時〇分ヨリ〇分

第二班 〇時〇分ヨリ〇時〇分迄

休憩 〇時〇分ヨリ〇分

〇時〇分ヨリ〇分

交替制ノ轉換ハ七日毎ニ之ヲ行フモノトス

第十五條 定休日左ノ如シ

一 毎月(第〇)及(第〇)日曜日

二 元旦、紀元節、天長條、明治節

三 〇〇〇〇〇

(業務ノ都合ニ依リ必要アルトキハ前項第一號ノ定休日ニ代ヘテ月二回ノ輪番休日ヲ與フルコトアルベシ)

業務繁忙其ノ他業務上必要アルトキハ所管勞務監理官ノ承認ヲ得テ前項(第一項)ノ休日ニ就業セシムルコトアルベシ

第十六條 定休日ニ就業シタル者ニ對シテハ別ニ代休日ヲ與フルモノトス

第十七條 業務上必要アルトキハ第十一條及第十四條ノ規定ニ拘ラズ早出又ハ残業ヲ命ズルコトアルベシ但シ第十一條及第

十四條ノ就業時間ヲ通算シ就業十二時間ノ範圍ヲ超エザルモノトス

業務ノ性質上又ハ已ムヲ得ザル事由ニ因リ前項ニ據リ難キ場合ニ於テ所管勞務監理官ノ承認ヲ得タルトキ又ハ管理大臣ノ

命令アリタル場合ニ於テ所管勞務監理官ニ豫メ報告シ就業十二時間ヲ超エテ早出又ハ残業ヲ命ズルコトアルベシ

第十八條 戰時事變等ノ爲必要アル場合ニ於テハ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケタル規程ニ基キ工員ニ宿直ヲ命ズルコトアル

ベシ

第四章 入場、退場、遅刻及早退

第十九條 工員ハ始業前〇分迄ニ(入場時ヲ登録シテ)所定ノ場所ニ整然集合シ朝禮ヲナシテ後就業スルモノトス

第二十條 工員退場時ニアリテハ持場ヲ整頓シ(終禮ヲ行ヒタル後退場時ヲ登録シテ)退場スベシ

第二十一條 第十九條ノ時刻ヨリ〇分以上遅刻シタル者ハ入場ヲ許サズ但シ已ムヲ得ザル事由アル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニヨリ早退又ハ外出スル者ハ(係長)ヨリ出門許可證ヲ受取リ之ヲ門衛ニ示シテ出

場スベシ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ入場ヲ許サズ又ハ退場ヲ命ズルコトアルベシ

- 一 酒氣ヲ帶ビタル者及酒類ヲ携帯スル者
- 二 火器其ノ他作業ニ必要ナラザル危険物ヲ携帯スル者
- 三 異様ノ服装ヲ爲シ又ハ所定ノ徽章ヲ佩用セザル者
- 四 其ノ他作業ヲ妨害シ若ハ工場ノ風紀ヲ著シク紊シ又ハ其ノ虞アル者

第五章 缺勤及休暇

第二十四條 病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ依リ缺勤セントスル者ハ就業時刻前ニ缺勤豫定日數及其ノ事由ヲ具シ願出ツベシ但シ其ノ願出ノ暇ナキトキハ事後速ニ其ノ事由ヲ届出ツベシ

第二十五條 工員ハ一年ニ付三日乃至五日間ノ有給慰勞休暇ヲ受ク

第二十六條 工員ハ左ノ場合ニ於テハ休暇ヲ受クルコトヲ得

- 一 父母、配偶者又ハ子女ノ喪ニ服スルトキ 五日
- 二 祖父母、配偶者ノ父母(里方ノ場合)又ハ兄弟姉妹ノ喪ニ服スルトキ 三日
- 三 伯叔母ノ喪ニ服スルトキ 一日
- 四 父母ノ法要又ハ祭祀ヲ營ムトキ 一日
- 五 徴兵検査、簡閱點呼、勤務演習又ハ査閲ニ應ズルトキ 往復所要日數ヲ含ム必要日數
- 六 證人、鑑定人、参考人又ハ陪審員トシテ裁判所ニ出頭スルトキ其ノ他之ニ準ズルトキ 往復所要日數ヲ含ム必要日數
- 七 本人結婚セントスルトキ 前後通算 三日

八 女子工員ノ産前産後

連續通算 七〇日

第六章 教養訓練

第二十七條 工員ハ工場ノ教養訓練計畫ニ基キテ行フ教養訓練ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アリテ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限りニ在ラズ

第七章 保健衛生

第二十八條 工員ハ毎日工場所定ノ體操ヲ行フベシ但シ健康上體操ヲ行フコト不適當ナル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 食事ハ所定ノ場所ニ於テ行フベシ

食事前ノ洗手ヲ勵行スベシ

第三十條 工員工場内ニ於テ負傷又ハ發病シタルトキハ本人(本人ガ爲シ得ザルトキハ組長又ハ同僚)ハ其ノ旨ヲ事務所ニ申出デ指揮ヲ受クベシ

第三十一條 左ニ掲グル疾病ニ罹レル者ハ就業ヲ禁止ス但シ第五號又ハ第六號ニ掲グル疾病ニ罹レル者ニ付工場ノ認ムル傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 精神病
- 二 癩、病毒傳播ノ虞アル結核
- 三 法定傳染病

- 四 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準ズベキ急性熱性病
 - 五 微毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
 - 六 膿漏性結膜炎、トラホーム(著シク傳染ノ虞アルモノ)其ノ他之ニ準ズベキ傳染性眼病
 - 七 肋膜炎、第二號以外ノ結核、心臟病、脚氣、關節炎、髓鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アルモノ
 - 八 傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖モ健康ノ恢復セザル場合
- 第三十二條 工員其ノ同居ノ家族又ハ同居人ニシテ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ疑アル者アルトキハ直ニ其ノ旨事務所ニ届出デ指揮ヲ受クベシ
- 第三十三條 工員ニ對シ採用後三十日以内又ハ毎年一回(又ハ二回)健康診斷ヲ行フ
前項ノ外臨時必要アリト認ムルトキハ健康要保護者トシ之ニ對シ健康診斷ヲ行フ
- 第三十四條 左ニ掲グル者ハ健康要保護者トシ之ニ對シ就業制限、作業ノ轉換、治療其ノ他保健衛生上必要ナル措置ヲ命スルコトアルベシ
- 一 年齢二十歳未満ニシテ採用後六月以内ノ者
 - 二 ツベルクリン反應ノ陽性轉化後一年以内ノ者
 - 三 疾病ニ罹リ又ハ身體虛弱ニシテ一定ノ保護ヲ必要トスル者
 - 四 妊婦

第八章 危害豫防

- 第三十五條 工員ハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急具及材料ノ備付場所並ニ其ノ使用方法ヲ知得シ置クベシ
- 第三十六條 工員ハ安全管理者、安全委員其ノ他安全關係者ノ指導ニ從ヒ各自職場安全化ノ協力者タルヲ自覺シ作業安全ノ實踐ニ努ムベシ
- 第三十七條 工員ハ工場内ニ於テ協力シテ左記事項ヲ嚴守スベシ
- 一 原動機、動力傳導裝置、機械設備又ハ工具等ハ就業前ニ點檢シ尙故障若クハ危險ナル箇所ヲ發見シタルトキハ使用ヲ停止シ直ニ其ノ旨係員ニ報告スルコト
 - 二 係員ニ非ザルモノハ原動機ノ始動又ハ停止ヲ爲サザルコト
 - 三 工場内ニ於テハ猥リニ焚火其ノ他火氣ノ使用ヲ爲サザルコト
 - 四 業務上火氣ヲ誘導シ易キ物品ヲ取扱フトキハ細心ノ注意ヲ拂ヒ危險ナキヲ期スルコト
 - 五 喫煙ハ休憩時間中所定ノ場所ニテ爲スコト
 - 六 危險又ハ有害ノ虞アル作業ニ從事スル者ハ常ニ所定ノ保護具ヲ使用スルコト
 - 七 常ニ整理整頓ヲ旨トシ特ニ通路、避難出口、消火設備ノ在ル箇所等ニハ物品ヲ置カザルコト
 - 八 安全規則、作業心得其ノ他危害豫防ニ關スル規則ヲ遵守シ災害豫防ニ努ムルコト
- 第三十八條 工員ハ防空、防火竝ニ避難ニ際シテハ別ニ定ムル規程ニ依リテ行動スベシ
- 第三十九條 火災害其ノ他ノ災害ノ發生ヲ發見シ又ハ災害發生ノ危險ヲ覺知シタル者ハ直ニ之ヲ係員其ノ他適當ノ者ニ報告

シ其ノ指揮ニ依リテ行動スベシ但シ急ヲ要スルトキハ臨機ノ措置ヲ執リ直ニ其ノ旨ヲ係員其ノ他適當ノ者ニ報告スベシ

一四〇

第九章 表 彰

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ銓衡ノ上之ヲ表彰ス

- 一 品行方正技能優秀業務ニ熱心ニシテ衆ノ模範タル者
 - 二 作業上有益ナル發明改良又ハ工夫考案ヲ爲シタル者
 - 三 火災其ノ他ノ災ヲ未然ニ防止シ若ハ災厄ニ際シ功勞アリタル者
 - 四 皆勤三ヶ年以上ノ者
 - 五 滿十五年(女子工員ニ在リテハ八年)以上勤續シ功勞アリタル者
 - 六 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ篤行又ハ功勞アリタル者
- 第四十一條 表彰ハ工場長之ヲ表彰委員會ニ諮リテ決ス
- 第四十二條 表彰ハ賞狀、徽章、賞品又ハ賞金ヲ授與シテ之ヲ行フ

第十章 懲 戒

第四十三條 懲戒ハ譴責、減給、慰勞休暇、家族手當ノ減給又ハ支給停歇及懲戒解雇トス

第四十四條 前條ノ懲戒ハ左記依ルモノトス

- 一 譴責ハ始末書ヲ提出セシム

二 減給ハ譴責ニ加フルニ賃金ノ五日間分以内ヲ總額トシ一日ニ付日給ノ三分ノ一以内ノ減給ヲナス

三 慰勞休暇制限ハ譴責ニ加フルニ五日以内ノ慰勞休暇制限ヲ行フ

四 家族手當ノ減給又ハ支給停止ハ譴責ニ加フルニ當月分ノ家族手當ノ減給又ハ支給停止ヲ行フ

五 懲戒解雇ハ豫告ヲ用ヒズシテ解雇スルモノトス

第四十五條 工員ハ本則ニ據ル外懲戒ヲ受クルコトナシ

懲戒ハ事情ニ依リ之ヲ工場内ニ揭示ス

第四十六條 本則ニヨリ工員ノ遵守スベキ事項ニ違反シタルトキハ譴責ニ處ス但シ反則輕微ナルカ又ハ改悛ノ情顯著ナルトキハ工場長ノ訓戒ニ止ムルコトアルベシ

第四十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ減給又ハ慰勞休暇制限ニ處ス

- 一 火氣ノ取扱ヲ粗略ニシ又ハ所定ノ場所以外ノ場所ニ於テ焚火若ハ喫煙ヲ爲シタル者
- 二 私品ヲ作製シ又ハ作製セントシタル者
- 三 工場内ニ於テ喧嘩口論ヲ爲シタル者
- 四 虚偽ノ事項ヲ申述シ工場ニ不利益ヲ齎シタル者
- 五 素行不良ニシテ工場ノ秩序ヲ紊シタル者
- 六 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ不都合アリタル者

第四十八條 正當ノ理由ナク無斷缺勤ヲ爲シタル者又ハ第四十七條各號ニ定ムル特ニ不都合ナル行爲アリタル者ニ對シテハ所管勞務監理官ノ承認ヲ承ケ家族手當ノ減給又ハ支給停止ニ處スルコトアルベシ

一四一

第四十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ懲戒解雇トス

- 一 重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタル者
- 二 事業ノ秘密ヲ漏洩シ又洩漏セントシタルコト明ナル者
- 三 私品ヲ作製シ又ハ作製セシメタル者ニシテ其ノ情重キ者
- 四 事業場ノ物品ヲ無斷ニテ持出シ又ハ持出サントシタルコト明カナル者
- 五 故意ニ事業場ノ設備又ハ器具ヲ破壊シタル者
- 六 上長ノ命ニ服セザルコト數回ニ及ブ者
- 七 上長ノ命令ヲ侮蔑シ若ハ反抗シ又ハ上長ニ對シ暴行壓迫ヲ加ヘタル者
- 八 同僚ニ對シ不法ニ辭職ヲ強要シ、教唆煽動ヲ爲シ若ハ暴行脅迫ヲ加ヘ又ハ他人ノ業務遂行ヲ妨ゲタル者
- 九 故意ニ作業能率ヲ阻害シタル者
- 十 正當ノ理由ナク無斷缺勤十四日以上ニ及ビタル者
- 十一 出勤常ナラズ遅刻早退多ク勤務ニ不熱心ナル者
- 十二 正當ノ理由ナク早出残業又ハ呼出ニ應ゼザル者
- 十三 戒告數回ニ及ブモ仍怠慢ニシテ業務ニ不熱心ナル者
- 十四 承認ヲ得ズシテ在籍ノ儘他人ニ雇傭セラレタル者
- 十五 故意ニ危害豫防ニ關スル規則又ハ指揮ニ違反シタル者
- 十六 著シク事業場ノ風紀又ハ規律ヲ紊亂シタル者

- 十七 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタル者
- 第五十條 工員本則ニ違反シタルトキハ其ノ情狀ニ依リ國家總動員法ニ基キ處罰セララルコトアルベシ
- 第五十一條 懲戒ハ工場長之ヲ懲戒委員會ニ諮リテ決定ス

第十一章 解雇、退職

第五十二條 工員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十四日前ニ豫告シテ之ヲ行フ但シ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルトキハ即時解雇ス

- 一 精神又ハ身體ノ障碍ニ依リ作業ニ堪エズト認めタルトキ
 - 二 老衰ノ爲作業能率著シク劣ルニ至リタルトキ
 - 三 事業縮少ノ爲工員ニ過剩ヲ生ジタルトキ
 - 四 其ノ他前各號ニ準ズル程度ノ己ムヲ得ザル事由アルトキ
- 第五十三條 工員退職セントスルトキハ十四日前ニ所屬組長ヲ經テ退職願ヲ提出シ從前ノ就業ヲ繼續スベシ但シ入營、應召其ノ他之ニ準ズル理由ニ因リ退職セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 職員給料規則記載例

一四四

第一條 職員ニハ基本給料、手当、賞與、退職金及臨時ノ給與ヲ支給ス

前項ノ給與ノ外特ニ必要アル場合ニ於テハ交際費、機密費ヲ支給スルコトアルベシ

第二條 給料ハ前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ヲ以テ締切り其ノ支拂ハ毎月二十五日ニ之ヲ支拂フ

給料支拂日休日ニ當ルトキハ前日ニ繰上グ(翌日ニ繰下グ)

第三條 職員左ノ場合ニ該當スルトキハ前條ノ規程ニ拘ラズ其ノ都度基本給料及手当ヲ支拂フ但シ第五號乃至第九號ノ場合

ニ於テハ本人ノ請求ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 死亡シタルトキ

二 退職又ハ解雇セラレタルトキ

三 入替シ又ハ應召セントスルトキ

四 徵用解除セラレタルトキ但シ引續キ從事スルモノヲ除ク

五 一ヶ月以上ニ亘リテ歸郷スルトキ

六 本人又ハ其ノ家族ノ結婚、葬儀等ノ爲出費ヲ要スルトキ

七 天災其ノ他ノ災厄ニ遭遇シ又ハ負傷若ハ疾病ニ罹リ費用ヲ要スルトキ

八 新ニ世帯ヲ持テ其ノ他之ニ類スル事項ニ付必要ナル費用ニ充ツルトキ

九 其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキ

第四條 職員ノ基本給料月額ノ最高初給額ハ左ノ通トス

一 大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者八十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ八十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付三圓ヲ加算シタル金額

二 大學令ニ依ル大學卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者七十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付三圓ヲ加算シタル金額

三 専門學校令若ハ實業學校令ニ依ル専門學校又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者七十圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ七十圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓五十錢ヲ加算シタル金額

四 専門學校令若ハ實業學校令ニ依ル専門學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者六十圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ六十圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額

五 實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル技術者四十五圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十五圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額

六 實業學校令ニ依ル實業學校卒業又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル事務者四十二圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十二圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額

七 中學校令ニ依ル中學校卒業者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者四十二圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ四十二圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額

八 高等女學校令ニ依ル高等女學校卒業者又ハ之ニ準ズル者三十三圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ三十三圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付二圓ヲ加算シタル金額

一四五

三圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額
 九 國民學校高等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者二十四圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ二十四圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額
 十 國民學校初等科修了者又ハ之ニ準ズル學歷ヲ有スル者二十一圓但シ卒業後一年以上ヲ經過セルモノニ在リテハ二十一圓ニ卒業後ノ年數一年ニ付一圓五十錢ヲ加算シタル金額
 前項ノ金額ハ特別ノ經歷若ハ技能又ハ特別ノ學歷ヲ有スル者ニ付テハ一割増ノ額ノ範圍内ニ於テ増スコトアルベシ
 第五條 職員ニ對シ左ノ手當ヲ支給ス

名稱	額又ハ率	給與條件
早出手當	三十錢	勤務時間ヲ超ユル一時間ニ付
居残手當	三十錢	同
休日出勤手當	二圓	休日出勤一回ニ付
皆勤手當	基本給料月額ノ五分ノ一	三月間皆勤ニ付
宿直手當	二圓	宿直一回ニ付
當直手當	二圓	當直一回ニ付
危険手當	五十錢	火藥技術者ノ就業一日ニ付

住宅手當	十圓	通勤職員一月ニ付
通勤手當	七圓	特殊地域居住者一月ニ付
家族手當	別紙ニ依ル	
入營應召手當	別紙ニ依ル	

第六條 賞與ハ毎月六月及十二月ノ二回之ヲ支給ス
 賞與ノ率若ハ額及支給方法ハ其ノ都度之ヲ定ムルモノトス
 第七條 職員退職又ハ死亡シタルトキハ勤続一年ニ付退職又ハ死亡當時ノ基本給料月額ノ一分ニ相當スル退職金ヲ支給ス
 日給者ノ基本給料月額ハ日給ノ三十倍ヲ以テ一ヶ月分トス
 前項ノ退職金ハ在職中功勞アリタル職員ニハ之ヲ増額スルコトアルベシ
 第八條 職員服務規則第〇〇條ノ規定ニ依リ懲戒解雇セラレタルトキハ前條ノ退職金ヲ減額シ又ハ支給セザルコトアルベシ
 第九條 職員事業主ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ第七條ノ退職金ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ職員服務規則第〇〇條ニ依リ懲戒解雇セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 (左記省略)
 第十條 退職金ハ職員退職後遑滞ナク之ヲ支給ス
 第十一條 勤続期間ノ計算ハ職員雇入ノ日ヨリ之ヲ起算ス勤続期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ計算ス
 第十二條 職員死亡シタル場合ニ於テハ退職金ハ遺族又ハ職員死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十三條 給料支拂ノ際別ニ定ムル貯蓄規程ニ依リ左ノ割合ニ依ル貯蓄額ヲ毎月ノ給料ヨリ控除ス

給料	百圓未満	百分ノ五
	百圓以上	百分ノ七
	百五十圓未満	百分ノ七
	百五十圓以上	百分ノ十
	二百圓未満	百分ノ十
	二百圓以上	百分ノ十五

第十四條 徵用職員ノ父母妻子ノ死亡(危篤ヲ確認シタル場合ヲ含ム)ノ際ニ於ケル職員ノ歸省ニ付テハ往復旅費ヲ支給シ
徵用職員ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ニ付テハ家族二人限り往復旅費及必要ナル滞在期間中ノ滞在費ヲ支給ス
(本條ハ徵用工場ニ限ル)

第十五條 職員徵用満期ニ依リ徵用解除トナリタル際ニハ其ノ者ノ標準報酬日額二十日分(此ノ額が三十圓ニ滿タザルトキ
ハ三十圓)ヲ下ラザル限度ニ於テ所管勞務監理官ノ裁定ヲ得タル慰勞金ヲ支給ス(本條ハ徵用工場ニ限ル)

四 職員昇給内規記載例

第一條 定期昇給ハ毎年二回トシ昇給資格ヲ有スル者ニ付六月二十日及十二月二十日之ヲ行フモノトス
臨時昇給ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

- 一 職員召集解除若ハ除隊又ハ徵用解除等ノ場合ニ於テ他ノ職員ニ比シ昇給ノ遅レタルヲ回復セシムル爲昇給セシムル必要アルトキ
- 二 職員進級又ハ異動等ニ依リ特殊ノ基本給料ノ定アル職務ニ就キタル場合ニ於テ昇給セシムル必要アルトキ
- 三 職員當事業場ニ勤務中新ナル學歷ヲ取得セル場合ニ於テ同等ノ學歷ヲ有スル他ノ職員ノ基本給料ノ初給額迄引上グル必要アルトキ
- 四 職員雇入後其ノ者ノ最初ノ定期昇給期迄ニ於テ技能ノ進歩著シク又ハ特ニ功勞アリタル場合ニ於テ特ニ昇給セシムル必要アルトキ

第二條 昇給調査期日ハ昇給期日ノ前月二十日トス

第三條 定期昇給ハ前昇給ニ於ケル昇給調査期日ヨリ當該昇給調査期日迄ニ左ニ掲グル期間ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス

- 一 月給五十五圓未満又ハ日給二圓未満ノ職員 六ヶ月
- 二 月給五十五圓以上又ハ日給二圓以上ノ職員 九ヶ月

- 三 書記、書記補、技手、技手補 一ケ年
- 四 主事、主事補、技師、技師補 一年六ヶ月
- 五 場長、技師長 二ケ年

第四條 昇給調査期日前六ヶ月ニ付缺勤三十日、一ケ年ニ付缺勤六十日ヲ超ユル場合ハ當該期ニ限り昇給セシメザルコトアルベシ但シ左ニ掲グル日數ハ缺勤日數ニ計算セズ

- 一 特ニ休業ヲ命ジタル場合ノ日數
- 二 業務上ノ負傷又ハ疾病ニ因リ休業シタル日數
- 三 軍事參會、公務出頭又ハ忌引若ハ法要ノ爲休業シタル日數ニシテ職員服務規則第〇〇條ニ定ムル日數

第五條 遅刻又ハ早退三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ前條ノ缺勤日數ニ算入ス但シ不可抗力ニ因ル遅刻其ノ他已ムラ得ザル事由ニヨル早退ヲ除ク

第六條 職員第三條ノ期間内ニ服務規則ノ定ムル所ニ依リ左記回數懲戒セラレタル者ハ當該期ニ限り昇給セシメザルコトアルベシ

- 隨 責 二回以上
- 其ノ他ノ懲戒 一回以上

第七條 定期昇給ノ一回ノ昇給額ハ左ニ掲グル金額トス但シ業務ノ種類、勤務成績ヲ參酌シ左ノ額ノ二割ノ範圍内ニ於テ増減スルコトアルベシ

- 一 月給五十五圓未満又ハ日給二圓未満ノ職員 三 圓

- 二 月給五十五圓以上又ハ日給二圓以上ノ職員 五 圓
- 三 書記、書記補、技手、技手補 八 圓
- 四 主事、主事補、技師、技師補 十五 圓
- 五 場長、技師長 三十 圓

五 工員賃金規則記載例

第一條 工員ニハ本給、請負利益金、獎勵加給金、手當、實物給與、賞與及臨時ノ給與ヲ支給ス
 第二條 本給、請負利益金、獎勵加給金及手當ハ毎月前月二十一日ヨリ其ノ月ノ二十日迄ヲ以テ締切り其ノ支拂ハ毎月二十七日ニ之ヲ行フ

賃金支拂日休日前ニ當ルトキハ前日ニ繰上グ（翌日ニ繰下グ）

第三條 工員左ノ場合ニ該當スルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ其ノ都度賃金ヲ支拂フ但シ第五號乃至第九號ノ場合ニ於テハ本人ノ請求無キトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退職シ又ハ解雇セラレタルトキ
- 三 入替又ハ應召セントスルトキ
- 四 徵用解除セラレタルトキ但シ引續キ從事スルモノヲ除ク
- 五 一ヶ月以上ニ亘リテ歸郷スルトキ
- 六 本人又ハ其ノ家族ノ結婚、葬儀等ノ爲臨時ノ出資ヲ要スルトキ
- 七 天災其ノ他ノ災厄ニ遭遇シ又ハ負傷若ハ疾病ニ罹リ費用ヲ要スルトキ
- 八 新ニ世帯ヲ持テ其ノ他之ニ類スル事項ニ付キ必要ナル費用ニ充ツルトキ

九 其ノ他特ニ必要アリト認ムルトキ

第四條 未経験勞務者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ左ノ通トス但シ作業ノ種類、個人ノ能力等ニ依リ此ノ額ノ一割増ノ範圍内ニ於テ増スコトアルベシ

年齢別	男女別	
	男	女
一四歳以上	一四〇錢	一三〇錢
一五歳以上	一五〇錢	一四〇錢
一六歳以上	一六〇錢	一五〇錢
一七歳以上	一七〇錢	一六〇錢
一八歳以上	一八〇錢	一七〇錢
一九歳以上	一九〇錢	一八〇錢
二〇歳以上	二〇〇錢	一九〇錢
二五歳以上	二五〇錢	二四〇錢
三〇歳以上	三〇〇錢	二九〇錢

當該年度國民學校高等科卒業者タル養成工ノ雇入ノ際ノ日給額ハ前項ニ拘ラズ六十錢トス

第五條 未経験勞務者以外ノ勞務者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ左ノ通トス但シ作業ノ種類、技倆等ニ依リ此ノ額ノ二割増ノ範圍内ニ於テ増スコトアルベシ

年齢別	男女別	
	男	女
一四歳以上	一四〇錢	一三〇錢
一五歳以上	一五〇錢	一四〇錢
一六歳以上	一六〇錢	一五〇錢
一七歳以上	一七〇錢	一六〇錢
一八歳以上	一八〇錢	一七〇錢
一九歳以上	一九〇錢	一八〇錢
二〇歳以上	二〇〇錢	一九〇錢
二五歳以上	二五〇錢	二四〇錢
三〇歳以上	三〇〇錢	二九〇錢

女子	子		
	十年以上	十五年以上 未滿上	五三 年未滿上
六五			
七〇			一〇〇
七五			一一〇
八〇		一三五	一二〇
八五		一四五	一三〇
九〇		一五五	一四〇
一〇〇	一八〇	一六五	一五〇
一〇〇	二〇〇	一八五	一七〇
一〇〇	二二〇	二〇五	一九〇

當該年度學校卒業者ノ雇入ノ際ノ日給額ハ前項ニ拘ラズ左ノ通トス

中學校

一一〇錢

工業學校(乙種)

一二〇錢

工業學校(甲種)

一三〇錢

女學校

一〇〇錢

第六條 日給ノ最低額ハ第四條ニ掲グル額トス

第七條 本給ハ就業時間(休憩時間ヲ含ム)十時間ニ對シテ定ムル日給ヲ基礎トシテ左ノ式ニ依リ計算ス

$$\text{本給} = \frac{\text{日給}}{10} \times \text{就業時間數} (\text{休憩時間ヲ含ム})$$

第八條 工員遅刻又ハ早退ノ爲一日ノ就業時間ニ三十分未滿ノ端數ヲ生ジタル場合ニハ前條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ之ヲ切捨ツルモノトス

不可抗力ニ依ル遅刻ノ場合ニハ前條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ其ノ時間ハ之ヲ就業時間ニ算入ス

第九條 工員自己ノ都合ニ依ラズシテ退場シタル場合ニハ第七條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テ就業時間五時間ニ滿タザル場合ハ五時間、五時間ヲ超エ十時間ニ滿タザル場合ハ十時間ヲ以テ當日ノ就業時間トス

第十條 工員公傷病ニ依リ退場シ就業時間十時間ニ滿タザル場合ハ第七條ニ定ムル本給ノ計算ニ於テハ十時間ヲ以テ當日ノ就業時間トス

第十一條 工員ニ對シ本給ノ定ムル所ニ依リ請負利益金又ハ獎勵加給金ヲ支給ス

(一) 單價請負

〇〇作業〇〇作業及〇〇作業ハ單價請負ニ依リ其ノ請負利益金算定式ハ左ノ通トシ請負單價ハ別紙第一表ニ依ル

(イ) 個人請負(〇〇作業〇〇作業)

請負利益金 = 單價 × 生産個數 - 本給 (不台格品ヲ含マズ)

但シ單價 × 生産個數ガ本給ヨリ小ナルトキハ請負利益金ハ〇トス

(ロ) 團體請負(〇〇作業〇〇作業)

團體請負利益金 = (單價 × 生産個數) - (團體 = 屬スル工員ノ本給ノ合計)

但シ單價 × 生産個數ガ團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計ヨリ小ナルトキハ請負利益金ハ〇トス

個人請負利益金 = $\frac{\text{團體請負利益金} \times \text{個人ノ本給}}{\text{團體} = \text{屬スル工員ノ本給ノ合計}}$

(二) 時間請負

〇〇作業及〇〇作業ハ時間請負ニ依リ其ノ請負利益金算定ハ左ノ通トシ標準時間給ハ別紙第二表、請負時間ハ別紙第三

表ニ依ル

(イ) 個人請負(〇〇作業〇〇作業)

請負利益金 = 標準時間給 × (請負時間 - 實際時間)

但し實際時間が請負時間ヲ超エタルトキハ請負利益金ハ〇トス

(ロ) 團 請負(〇〇作業〇〇作業)

團體請負金 = 標準時間給 × (請負時間 - 實際時間)

但し實際時間が請負時間ヲ超エタルトキハ請負利益金ハ〇トス

個人請負利益金 = 團體請負利益金 × $\frac{\text{個人ノ本給}}{\text{團體ニ屬スル工員ノ本給ノ合計}}$

(三) 左ニ掲グル者ハ單價請負又ハ時間請負ニ依ラズ獎勵加給金ヲ支給ス

獎勵加給金ハ本給ニ獎勵加給率ヲ乗ジタル額トス

(イ) 間接工(OOH OOH)

此ノ場合ノ獎勵加給率ハ左ノ算定ニ依ル

獎勵加給率 = 工場平均請負利益率 × 0.8

工場平均請負利益率 = $\frac{\text{單價請負又ハ時間請負ニ依ル工員ノ請負利益金ノ合計}}{\text{單價請負ハ時間請負ニ依ル工員ノ本給ノ合計}}$

(ロ) 養成工

此ノ場合ノ獎勵加給率ハ左ノ如シ

第一學年 〇・11

第二學年 〇・11

(ハ) 新ニ雇入レタル未経験勞務者
此ノ場合ノ獎勵加給率ハ左ノ如シ

雇入當時ノ年齢三〇歳未満ノモノ 雇入後三ヶ月間 〇・11

雇入當時ノ年齢三〇歳以上ノモノ 雇入後三ヶ月間 〇・11

雇入當時ノ年齢三〇歳以上ノモノ 雇入後四ヶ月ヨリ九ヶ月間 〇・11

(ニ) 新ニ雇入レタル未経験勞務者以外ノ勞務者

此ノ場合ノ獎勵加給率ハ左ノ如シ

雇入後一ケ年間 〇・11

第十二條 手當ハ左ノ通トス

名 稱	額 又 ハ 率	給 與 條 件
早出殘業歩増	日給ノ一分	早出殘業二時間迄ノ就業一時間ニ付
	二分	早出殘業二時間ヲ超ユル就業一時間ニ付
夜 勤 歩 増	同 三分	交替制ニ依ル夜間就業一時間ニ付
	同 十割	元旦ノ出勤ニ對シ
休日出勤手當	同 五割	元旦以外ノ大祭、祝日ノ出勤ニ對シ
	同 一割	右以外ノ所定休日ノ出勤一日ニ對シ
皆 勤 手 當	同 十割	一ヶ月皆勤ニ對シ月額

作業手当	四錢	金屬鑄物製造ニ於ケルハツリ又ハ砂落ノ作業一時間ニ付
役付手当	二錢五圓 三圓 五圓	電弧熔接作業一時間ニ付 組長一人ニ付月額 組長一人ニ付月額 工員ノ場合ニ依ラズシテ臨時休業セシメタル場合一日ニ付
不就業手当	標準報酬日額ノ八割	就業規則第〇〇條ニ依ル慰勞休暇一日ニ付
慰勞休暇手当	日給ノ一日分	就業規則第〇〇條〇號ノ軍事參會一日ニ付
軍事參會手当	同	
家族手当	別紙ニ依ル	
入管應召手当	同	

第十三條 實物給與ハ左ノ通トス

種類	數量	評價額	給與條件
作業服	一着	十圓	養成工入社ニ際シ

徵用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ニハ當初少ナクトモ一回ハ所定ノ作業服、作業帽ヲ又必要ニ應ジ作業手袋ヲ貸與スルモノトス(本項ハ徵用工場ニ限ル)

第十四條 定額賃金制ノ場合ニ於テハ新ニ當工場ニ入社セル工員ニシテ勤続三ヶ月(三十歳以上四十歳未満ノ者ニ在リテハ六ヶ月)未滿ノ未經驗者及勤続六ヶ月未滿ノ經驗者ノ一日ノ就業時間(休憩時間ヲ含ム以下之ニ同ジ)十時間以内ノトキ

ニ於ケル賃金ハ前各條ノ定ムル所ニ拘ラズ其ノ最高額ハ左ノ通トス
 一日ノ就業時間十時間ヲ超ユル場合ノ最高額ハ十時間ヲ超ユル一時間毎ニ前項ノ最高額ニ其ノ十分ノ一ニ相當スル額(一時間未滿ノ就業ニ付テハ此ノ割合ヲ以テ算出シタル額)ヲ加算シタルモノトス
 請負賃金制ノ場合ニ於テハ最高額ノ制限ヲ每一月ノ賃金ニ付爲スモノトシ前二項ニ準ジ就業日毎ニ算出シタル額ノ總額ヲ以テ毎月ノ最高額トス
 第一項ノ場合ニ於ケル經驗業ノ勤續期間ノ計算ハ徵用ニ依リ新ニ當工場ニ入社スルモノニ付テハ從前ノ工場ノ勤續期間ヲ加算スルモノトス

男子經驗ノ最高額			男子經驗ノ最高額		
年齢階級別	金額	年齢階級別	金額	年齢階級別	金額
一三歳以上 一四歳未滿	七圓八錢	一三歳以上 一四歳未滿	七圓八錢	一三歳以上 一四歳未滿	七圓八錢
一四歳以上 一五歳未滿	八圓五錢	一四歳以上 一五歳未滿	八圓五錢	一四歳以上 一五歳未滿	八圓五錢
一五歳以上 一六歳未滿	九圓一錢	一五歳以上 一六歳未滿	九圓一錢	一五歳以上 一六歳未滿	九圓一錢
一六歳以上 一七歳未滿	一〇圓四錢	一六歳以上 一七歳未滿	一〇圓四錢	一六歳以上 一七歳未滿	一〇圓四錢
一七歳以上 一八歳未滿	一〇圓七錢	一七歳以上 一八歳未滿	一〇圓七錢	一七歳以上 一八歳未滿	一〇圓七錢
一八歳以上 一九歳未滿	一三圓〇錢	一八歳以上 一九歳未滿	一三圓〇錢	一八歳以上 一九歳未滿	一三圓〇錢
一九歳以上 二〇歳未滿	一四圓三錢	一九歳以上 二〇歳未滿	一四圓三錢	一九歳以上 二〇歳未滿	一四圓三錢
二〇歳以上 二一歳未滿	一五圓六錢	二〇歳以上 二一歳未滿	一五圓六錢	二〇歳以上 二一歳未滿	一五圓六錢
二一歳以上 二二歳未滿	一七圓五錢	二一歳以上 二二歳未滿	一七圓五錢	二一歳以上 二二歳未滿	一七圓五錢
二二歳以上 二三歳未滿	一九圓四錢	二二歳以上 二三歳未滿	一九圓四錢	二二歳以上 二三歳未滿	一九圓四錢
二三歳以上 二四歳未滿	二一圓三錢	二三歳以上 二四歳未滿	二一圓三錢	二三歳以上 二四歳未滿	二一圓三錢
二四歳以上 二五歳未滿	二二圓八錢	二四歳以上 二五歳未滿	二二圓八錢	二四歳以上 二五歳未滿	二二圓八錢
二五歳以上 二六歳未滿	二五圓〇錢	二五歳以上 二六歳未滿	二五圓〇錢	二五歳以上 二六歳未滿	二五圓〇錢
二六歳以上 二七歳未滿	二八圓	二六歳以上 二七歳未滿	二八圓	二六歳以上 二七歳未滿	二八圓
二七歳以上 二八歳未滿	二八圓	二七歳以上 二八歳未滿	二八圓	二七歳以上 二八歳未滿	二八圓
二八歳以上 二九歳未滿	三五圓	二八歳以上 二九歳未滿	三五圓	二八歳以上 二九歳未滿	三五圓
二九歳以上 三〇歳未滿	三五圓	二九歳以上 三〇歳未滿	三五圓	二九歳以上 三〇歳未滿	三五圓

考	備	女子 ノ 最高額	女子 ノ 最高額	年 齡 階 級 別	最高額	
					十 年 以 上	五 年 以 上 十 歲 未 滿
八	最高額ニハ左ノ給與ヲ含マザルモノトス	九三	八二錢	一四歲以上 二四歲未滿		
七	一ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ	一一四	八八錢	一六歲以上 二六歲未滿		
六	二ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ	一二七	九五錢	一八歲以上 二八歲未滿	二二四	
五	三ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ	一三七	一〇九錢	二〇歲以上 三〇歲未滿	二三八	
四	四ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ	一五二	一一九錢	二〇歲以上 三〇歲未滿	二五七	
三	五ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ					二八〇
二	六ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ					三〇八
一	七ノ月ニ付當該勞務者ノ基本給三分又健康保險法施行令第三條ノ規定ニ依リ定ムル標準報酬日額二分ヲ超ヰテ					三三九

一六〇

第十五條 賞與ハ毎年六月及十二月ノ二回一般工員ニ對シ之ヲ支給ス

賞與ノ額ハ支給ノ都度之ヲ定ムルモノトス

第十六條 工員寄宿舎又ハ之ニ準ズル施設ニ宿泊スルトキハ毎月左ノ通徴收ス

一 宿 泊 料 三 圓
二 食 事 九 圓

第十七條 賃金支拂ノ際別ニ定ムル貯蓄規程ニ依ル貯蓄額ヲ毎月各自ノ受クベキ賃金ヨリ控除ス

賃金實收月額 百圓未滿 百分ノ五
百圓以上 百分ノ七
百五十圓未滿 百分ノ七
百五十圓以上 百分ノ十

第十八條 徵用工員ノ父母妻子ノ死亡(危篤ヲ確認シタル場合ヲ含ム)ノ際ニ於ケル工員ノ歸省ニ付テハ往復旅費ヲ支給シ

徵用工員ノ危篤死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ニ付テハ家族二人ヲ限り往復旅費及必要ナル滞在期間中ノ滞在費ヲ支給ス

(本條ハ徵用工場ニ限ル)

第十九條 工員徵用満期ニ依リ徵用解除トナリタル際ニハ其ノ者ノ標準報酬日額ノ二十日分(其ノ額ガ三十圓ニ滿タザルト

キハ三十圓)ヲ下ラザル限度ニ於テ所管勞務監理官ノ裁定ヲ得タル慰勞金ヲ支給ス(本條ハ徵用工場ニ限ル)

六 工員賃金規則記載注意

一六二

- 一 賃金締切ノ期間及支拂ノ期日並ニ方法ニ關スル事項
所定ノ支拂期日ニ拘ラズ賃金ヲ支拂フベキ場合ニ關スル規定ハ必ず之規ヲ定スルコト
参照 別紙賃金規則記載例(以下記載例ト稱ス) 第二條、第三條
- 二 定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額ニ關スル事項
(イ) 男女、年齢、學歷、經驗、作業ノ種類、技倆等ニ依リ異ナル定アルトキハ各別ニ記載スルコト
(ロ) 月給、日給又ハ時給ノ別ヲ明ニスルコト
(ハ) 可成實際ノ標準額ヲ表示シ特別ノ取扱ニ付テハ但書、備考等ニ依リ之ヲ明確ニスルコト
参照 記載例第四條乃至第六條
- 三 請負賃金ニ於ケル保證給ノ初給額及最低額ニ關スル事項
(イ) 保證給ノ最低額ハ定額給ヲ下ラザルコト
(ロ) 定額給ヲ保證スル場合ハ其ノ旨ノ記載ヲ以テ足ルコト
(参照) 記載例第十一條(一)ノ(イ)ノ算式ノ但書
- 四 賃金計算ノ基礎ト爲ルベキ所定就業時間ニ關スル事項
(イ) 工員ノ一部ニ付日給ノ基礎トナルベキ就業時間ヲ異ニスル定アル場合ニ於テハ之ヲ明確ニスルコト

- (ロ) 基本給算定ニ關スル規定ヲ記載スルコト
基本給算定ノ算式ニ關係アル事項ニシテ説明ヲ要スルモノハ必ず規定スルコト
特ニ就業時間ニ付テハ休憩時間ヲ含ム場合ト實働時間ニ依ル場合トヲ明確ニスルコト
(ハ) 就業時間又ハ實働時間ノ端數ノ切捨又ハ切上ノ取扱ヲ爲ス場合ハ其ノ旨ヲ明記スルコト
五 遅刻又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法ニ關スル事項
工員自己ノ都合ニ依ラズ又ハ公傷病ニ依リ退場シタル場合ニ其ノ基本給算定ニ付特別ノ取扱ヲナストキハ其ノ旨記載スルコト
- 六 單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ關スル事項
1 賃金算定方法ニ關スル事項
(イ) 賃金算定方法ハ個人ノ受取算定迄明確ナラシムルコト
(ロ) 分配係數、成績係數等各種係數ヲ用フル場合ハ其ノ内容ヲ明ニスルコト、其ノ係數等ノ決定ニ付自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ニスルコト
(ハ) 資材、作業ノ種類等ニ依リ又ハ個人ノ勤務狀況等ニ依リ一般請負利益率又ハ個人分配率ニ付自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ニスルコト
(ニ) 賃金算定方式毎ニ其ノ適用ヲ受クル勞務者ノ種類ヲ作業種類又ハ聲業名等ニ依リ記載スルコト
(ホ) 一定率ニ依ル獎勵加結等モ請負賃金制ニ於ケル賃金算定法ニ準ジ記載スルコト
- 2 請負單價、請負時間又ハ請負歩合

一六三

(イ) 請負單價等ハ原則トシテ其ノ全部ヲ列擧スルコト但シ作業又ハ製品ノ種類多數ナルトキハ其ノ主要ナルモノニ付記載スルヲ以テ足り同種ノ製品ノ製造又ハ同種ノ作業ガ長期繼續セザルモノナルトキハ此ノ記載ヲ省略スルヲ得ルコト

(ロ) 請負單價等ノ記載ハ標準額ヲ以テシ、之ニ依ラザル場合ハ其ノ取扱基準ヲ記載スルコト

參照 記載例第十條

七 手當ヲ支給スルトキハ其ノ名稱及額又ハ率竝ニ給與條件ニ關スル事項

(イ) 額又ハ率ハ一定數ニ依リ明確ナラシムルコト

(ロ) 給與條件ニ於テ自由裁量ノ餘地アルモノハ其ノ限度ヲ明確ナラシムルコト

(ハ) 家族手當、入營應召手當等詳細ナル規定ヲ要スルモノハ別紙トスルコト

參照 記載例第十二條

八 實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類數量評價額及給與條件ニ關スル事項

白米、精麥、食事ノ給與及住宅ノ給與ニ付テハ昭和十五年十月厚生省告示第三百二十三號ニ依ル評價額ヲ記載スルコト
其ノ他ノ實物給與ノ評價額ハ時價ヲ記載スルコト

參照 記載例第十三條

九 賃金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定メ宗旨ニ關スル事項

(イ) 貯蓄ノ種類竝ニ貯蓄ノ率又ハ額ヲ記載スルコト

(ロ) 勞務者ノ身分、收入、家族數等ニ依リ貯蓄ノ率又ハ額ガ異ナルトキハ之ヲ明ラカナラシムルコト

參照記載例 第十七條

十 其ノ他賃金ニ關シ必要ナル事項

七 工員昇給内規記載例

第一條 昇給期日ハ毎年二回トシテ昇給資格ヲ有スルモノニ六月二十五日及十二月二十五日ニ之ヲ行フモノトス

第二條 昇給調査期日ハ昇給期日ノ前月二十五日トス

第三條 前昇給ニ於ケル昇給調査期日ヨリ當該昇給調査期日迄ニ左ニ掲グル期間ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス但シ新ニ從事シタル者ニ付テハ當該昇給調査期日迄ニ三ヶ月ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス

賃 金 經過期日

六ヶ月日給二圓五十錢未満 六ヶ月

日給二圓五十錢以上 一ヶ月

第四條 昇給調査期日前六ヶ月ニ付缺勤三十日、一ケ年ニ付缺勤六十日ヲ超エタル場合ニハ當該期ニ限り昇給セシメザルコトアルベシ但シ左ニ掲グル日數ハ缺勤日數ニ計算セズ

一 特ニ休業ヲ命ジタル場合ノ日數

二 業務上傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ休業シタル日數

三 軍事參會、公務出頭又ハ忌引若ハ法要ノ爲休業シタル日數ニシテ工員ニシテ規則第〇〇條ニ定ムル日數

第五條 遅刻又ハ早退三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ前條ノ缺勤日數ニ算入ス但シ不可抗力ニ因ル遅刻其ノ他已ムラ得ザル事由ニヨル早退ヲ除ク

第六條 工員第三條ノ期間内ニ就業規則ノ定ムル所ニ依リ左記回數懲戒セラレタル者ハ當該期ニ限り昇給セシメザルコトアルベシ

隨 責 一回以上

其ノ他ノ懲戒 一回以上

第七條 一回ノ昇給額ハ左ノ通トス

賃 金 最高 標準 最低

日給一圓五十錢未満 〇〇錢

同 一圓五十錢以上 〇〇錢

同 二圓五十錢未満 〇〇錢

同 二圓五十錢以上 〇〇錢

第八條 養成工ノ昇給ハ第一條乃至第三條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通トス但シ技術、勤続成績ニ依リ此ノ額ノ三割ノ範圍内ニ於テ増減スルコトアルベシ

學 年	昇給月日	九月二十五日	三月二十五日
第一學年	〇	〇	〇
第二學年	〇	〇	〇
第三學年	〇	〇	〇
第四學年	〇	〇	〇

第九條 工員召集解除若ハ除隊又ハ徵用解除等ノ場合ニ於テハ前各條ニ拘ラズ他ノ工員ニ比シ昇給ノ遅レタルヲ回復セシムルモノトス（入營又ハ應召中ノ者ニ對シテハ第四條ニ拘ラズ昇給期毎ニ所定ノ昇給ヲナスモノトス）

八 從業員教養計畫記載例

一、根本方針

産業人ヲシテ團體ノ本義ニ徹セル産業報國精神ヲ體得セシメ之ヲ業務並ニ日常生活ノ上ニ顯現セシメ勞働力ノ維持培養並ニ作業能率ノ増進ヲ圖リ以テ生産力ノ増強ニ資セントス

二、實施計畫

一、一般的教養

1 行事ヲ通ジテ行フ教養

(イ) 朝禮 毎朝作業開始前成ルベク全員同一ノ場所ニ於テ行フ

國旗掲揚、宮城遙拜、黙禱、綱領等ノ朗讀、愛國歌等ノ朗詠、朝ノ挨拶等

(ロ) 終禮 作業終了後一齊ニ行フ但シ事情ニ依リ職場毎ニ之ヲ行フモ差支ナシ

神前禮拜、歸リノ挨拶、國旗降納等

(ハ) 四大節及大詔奉戴日

國旗掲揚、宮城遙拜、國歌齊唱、勅語捧讀、黙禱、奉祝歌、訓話等

2 業務ヲ通ジテ行フ教養

概ネ左ノ事項ニ付主トシテ職長其ノ責任者トナリ之ヲ指導スルモノトス

- (イ) 製品ヘノ自己人格ノ没入
- (ロ) 機械、工具、電力、熱及資材ノ愛護節約
- (ハ) 職場ノ整理整頓及美化
- (ニ) 作業工程ニ於ケル工夫改善
- (ホ) 技能ノ向上
- (ヘ) 安全ノ徹底

3 職場ニ於ケル教養

- (イ) 毎月一回必ズ各職場ニ於テ常會ヲ開キ過去ノ反省ト將來ノ實施事項ニ付協議懇談スルモノトス
- (ロ) 常會及懇談會ノ場合ニハ開會ニ先立チ國民儀禮ヲ行フコト
- (ハ) 職場規律ノ確立

4 各種施設ニ依ル教養

- (イ) 講演會ニ依ル教養
少クトモ毎月一回(大詔奉戴日又ハ給料日等)ニ名士ヲ招聘シテ講演會ヲ開キ全従業員ヲ聽講セシムルコト
- (ロ) 講習會ニ依ル教養
年少クトモ一回一般工員ヲ對象トスル知識技能ヲ教授スル講習會ヲ開設シ全工員交代ニテ聽講セシムルコト

(ハ) 鍊成會ニ依ル教養

少クトモ隔月ニ一回行フ中心トスル鍊成會ヲ開設シ従業員ノ精神的鍊成ヲナスコト 此ノ場合勞務關係ノ職員ハ成ルベク工員ト共ニ鍊成ヲ受ケ、相互ニ人格的接觸ヲ保ツニ努ムルコト

(ニ) 映畫、演藝ニ依ル教養

少クトモ毎月一回映畫會ヲ開キニュース映畫、文化映畫及有益ナル劇映畫等ヲ觀賞セシムルコト(廳府縣及産報中央本部及廳府縣産報等ノ主催ノモノヲ含ム) 各種演藝モ隨時開催スルモノトス

(ホ) 音楽ニ依ル教養

各職場ニ擴聲器ヲ設ケ作業ノ前後及休憩等ニラジオ、音盤等ニ依ル音楽ヲ放送スルコト
映畫會、演藝會等ノ開催ノ際ニ音盤ニ依ル音楽教養ヲ爲スコト

(ハ) 文書、圖書ニ依ル教養

事業場内ニ圖書室ヲ設ケ有益ナル圖書、新聞、雜誌等ヲ備付ケ従業員ノ閲讀ノ用ニ供スルコト
巡回文庫ヲ設クルコト
時局教育ノ爲ニ揭示場等ニ時局ニ關スル各種ノ資料ヲ掲載シ従業員ノ閲覽ニ供スルコト

(ト) 武道ニ依ル精神訓練

武道場ヲ設ケ従業員ニ對シ武道ヲ通ジ精神訓練ヲ施スコト
日常生活ヲ通ジテ行フ教養

概ネ左ノ事項ニ付主トシテ五人組制度又ハ生活刷新班ヲ活用シ相互ニ切磋共勵ヲ爲サシムルモノトス

- (イ) 神棚禮拜
- (ロ) 無缺勤、無遅刻ノ勵行
- (ハ) 通勤訓練

通勤ノ途中秩序アル行動ヲトル様訓練スルコト

- (ニ) 消費節約ノ徹底及貯蓄ノ獎勵
- (ホ) 軍事授護ノ實施
- (ヘ) 健全娛樂(尺八、謡曲、詩吟、朗詠、碁、將棋等)
- (ト) 生活ノ刷新

二、職員ニ對スル教養

(甲) 勞務關係擔當職員ニ對スル教養

1 教養ノ指標

- (イ) 國體ノ本義ニ基ク皇國産業ノ經營、指導者トシテノ人格、識見、信念及指導力ヲ鍊成スルコト
- (ロ) 親心ヲ以テ勞務者ヲ指導シ彼等ノ職場ヲシテ喜ンデ御奉公ニ精進シ得ル明朗快適ナル場所ヲラシムル可ク常ニ勞務者管理ニ工夫改善ヲ加フル態ノ熱意ト能力ヲ鍊成スルコト

2 教養ノ方法

(イ) 鍊成會

少クトモ年二回全員ガ鍊成ヲ受ケ得ル如ク行ヲ中心トスル鍊成會ヲ行フコト

(ロ) 講習會、研究會

概ネ隔月ニ一回位、時局問題若ハ特定ノ研究問題ニ付講師ヲ招聘シ聽講スルカ又ハ講師ヲ招カズシテ研究會ヲ催シ相互啓發ヲ圖ラシムルコト

(乙) 其ノ他ノ職員ニ對スル教養

1 鍊成會

少クトモ二年ニ一回全員ガ鍊成ヲ受ケ得ル如ク行ヲ中心トスル鍊成會ヲ行フコト

2 研究會

隨時研究會ヲ開催シ相互啓發ヲ圖ラシムルコト

三、職長ニ對スル教養

1 教養ノ指標

- (イ) 皇國産業人ノ指導者トシテノ人格、識見、信念及指導力ヲ鍊成スルコト
 - (ロ) 受持職場ニ於ケル指導者トシテノ技能及生産管理ニ關スル能力ヲ鍊成スルコト
 - (ハ) 上級指揮者ト部下工員トノ連鎖タルノ役割ヲ果ス者トシテノ鍊成ヲナスコト
- 2 教養ノ方法
- (イ) 鍊成會

各職長ガ少クトモ年一回ツツ鍊成ヲ受ケ得ル様鍊成會ヲ開催スルコト

(ロ) 講習會

職長トシテノ知識、技能ヲ修得セシムル講習會ヲ少クトモ年ニ一回行フコト(鍊成會ト併セ行フコトヲ得、尙技能者養成所ニ於テ教育ヲ受クル者ニ對シテハ之ヲ要セス)

(ハ) 相互啓發座談會

職場單位ヲ以テ少クトモ月一回一定ノ指導者ノ司會ノ下ニ豫メ供與サレタル課題ヲ中心トシテ意見ノ交換、研究討議等ヲ行フコト

四、青少年従業員ニ對スル訓練

技能者養成所及青年學校ニ於テ教養訓練ヲ行フ外産業報國青年隊ヲ結成セシメ之ヲ通ジテ産業青年トシテノ特殊ナル教養訓練ヲ行フモノトス

其ノ事概ネ左ノ如シ

(イ) 嚴格ナル規律訓練

(ロ) 寄宿其ノ他ニ於ケル日常生活ノ指導

(ハ) 音樂教育

(ニ) 軍隊式生活訓練

(ホ) 幕營訓練

(ヘ) 健全娛樂ノ指導

(ト) 讀書會、研究會ノ指導

五、新入工員、社員ニ對スル教養

(甲) 新入工員ニ對スル教養(技能者養成令ニ基キ教養ヲナス場合ハ之ニ依ル)

1 鍊成會

入社直後少クトモ五日間行ヲ中心トスル鍊成會ヲ開催シ皇國産業戰士トシテノ基礎訓練ヲ行フコト

2 講習會

鍊成會終了後講習會ヲ開催シ概ネ左ノ課目ニ付講習ヲ行フコト

(イ) 産業報國精神

(ロ) 事業ノ使命

(ハ) 工員ノ遵守事項及必要ナル法令

(ニ) 安全衛生

(ホ) 技術教育(専門的作業法)

3 實習

概ネ一ヶ月間標準作業方法ノ實習ヲ行フ

4 寄宿舎ニ於ケル生活訓練

健全明朗ニシテ規律正シキ生活ニ馴レシメル爲專任ノ舍監ヲ配シ少クトモ一ヶ月特別訓練ヲ行フト共ニ常ニ家庭トノ連絡ヲ圖リ親心ヲ以テ生活指導ヲナスコト

5 職場ニ於ケル職長ニ依ル生活指導

青年學校、青年隊等ノ訓練ト同調セシムル爲職長ハ生活指導ノ責ニ任ズルモノトス

(乙) 新入社員ニ對スル教養

1 技術社員ニ對スル教養(技能者養成令ニ基キ教養ヲナス場合ハ之ニ依ル)

(イ) 鍊成會(新入社員ニ對スル教養ニ準ズ)

(ロ) 講習會

新入社員ニ對スル教養ニ準ズルノ外更ニ勞務管理ニ付講習ス

(ハ) 實 習

將來實力ヲ以テ部下ヲ率ヒ生産管理ノ責ヲ果シ得ル様少クトモ六月間作業場ニ於テ實習ヲ課スルコト

2 事務社員ニ對スル教養

(イ) 鍊成會(新入社員ニ對スル教養ニ準ズ)

(ロ) 講習會

新入社員ニ對スル教養ニ準ジテ行フノ外特ニ勞務管理ニ重點ヲ置キ講習ス

(ハ) 實 習

少クトモ一月間現場ニ配置シ生産管理ニ付理解ヲ持タシムル様作業ノ體驗ヲ爲サシムルコト

六、女子工員ニ對スル教養

一 鍊成會

少クトモ毎年一回鍊成ヲ受ケ得ル様鍊成會ヲ開催シ日本婦人トシテノ婦徳ヲ涵養セシムルコト

二 集團訓練

平素體操、團體教練、團體競技等ニ依リ團體行動ニ習熟セシムルコト

三 講習會

看護法、非常炊爨、育兒、衛生、家事、音樂等ノ講習ヲ隨時開催スルコト

九 従業員ニ對スル體育計畫記載例

一、根本方針

作業ニ依ル體力使用ノ不均衡ノ是正ト疲勞ノ恢復トヲ圖リ以テ勤勞者ノ體位ノ向上ヲ期スルト共ニ精神ノ陶冶ト團體的訓練ヲ行ヒ以テ生産増強ニ資セシメントス

二、實施計畫

- (一) 體育ニ關スル知識技能ヲ有スル指導主任ヲ置キ體育ニ關シ統轄指導ノ任ニ當ラシム
- (二) 右主任者ノ下ニ五十人又ハ一職場ヲ單位トシ職員又ハ勞務者中ヨリ適任者ヲ選ビ體育指導係ト爲シ日常ノ體育實踐指導ニ當ラシムルコト
- (三) 成ルベク勞務者ノ利用シ得ル運動場ヲ設クルコト
- (四) 毎日就業時間十分以上ノ體操ヲ全従業員ニ對シ實施スルコト
- (五) 少クトモ年二回全従業員ノ體育大會ヲ實施スルコト(他ノ重要事業場ト共同ニテ行フモ可)

十 重要事業場厚生施設計畫基準

一、基本方針

今日ニ於ケル勞務管理ハ最早勞資間ノ私事ニ非ズ職場ヲシテ凡テノ勞務者ガ明朗快活ニ御奉公ニ精進シ得ル場所ヲラシムル爲ノ國家的意義ヲ有スル公事タル性格ヲ有ツニ至リタルヲ以テ出來得ル限り厚生施設ノ整備ヲ圖ラントスルモ資材不足ト資金融調整ノ嚴重ナル時局下ニ鑑ミ、其ノ要求ヲ最少限度ニ止メ以テ兩面ニ於ケル國家的要請ノ調和ヲ求メントス

二、實施計畫

(一) 給食施設

1 炊事場

概ネ左ノ標準ニ依リ坪數ヲ決定ス

(イ) 勞務者一、〇〇〇人以下ナルトキ

勞務者一人當〇、一〇坪(規模ハ別記)

(ロ) 勞務者五、〇〇〇人以下ナルトキ

一〇〇坪ニ勞務者一、〇〇〇人以上一人ヲ増加スル毎ニ〇、〇二五坪ヲ

加算シタル面積

(ハ) 勞務者五、〇〇〇人ヲ超ユルトキ 二〇〇坪ニ勞務者五、〇〇〇人以上一人ヲ増加スル毎ニ〇、〇一五坪ヲ
 加算シタル面積 一八〇

別記

一 調理場	三五、〇坪
一 食品倉庫	一二、五坪
一 事務室	五、〇坪
一 汽罐室	八、〇坪
一 炊事夫住宅	三〇、〇坪
一 其ノ他	九、五坪
計	一〇〇、〇坪

2 食堂

勞務者一人當リ〇、二五坪ノ割合ヲ以テ算出シタル坪數トス但シ勞務者二、〇〇〇人ヲ超ユル重要事業場ニ在リテハ食
 事ヲニ交代制トナスコトヲ得

3 栄養士

常時一、〇〇〇人以上ノ勞務者ニ給食スル重要事業場ニ在リテハ必ズ栄養士(中等學校卒業者ニシテ専門ノ知識ヲ修メ
 タル者)ヲ置クコト

4 炊事夫

給食勞務者一、〇〇〇人以下ナルトキハ炊事夫ハ一〇人乃至一五人ヲ置クコト、給食勞務者一、〇〇〇人以上ナルトキ
 一、〇〇〇人ヲ超ユル二〇〇人ヲ増加スル毎ニ一人ヲ増ス

5 栄養委員會

(イ) 勞務者一、〇〇〇人以上ニ對シ給食スル重要事業場ニ在リテハ栄養委員會ヲ設置スルコト
 (ロ) 委員會ハ概ム左ノ者ヲ以テ組織ス

- 一 栄養士
- 一 炊事夫
- 一 工場醫
- 一 勞務管理者
- 一 勞務者代表
- 一 其ノ他適當ナル者

6 食事時間

(ハ) 委員會ハ少クトモ毎月一回之ヲ開催シ栄養對策ニ關シ協議懇談ヲナスモノトス
 食事時間ハ食後ノ休憩時間ヲ含メ少クトモ四十五分程度トナスコト

7 炊事場ノ取締

- (イ) 炊事場ノ建築及設備ハ概ネ左ニ依ルコト
- 一 建築面積ハ敷地ノ十分ノ五ヲ超エザルコト

- 一 屋根ハ軒高四米以上ニシテ越屋根造トナシ且適當ナル勾配ヲ存スルコト
 - 一 腰壁ハ鐵筋「コークリート」等ノ耐水性トナシ少クトモ高サ一米以上ナルコト
 - 一 床ニハ「コンクリート」其ノ他不滲透質材料ヲ用ヒ少クトモ五分ノ一ノ勾配ヲ存スルコト
 - 一 良水ノ充分ナル供給設備ヲ爲スト共ニ排水溝ヲ設クルコト
 - 一 採光換氣ノ爲窓、採氣筒、照明器其ノ他必要ナル設備ヲ爲スコト
 - 一 防蟻ノ爲出入口ハS字型暗路トシ窓ハ總テ金網ヲ以テ掩フコト
 - 一 従業員ノ爲ノ食事場、更衣室等ハ調理場及炊事場ト區別スルコト
 - 一 汽竈室、塵芥置場、便所等ハ調理室ヨリ少クトモ四米ヲ距ツルコト
- (ロ) 炊事従業員ヲシテ毎月一回健康診断ヲ受ケシムルコト
- (ハ) 事業主ハ精神病者、傳染性疾患アル者若クハ其ノ疑アル者ヲ炊事業務ニ従事スルコトヲ得ズ
- (ニ) 食料品及食器ノ消毒ヲ嚴重ニナスコト
- (ホ) 實行獻立表ヲ常備シ置クコト
- (ハ) 炊事従業員ハ清潔ナル作業衣及帽子ヲ着用スルコト

(三) 診療施設

↑ 常時勞務者一、〇〇〇人以上ヲ有スル重要事業場ニ於テハ其ノ事業場内ニ概ム左ノ規模ヲ有スル診療所ヲ設クルコト
 勞務者五、〇〇〇人以上ノ場合ニハ之ニ準ジ規模ヲ擴張スルコト

(イ) 建物——概ム一〇〇〇坪トス

内 譯

診 療 室	五・〇〇坪
處 置 室	三・七五
衛 生 細 菌 檢 査 室	八・七五
レ ン ト ゲ ン 室	八・七五
暗 室	二・五〇
休 養 室	八・七五
醫 師 室	三・七五
看 護 婦 室	六・二五
待 合 室	五・〇〇
小 使 室	三・〇〇
物 置	二・五〇
宿 直 室	三・〇〇
便 所	三・〇〇
廊 下	三・四〇
其 他	二・〇〇

(ロ) 人的構成——醫師 一人

2 事業場ヨリ〇、五料以内ニ開業醫アリ之トノ特別ノ契約ニ依リ何時タリトモ應急診療ヲ爲スルコト可能ナル場合ニ在
リテハ其ノ事業場内ニ診療所ヲ設クルコトヲ要セズ左ノ規模ヲ有スル診療室ヲ設クルニ止ムルコトヲ得ルコト

- 一 建坪 一〇坪
- 一 病床 二床
- 一 看護婦 一人
- 一 應急藥品 一揃

(三) 保育所

常時女子勞務者二〇〇人以上ヲ有スル重要事業場ニ在リテハ概ム左ノ標準ニ依ル保育所ヲ設クルモノトス

1 建物

- (イ) 乳兒五名 幼兒二五名 計三〇名ノ場合
 - 一 乳兒室 五坪
 - 一 幼兒室 二〇坪
 - 一 保母室兼靜養室 三坪
 - 一 調理室 二坪
 - 一 便所 三坪
 - 一 廊下 六坪

(ロ) (イ)ノ數ヲ超ユル場合ハ乳幼兒一人ヲ加フル毎ニ一、三坪宛増加スルモノトス

2 保母

- (イ) 乳幼兒 一〇〇人以下ナルトキ保母一人、助手一人トス
- (ロ) 乳幼兒 一〇〇人以上ナルトキ保母一人、助手二人トス

附軍需會社一覽

第一次指定會社

(昭和十九年一月十八日
軍需省、陸軍省、海軍省、運輸通信省告示第一號)

- | | | | |
|--------------|--------------|-------------|--------------|
| 三菱重工業株式會社 | 石川島航空工業株式會社 | 日本建鐵工業株式會社 | 日野重工業株式會社 |
| 中島飛行機株式會社 | 日本樂器製造株式會社 | 愛知時計電機株式會社 | 池貝自動車製造株式會社 |
| 川崎航空機工業株式會社 | 住友金屬工業株式會社 | 東京光學機械株式會社 | 日本造船株式會社 |
| 立川飛行機株式會社 | 株式會社東京飛行機製作所 | 東京航空計器株式會社 | 沼津兵器株式會社 |
| 日本國際航空工業株式會社 | 東京航空機株式會社 | 小西六寫真工業株式會社 | 關東工業株式會社 |
| 愛知航空機株式會社 | 富士飛行機株式會社 | 株式會社川西機械製作所 | 九州兵器株式會社 |
| 川西航空機株式會社 | 太刀洗航空機株式會社 | 田中航空計器株式會社 | 旭兵器製造株式會社 |
| 昭和飛行機株式會社 | 松下航空工業株式會社 | 住友通信工業株式會社 | 關東電氣興業株式會社 |
| 日本飛行機株式會社 | 中島航空金屬株式會社 | 日本無線株式會社 | 東京製鋼株式會社 |
| 九州飛行機株式會社 | 日本光學工業株式會社 | 松下無線株式會社 | 函館船渠株式會社 |
| 日立航空機株式會社 | 中央工業株式會社 | 日本電池株式會社 | 三井造船株式會社 |
| | | 湯淺電池製造株式會社 | 株式會社東京石川島造船所 |
| | | 富士電機製造株式會社 | 浦賀船渠株式會社 |
| | | 日本電氣兵器株式會社 | 川南工業株式會社 |
| | | 株式會社芝浦製作所 | 株式會社播磨造船所 |
| | | 日立兵器株式會社 | 株式會社永田造船所 |
| | | 株式會社服部時計店 | 日立造船株式會社 |

日本製鋼株式會社
 日本鋼管株式會社
 株式會社中山製鋼所
 株式會社尼崎製鋼所
 小倉製鋼株式會社
 川崎重工業株式會社
 日本冶金工業株式會社
 株式會社神戸製鋼所
 株式會社日立製作所
 株式會社日本製鋼所
 大同製鋼株式會社
 日本特殊鋼株式會社
 特殊製鋼株式會社
 三菱製鋼株式會社
 日本輕金屬株式會社
 日本曹達株式會社
 昭和電工株式會社
 日本アルミニウム株式會社
 住友化學工業株式會社
 住友アルミニウム製鍊株式會社

日東化學工業株式會社
 國產輕銀工業株式會社
 大日本化學工業株式會社
 淺野セメント株式會社
 東北振興アルミニウム株式會社
 理研金屬株式會社
 關東電氣工業株式會社
 帝國マグネシウム株式會社
 旭電氣工業株式會社
 信越化學工業株式會社
 日本マグネシウム株式會社
 古河電氣工業株式會社
 日立精機株式會社
 芝浦工作機械株式會社
 大日本兵器株式會社
 三菱工作機械株式會社
 大阪機工株式會社
 株式會社唐津鐵工所
 株式會社大隈鐵工所
 株式會社新潟鐵工所

株式會社池貝鐵工所
 東洋工業株式會社
 三井精機工業株式會社
 株式會社津上安宅製作所
 日本精工株式會社
 東洋ベアリング株式會社
 不二越鋼材工業株式會社
 住友電氣工業株式會社
 東京芝浦電氣株式會社
 三菱電機株式會社
 芝浦共同工業株式會社
 住友機械工業株式會社
 株式會社小松製作所
 關東特殊製鋼株式會社
 株式會社久保田鐵工所
 日產自動車株式會社
 トヨタ自動車工業株式會社
 チーゼル自動車工業株式會社
 日本內燃機株式會社
 東洋高壓工業株式會社
 日本窒素肥料株式會社

日窒化學工業株式會社
 三井化學工業株式會社
 保土谷化學工業株式會社
 日本化成工業株式會社
 日本合成化學工業株式會社
 日本火藥製造株式會社
 旭硝子株式會社
 日本油脂株式會社
 昭和農產化工株式會社
 合同酒精株式會社
 ミヨシ化學興業株式會社
 大日本油脂製造株式會社
 日本特殊油製造株式會社
 日本石油株式會社
 三菱石油株式會社
 東亞燃料工業株式會社
 昭和石油株式會社
 丸善石油株式會社
 三池石油合成株式會社
 日產液體燃料株式會社
 尼崎人造石油株式會社

第二次指定會社

(昭和十九年四月二十七日
 軍需省、陸軍省、海軍省、運輸通信省告示第二號)

宇部油化工業株式會社
 宇部興產株式會社
 北海道人造石油株式會社
 日本車輛製造株式會社
 汽車製造株式會社
 川崎車輛株式會社

田中車輛株式會社
 帝國車輛工業株式會社
 三井木船建造株式會社
 帝國特殊製鋼株式會社
 株式會社島津製作所
 松下造船株式會社

尼崎精工株式會社
 株式會社安積製作所
 株式會社安藤鐵工所
 株式會社石井鐵工所
 株式會社石川製作所
 石原產業株式會社
 石川島芝浦タービン株式會社
 株式會社伊藤鐵工所
 株式會社大塚製作所
 掛斐川電氣工業株式會社
 岩城硝子株式會社
 岩崎通信機株式會社
 岩城セメント株式會社
 株式會社白杵鐵工所
 株式會社歌橋製藥所
 宇治電氣化學工業株式會社
 株式會社宇都宮製作所
 株式會社宇野澤鐵工所
 宇部曹達工業株式會社
 瓜生製作株式會社
 株式會社英工會

株式會社江戶川工業所
 荏原鑄造株式會社
 株式會社荏原製作所
 惠美須屋工具工業株式會社
 遠州機械株式會社
 大阪製鎖造機株式會社
 大阪製鋼株式會社
 大阪特殊製鋼株式會社
 株式會社大阪造船所
 株式會社大阪アルミニウム製作所
 株式會社大阪機械製作所
 大阪窯業セメント株式會社
 大阪瓦斯株式會社
 大阪金屬工業株式會社
 大阪變壓器株式會社
 株式會社大川螺子製作所
 株式會社大原造船鐵工所
 大谷重工業株式會社
 近江航空工業株式會社
 株式會社岡本工作機械製作所

愛知化學工業株式會社
 青森縣造船株式會社
 株式會社赤坂鐵工所
 秋田造船株式會社
 秋木工業株式會社
 秋野糊帶材料工業株式會社
 株式會社秋田工場
 株式會社朝日奈鐵工所